SONY PCV-MX2

SONY

4-647-440-**01** (1)

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター
PCV-MX2

S400

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

7～14ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**

➡

❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

行為を指示する記号

強制

アース線を接続せよ

プラグをコンセントから抜く

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のDVD-ROMドライブおよびMDドライブが搭載されています。

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- □ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

目次

コンピュータの基本操作編

AV機能操作編

操作の前にお読みください

再生する

MDに録音する

MDを編集する

FMラジオ

タイマーを使う

好みのソフトウェアを自動的に起動する

動画／静止画で楽しむ

セットアップ編

音声・映像の設定を変更する

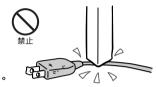
次のページにつづく

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。

むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたり、メモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。

本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。

内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

⚠警告 **下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。**

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。

指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。

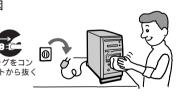
運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

コネクタはきちんと接続する

- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。

直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

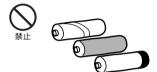
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠注意

市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

+と–の向きを正しく入れる

+と–を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

このマニュアルの使いかた

本書は、以下の章で構成されています。
また、本機にどのようなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「ご確認ください」をご覧ください。

❑ コンピュータの基本操作編

ここでは、本機をコンピュータとして使うときの基本的な使いかたを説明しています。コンピュータの操作に慣れていないかたはここからお読みください。特にコンピュータを初めてお使いになる方は「マウスを使う」（36ページ）や「キーボードを使う」（42ページ）、「文字を入力する」（52ページ）をお読みになり、コンピュータの基本的な使いかたをマスターすることをおすすめします。

❑ AV機能操作編

ここでは、音楽CDやDVDビデオを再生したり、MDを編集したり、FM文字放送を受信したり、静止画や動画を取り込むなど、本機のAV機能の使いかたについて説明しています。

❑ セットアップ編

ここでは、本機をお使いになる状況や好みに合わせて、音声や映像の設定を変更したり、Windows 98の画面の設定を変更する方法を説明しています。

❑ 拡張編

ここでは、本機のAV機能をさらに快適で楽しくお使いいただくために、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器やプリンタなどの周辺機器をつないだり、また本機を拡張したりする方法について説明しています。

❑ 困ったときは

本機の操作がわからなかったり、本機がうまく動作しないときにお読みください。トラブルの解決方法を説明しています。

❑ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

次のページにつづく

本文中で使われている記号について

記号	意味
(ヒントマーク)	知っていると便利な情報です。
PC	PCモードで使える機能です。
Audio	オーディオモードで使える機能です。
(リモコンマーク)	付属のリモコンを使って操作できる機能です。

PC、Audioおよび(リモコンマーク)は「AV機能操作編」と「セットアップ編」のみで使われています。
PCモードとオーディオモードについて詳しくは、「本機の動作モードについて」（68ページ）をご覧ください。

本書に記載されている表示窓のイラストについて
本書で使われている本機前面の表示窓のイラストは実際のものと異なる場合があります。

本機でできること

本機でできることの一部をご紹介します。詳しくは、それぞれの項目の右側の参照先の説明をご覧ください。本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「ご確認ください」をご覧ください。インターネットの接続については、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
音楽CD、MDを聞きたい、DVDビデオを見たい	「再生する」(76ページ)
音楽CDやFMラジオをMDに録音したい	「MDに録音する」(103ページ)
MDを編集したい	「MDを編集する」(117ページ)
FMラジオを聞きたい	「FMラジオを聞く」(119ページ)
FM文字放送を見たい	「FM文字放送を見る」(130ページ)
タイマー再生／タイマー録音したい	「タイマーを使う」(137ページ)
テレビを本機につないでDVDビデオなどを迫力ある大画面で楽しみたい	「テレビをつなぐ」(204ページ)
i.LINK対応機器から静止画や動画を取り込んで活用したい	「静止画／動画で楽しむ」(157ページ)
よく使うソフトウェアを自動的に起動したい	「好みのソフトウェアを自動的に起動する」(152ページ)
設定した時刻に電子メールを自動でチェックしたい	「タイマーで自動的に電子メールを確認する」(147ページ)

オンラインマニュアルの使いかた

この取扱説明書の内容や本機に付属のソフトウェアの取扱説明書、BIOSセットアップメニュー、内蔵モデムについての情報は、オンラインマニュアル*として本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。
また、本機に付属しているソフトウェアによっては、ヘルプをデスクトップ画面上でお読みいただけます。
*PDF（Portable Document Format）のファイルで付属しています。

デスクトップ画面とは

本機の電源を入れた後、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機がPCモード（68ページ）で電源が入っている状態で、次のように操作します。

ご注意

オーディオモード（68ページ）のときにはご覧になれません。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、読みたいオンラインマニュアルをクリックする。
ここでは、この取扱説明書の内容を表示させてみます。

本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、オンラインマニュアルが表示されます。

「Adobe Acrobat Reader」を初めて起動したときは

「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、同意する(A)をクリックしてください。

オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」のヘルプ(H)をクリックしてヘルプをご覧ください。

各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書またはオンラインマニュアルをご覧ください。

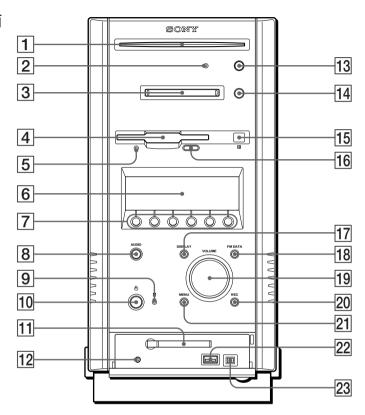
別冊の「ご確認ください」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

ヘルプとは

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 98などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

各部の名称と働き

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

前面

1 **DVD-ROMドライブ**（77**ページ**）
DVDビデオ、ビデオCD、音楽CDなどのディスクを再生したり、CD-ROMやDVD-ROMからデータを読み込んだりします。

2 **DVD-ROMドライブアクセスランプ**（77、85**ページ**）
DVDビデオ、ビデオCD、音楽CDなどのディスクを再生したり、CD-ROMやDVD-ROMからデータを読み込んでいるときにオレンジ色に点灯します。

3 **MDドライブ**（94**ページ**）
MDを挿入します。

4 **フロッピーディスクドライブ**（61**ページ**）
3.5インチのフロッピーディスクのデータを読み込んだり、書き込んだりします。

5 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ**（61、62**ページ**）
フロッピーディスクのデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

6 表示窓（25ページ）

本機がオーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）のとき、音楽CDやMDの再生中や録音中に、再生や録音の状態、ディスク名や曲名などが表示されます。

FMラジオ受信中は、FM放送局名や周波数、FM文字放送の情報などが表示されます。

7 マルチファンクションボタン（25ページ）

本機がPCモード（Windows 98が起動しているとき）のとき、「MX Stage」などのソフトウェアを起動するときに押します。

本機がオーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）のときは、音楽CDやMDを操作したり、FM放送局を選局するときに押します。

8 AUDIO（オーディオモード電源）ボタン（69ページ）

本機をオーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）で電源を入れるときに押します。

9 （ハードディスクアクセス）ランプ

ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

10 （電源）ボタンと電源ランプ（32ページ）

本機の電源を入れるときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。

本機の動作中にこのボタンを押すと、スタンバイモードに入り、電源ランプが赤色に点灯します。

11 PC CARD（PCカード）スロット（227ページ）

メモリカードなどのPCカードからデータを読み込んだり、書き込んだりします。

12 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ（206ページ）

市販のステレオヘッドホンをつなぎます。

13 （DVD-ROMイジェクト）ボタン（85ページ）

DVD-ROMドライブからディスクを取り出すときに押します。

14 （MDイジェクト）ボタン（97ページ）

MDを取り出すときに押します。

15 （リモコン受光部）

付属のリモコンを使うときは、ここに向けて操作します。

ご注意

リモコンを使うときは、（リモコン受光部）に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

⑯ **フロッピーディスクイジェクトボタン**（62**ページ**）
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

⑰ DISPLAY**ボタン**（89**ページ**）
本機がオーディオモードのとき、表示窓に表示される情報を切り替えるときに押します。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

⑱ FM DATA**ボタン**（127、132**ページ**）
本機がオーディオモードでFM文字放送を実施しているFM放送局を受信しているときに、表示窓にFM文字放送を表示／非表示するときに押します。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

⑲ VOLUME（**音量**）**つまみ**
音量を大きくするときには右へ、小さくするときは左へ回します。

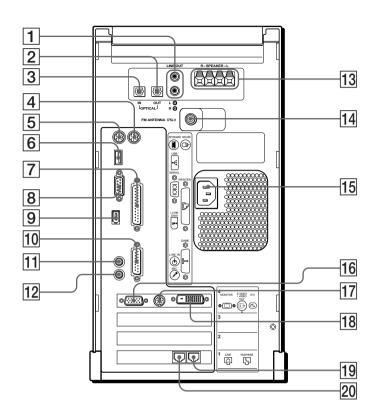
⑳ REC（**録音**）**ボタン**（89、109、115**ページ**）
オーディオモードで音楽CDやFMラジオをMDに録音するときに押します。押すと、MDは録音待機状態になります。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

㉑ MENU（**メニュー**）**ボタン**（252**ページ**）
オーディオモードのときに表示窓にメニューを表示するときに押します。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

㉒ USB**コネクタ**（215**ページ**）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

㉓ i.LINK S400**コネクタ**（4**ピン**）（208**ページ**）
デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器をつなぎます。

i.LINK**とは？**
i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。i.LINKについて詳しくは、209ページをご覧ください。

後面

1 LINE OUT L／R（**ライン出力）コネクタ**（176、204**ページ**）

テレビの音声入力コネクタやオーディオ機器とつなぎます。

2 OPTICAL OUT（**光デジタル出力）コネクタ**（172、176**ページ**）

MDデッキなどのデジタル機器につなぎます。

本機で再生する音楽CDなどの音声をつないだデジタル機器に出力するときに使います。

3 OPTICAL IN（**光デジタル入力）コネクタ**（178**ページ**）

MDデッキなどのデジタル機器につなぎます。

つないだデジタル機器の音声を本機に入力するときに使います。

4 MOUSE（**マウス）コネクタ**

付属のマウスをつなぎます。

5 KEYBOARD（**キーボード）コネクタ**

付属のキーボードをつなぎます。

6 USBコネクタ（215ページ）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

7 PRINTER（プリンタ）コネクタ（214ページ）
別売りのプリンタやスキャナなどをつなぎます。

8 SERIAL（シリアル）コネクタ
SERIALコネクタを持った機器をつなぎます。

9 i.LINK S400コネクタ（6ピン）（208ページ）
デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器をつなぎます。

10 GAME（ゲーム）コネクタ（216ページ）
ジョイスティックやMIDI機器をつなぎます。

11 LINE IN（ライン入力）コネクタ
オーディオ機器とつなぎます。

12 MIC（マイクロホン）コネクタ
市販のモノラルマイクをつなぎます。

13 SPEAKER L/R（スピーカー）コネクタ（176ページ）
付属のスピーカーをつなぎます。

14 FM ANTENNA（FMアンテナ）コネクタ
付属のFMアンテナをつなぎます。
付属のアンテナでうまく受信できないときは、市販の外部アンテナをつないでください。

15 AC電源入力プラグ
付属の電源コードをつなぎ、電源コンセントにつなぎます。

16 MONITOR（モニタ）コネクタ
ディスプレイをつなぎます。

ご注意

MONITORコネクタにディスプレイをつなぐときは、DVIコネクタに15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD1をつながないでください。

17 S VIDEO／VIDEO OUT（S映像／映像出力）コネクタ（204ページ）
テレビなどのS映像入力コネクタとつなぎます。本機から映像を出力するときに使います。
付属のビデオ接続用変換コネクタを使うことにより、映像出力コネクタとして使うこともできます。

18 DVIコネクタ
15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD1をつなぎます。

ご注意

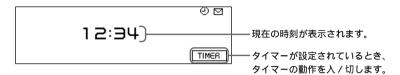
DVIコネクタにPCVA-15XD1をつなぐときは、MONITORコネクタにディスプレイをつながないでください。

19 TELEPHONE（電話機）ジャック
電話機をつなぎます。

20 LINE（電話回線）ジャック
壁の電話回線とつなぎます。

表示窓

表示窓は、使用している機能によって、表示される内容が異なります。表示窓の下部には、マルチファンクションボタンへ割り当てられる機能がボタン名として表示されます。詳しくはそれぞれの参照ページをご覧ください。

❏ 電源切のとき

❏ PCモード（Windows 98が使える状態で電源が入っている）のとき

❏ オーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）のとき

音楽CD／MD再生時（86、99ページ）

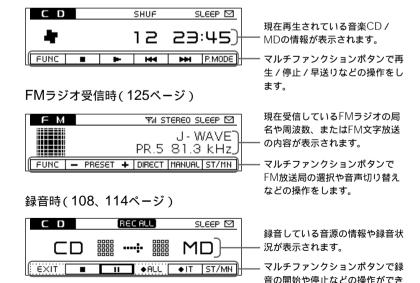
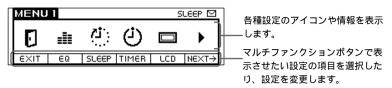
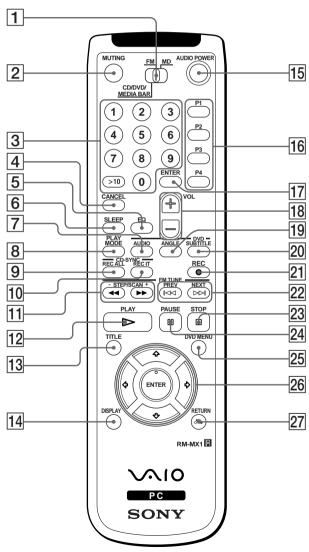
FMラジオ受信時（125ページ）

録音時（108、114ページ）

次のページにつづく

MENU（252ページ）

各種設定のアイコンや情報を表示します。

マルチファンクションボタンで表示させたい設定の項目を選択したり、設定を変更します。

リモコン

1 **ファンクション切り替えスイッチ**
リモコンで操作する音源を切り替えるときに使います。

2 MUTING（**消音**）**ボタン**
一時的に音声を消すときに押します。もう1度押すか、VOL＋ボタンを押すと音が出ます。

3 **数字ボタン**（96**ページ**）
音楽CDやMDの再生中に曲番を選んだり、DVDビデオの再生中に画面に表示されている項目を選んだり、FMラジオの受信中にFM放送局のプリセット番号を選ぶときなどに押します。

4 CANCEL（**取り消し**）**ボタン**（96**ページ**）
数字ボタンで選んだ数字を取り消すときに押します。

5 EQ（**イコライザ**）**ボタン**（168**ページ**）
音楽CDやMDのプリセットイコライザを切り替えるときに押します。
このボタンを押すたびに次のようにイコライザが切り換わります。

→ ROCK → POP → JAZZ
FLAT ← USER ←

6 SLEEP（**スリープ**）**ボタン**（137**ページ**）
スリープタイマーを設定するときに押します。

→ 90分 → 80分 → 70分 → 60分 → 50分
OFF ← 10分 ← 20分 ← 30分 ← 40分

7 AUDIO（**音声切り替え**）**ボタン**（83、112、125**ページ**）
再生中の音声を切り替えるときに押します。

ビデオCD再生時

→ 1/L → 2/R → **ステレオ**

FMラジオ受信時

ステレオ ←→ モノラル

DVDビデオ再生時

再生中のディスクに用意された言語を選びます。選べる言語はディスクによって異なります。

8 PLAY MODE（**再生モード切り替え**）**ボタン**（83、84**ページ**）
音楽CDやビデオCD、DVDビデオの再生モードを切り替えるときに押します。このボタンを押すたびに次のように再生モードが切り換わります。

音楽CD、ビデオCD再生時

→ **リピート**ALL → **リピート**1
OFF ← **シャッフル**（**停止中のみ**）←

DVDビデオ再生時

→ **タイトルリピート** → **チャプターリピート**
OFF ←

9 REC ALL（CD**全曲ダビング**）**ボタン**（108**ページ**）
PCモード時は、付属の「Media Bar」ソフトウェアで指定した曲すべてをMDに録音するときに押します。
PCモードで「Media Bar」ソフトウェアが起動していないとき、およびオーディオモード時は、DVD-ROMドライブに入れた音楽CDのすべての曲をMDに録音するときに押します。

10 REC IT（CD1**曲ダビング**）**ボタン**（108**ページ**）
PCモード時は、付属の「Media Bar」ソフトウェアで指定した曲をMDに録音するときに押します。
オーディオモード時は、DVD-ROMドライブに入れた音楽CDを再生中に再生中の1曲をMDに録音するときに押します。

次のページにつづく

⑪ ◀◀／▶▶ STEP/SCAN ＋／－（**ステップ／スキャン ＋／－**）**ボタン**（87、96、123**ページ**）
DVDビデオやビデオCD再生中に映像を見ながら場面を探したり、音楽CD再生中に曲を探すときに押します。
FMラジオ受信中は、短く押すと周波数が増減し、2秒以上押すと受信可能なFM放送局をスキャンします。

⑫ ▷PLAY（**再生**）**ボタン**（82、96、123、124**ページ**）
音楽CD、ビデオCD、DVDビデオ、MDを再生するときに押します。
PCモード時は、ファンクション切り替えスイッチが「FM」のときに押すと「FM Tuner」ソフトウェアを起動したり、FM放送の消音を解除することもできます。

⑬ TITLE（**タイトル**）**ボタン**（84**ページ**）
DVDビデオのタイトルメニューを表示させるときに押します。

⑭ DISPLAY（**表示**）**ボタン**（83、96**ページ**）
時間の表示を切り替えるときに押します。

⑮ AUDIO POWER（**オーディオモード電源**）**ボタン**（69**ページ**）
本機の電源をオーディオモードで入／切 するときに押します。

⑯ P1～P4**ボタン**（152**ページ**）
各ボタンに割り当てたソフトウェアを一発起動するときに押します。

⑰ ENTER（**決定**）**ボタン**（97**ページ**）
選んだ数字や項目を決定するときに押します。

⑱ VOL＋/－（**音量＋／－**）**ボタン**
音量を調整するときに押します。

⑲ ANGLE（**アングル**）**ボタン**（84**ページ**）
マルチアングルが記録されているDVDビデオのアングルを切り替えるときに押します。

⑳ SUBTITLE（**字幕**）**ボタン**（84**ページ**）
DVDビデオの字幕を切り替えるときに押します。

㉑ ● REC（**録音**）**ボタン**（108、112**ページ**）
PCモード時は、押すと付属の「MD Player」ソフトウェアが起動し、MDが録音待機状態になります。
「FM Tuner」ソフトウェアが起動しているときは、押すとFMラジオのMDへの録音が始まります。
オーディオモード時は、音楽CDやFMラジオをMDに録音するときに押すとMDが録音待機状態になります。

㉒ ⏮／⏭ PREV/NEXT（**選曲／選局**）**ボタン**（82、96、123**ページ**）
DVDビデオやビデオCD再生中は、前の場面に戻したり、次の場面に進めるときに押します。
音楽CDやMDを再生中は、前の曲に戻したり、次の曲に進めるときに押します。
FMラジオの受信中は、プリセットされたFM放送局を選ぶときに押します。

㉓ □ STOP（**停止**）**ボタン**（82、96、113、124**ページ**）
音楽CD、ビデオCD、DVDビデオ、MDの再生を停止するときに押します。
PCモードで「FM Tuner」ソフトウェアを起動しているときは、このボタンを押すと、MDへの録音を停止したり、FM放送を消音することができます。

㉔ ▯▯ PAUSE（**一時停止**）**ボタン**（82、96、115**ページ**）
音楽CD、ビデオCD、DVDビデオ、MDの再生を一時停止するときに押します。

㉕ DVD MENU（DVD**メニュー**）**ボタン**（85**ページ**）
DVDビデオのDVDメニューを表示するときに押します。
PCモードで「FM Tuner」ソフトウェアを起動しているときは、FM放送メニューを表示させるときに押します。

㉖ ⇦／⇧／⇩／⇨／ENTER（**決定**）**ボタン**（84、85**ページ**）
DVDビデオ再生中に画面に表示されている項目を選んだり、PCモードでFM文字放送メニューを指定するときに押します。

㉗ RETURN（**リターン**）**ボタン**（84**ページ**）
DVDビデオやビデオCDで、1つ前の選択画面に戻るときに押します。

コンピュータの基本操作編

電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

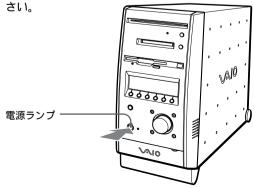
- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。（62ページ）

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

1 ディスプレイの電源スイッチを押す。

2 本機の ⏻（電源）ボタンを押す。

本機の電源が入り、電源ランプが緑色に点灯し、表示窓が点灯し、Windows 98が起動します（PCモード、68ページ参照）。

初めてPCモードで電源を入れたときは、Windows 98のセットアップ画面が表示されます。Windows 98のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」をご覧ください。

本機の簡単なオーディオ機能のみを使うときは

リモコンのAUDIO POWERボタンを押します。本機がオーディオモードで電源が入ります。PCモードとオーディオモードについて詳しくは、「本機の動作モードについて」(68ページ)をご覧ください。

電源を切る

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの[Windowsの終了]をクリックする。

「Windowsの終了」画面が表示されます。

3 **［電源を切れる状態にする］をクリックして選び、つぎに OK をクリックする。**

しばらくすると本機の電源が自動的に切れ、電源ランプが消灯します。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒間は電源を入れないでください。

「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは

以下の作業を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出すには」（228ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは取りはずす。

それでも電源が切れないときは、「困ったときは」の「電源」（234ページ）をご覧ください。

一時的に作業を中断するときは

キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押すか、または本機前面の ⏻（電源）ボタンを軽く押すと、一時的にシステム全体の動作を停止することができます（スタンバイモード）。このとき、本機前面の電源ランプは赤色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。通常の動作モードに戻すには、キーボード上のスペースキーを押すか、マウスのボタンをクリックします。

ご注意

本機がスタンバイモードに入っているときは、通信ソフトウェアを使ってファックスを送受信することはできません。

再起動する

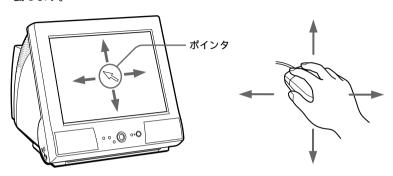
本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要がある場合があります。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。**
「スタート」メニューが表示されます。

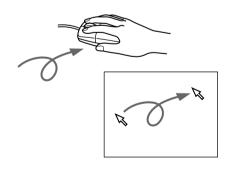
2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**
「Windowsの終了」画面が表示されます。

3 **［再起動する］をクリックして選び、つぎに OK をクリックする。**
本機が再起動します。

マウスを使う

ここではマウスの使いかたを説明します。
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインタも同じ方向に移動します。

ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン／右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

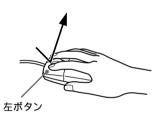
マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。

ポイントする

ポインタを希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。

クリックする

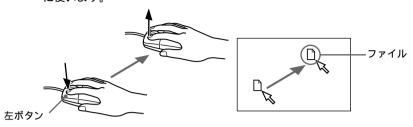
左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

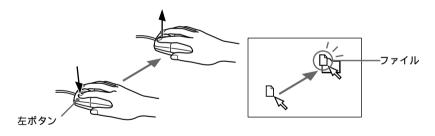
OK や キャンセル などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

ダブルクリックする

左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。

ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

ドラッグアンドドロップする

ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。
ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、ソフトウェアでそのファイルを開くことができます。

右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。

ホイールボタンの使いかた

ホイールボタンを使うことによって、スクロール、オートスクロール、ズームなどの操作ができます。

ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

スクロールする

ウィンドウ上で上下スクロールバーが表示されているときに、ホイールボタンを転がすと、画面が上下して表示されていない情報を見ることができます。
また、上下スクロールバーをポイントし、ホイールボタンを転がして上下にスクロールすることもできます。

パンする

ホイールボタンを押しながらマウスを動かして、画面を上下左右に動かすことです。

ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもパンすることができます。

オートスクロールする

ホイールボタンを押してすぐ離し、マウスを動かして自動的に画面を動かすことです。
カーソルを元に戻す場合は、ホイールボタンをもう1度押すか、左または右ボタンをクリックします。

画面が動く方向を示す

 ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもオートスクロールすることができます。

ズーム／データズームする

ズームする

キーボードのCtrl（コントロール）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ画面を拡大したり縮小することです。

データズームする

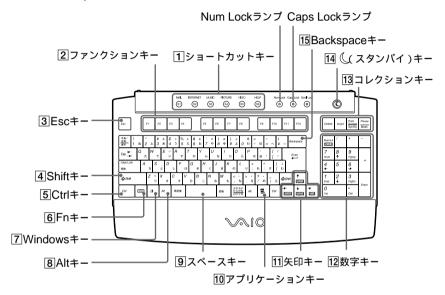
キーボードのShift（シフト）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ上のデータを上または下の階層に切り替えることです。

ご注意

この機能はMicrosoft Office 97と互換性のあるプログラムでのみ働きます。

この他にも、ホイールボタンにクイックスクロールやオートスクロール以外の機能を割り当てることもできます。
詳しくは「マウスの設定を変更する」（197ページ）をご覧ください。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。
文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(52ページ) をご覧ください。

なまえ	機能
1 ショートカットキー S1 S2 S3 S4 S5 S6	各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。各キーに割り当てられたソフトウェアについて詳しくは「ショートカットキーの機能」(46ページ) をご覧ください。
2 ファンクションキー F1～F12	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
3 Esc (エスケープ) キー Esc	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

なまえ	機能
4 Shift（シフト）キー ⇧Shift	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。キーボード右上のCaps Lock（キャプス・ロック）ランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
5 Ctrl（コントロール）キー Ctrl	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例） Ctrl キーを押しながら、S キーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
6 Fn（エフエヌ）キー Fn	キーボード上で□で囲まれている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 詳しくは「Fnキーとの組み合わせと機能」（50ページ）をご覧ください。
7 Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよび「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（51ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

なまえ	機能
8 Alt（オルト）キー Alt	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。 使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
9 スペースキー	文字を入力しているとき、このキーを押すと、スペースを挿入できます。
10 アプリケーションキー	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
11 矢印キー ↑PgUp ↓PgDn ←Home →End	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Fn（エフエヌ）キーと組み合わせて使うと、PgUp（ページアップ）キーやPgDn（ページダウン）キーなどとして使えます。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせと機能」（50ページ）をご覧ください。
12 数字キー	NumLk ScrLk（ナム・ロック）キーを押し、キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが点灯しているときは、数字を入力できます。 消灯しているときは、矢印キーなど、キーの表面左側に印刷されている機能と同じ働きをします。

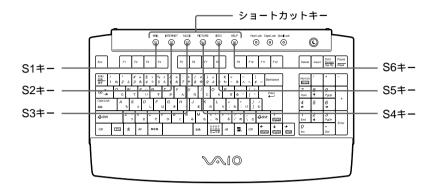
なまえ	機能
13コレクションキー	キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えます。
• Delete（デリート）キー Delete	画面のカーソル上の文字を消すときに押します。
• Insert（インサート）キー Insert	文字入力のモードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り替わります。
• Print Screen／Sys Rq（プリントスクリーン／システムリクエスト）キー Print Screen Sys Rq	デスクトップ画面全体を画像として本機に取り込みます。Alt（オルト）キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブなウィンドウを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。
• Pause／Break（ポーズ／ブレイク）キー Pause Break	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 Ctrl（コントロール）キーを押しながらこのキーを押すと、Breakキーとして働きます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
14スタンバイキー ☾	本機のシステム全体の動きを一時的に停止します（スタンバイモード）。スタンバイモードのときに押すと、通常の動作モードに戻ります。
15Backspace（バックスペース）キー Backspace	画面上のカーソルキーの左の文字を消すときに押します。

アクティブなウィンドウとは

デスクトップ画面上で表示されているウィンドウの中で最前面に表示されているウィンドウはタイトルバー（ウィンドウの上の部分）が青い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

キーボードショートカット

メニューを開かなくても、キーボードから各種コマンドを実行できます。

ショートカットキーの機能

各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。
各キーに割り当てられているソフトウェアは以下のとおりです。

なまえ		機能
S 1キー（MAIL）	S1	「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。
S 2キー（INTERNET）	S2	「Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。
S 3キー（MUSIC）	S3	「Media Bar」ソフトウェアを起動します。初めて押したときは「AV再生の設定」画面が表示されます。詳しくは「ディスクを再生する」（76ページ）をご覧ください。
S 4キー（PICTURE）	S4	「PictureGear」ソフトウェアを起動します。
S 5キー（VIDEO）	S5	「DVgate Motion」ソフトウェアを起動します。
S 6キー（HELP）	S6	「オンラインマニュアル」を起動します。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

ご注意

S1キーとS2キーを使うには、インターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット!」をご覧ください。

リモコンでソフトウェアを起動する

付属のリモコンのプログラマブルパワーキー（PPK）でソフトウェアを起動することもできます。詳しくは「好みのソフトウェアを自動的に起動する」（152ページ）をご覧ください。

ショートカットキーへ割り当てられているソフトウェアを変更するには

お買い上げ時にショートカットキーに割り当てられているソフトウェアを、付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、好みのソフトウェアが起動するように変更できます。

ここでは、Ⓢ1キーを押すと「画面出力切替」が起動するようにしてみます。

1 デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。

プログラマブルパワーキー（PPK）の「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。

2 ショートカットキー（S）をクリックする。

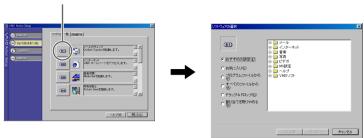
ショートカットキーの「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。

ここをクリックする

次のページにつづく

3 [S1]をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

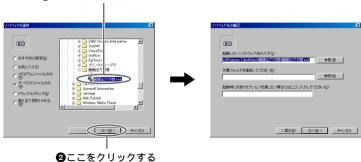
ここをクリックする

4 ［すべてのファイルから］をクリックする。

本機に格納されているファイルのリストが右側に表示されます。

ここをクリックする

5 [c:]、[Program Files]、[Sony]、［画面出力切替］の順にダブルクリックし、［画面出力切替.exe］をクリックしてから 次へ(N) > をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。

❶ここをクリックする

❷ここをクリックする

6 次へ(N) > をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。

ここをクリックする

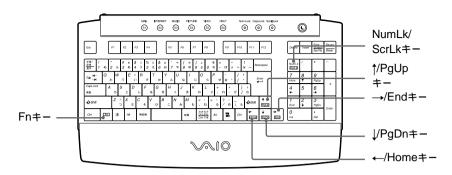
7 「設定名」と「詳細情報」を入力してから 完了(F) をクリックする。

これで設定は完了です。キーボードの(S1)キーを押すと「画面出力切替」が起動します。

「VAIO Action Setup」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

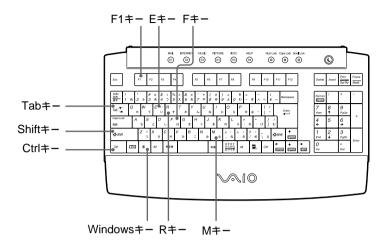
ちょっと一言

ショートカットキーへのソフトウェアの割り当てを変更したときのために、本機にはショートカットキー用のテンプレートが付属しています。新しく割り当てたソフトウェア名をペンでテンプレートに記入し、ショートカットキーの上に置くと、新しい割り当てを忘れずにすみます。

Fnキーとの組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Fn＋NumLk ➡ Fnキーを押しながらNumLkキーを押す。

組み合わせ	機能
Fn＋NumLk ➡ ScrLk （スクロール・ロック）キー Fn ＋ NumLk ScrLk	ScrLk（スクロール・ロック）キーとして働きます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn＋↑ ➡ PgUp （ページアップ）キー Fn ＋ ↑ PgUp	PgUp（ページアップ）キーとして働きます。 現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn＋→ ➡ End （エンド）キー Fn ＋ → End	End（エンド）キーとして働きます。 行の最後にカーソルを移動します。
Fn＋↓ ➡ PgDn （ページダウン）キー Fn ＋ ↓ PgDn	PgDn（ページダウン）キーとして働きます。 現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn＋← ➡ Home （ホーム）キー Fn ＋ ← Home	Home（ホーム）キーとして働きます。 行の先頭にカーソルを移動します。

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：⊞+F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り替えます。
⊞ +E	エクスプローラ*を表示します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべての画面を最小化します。
Shift+ ⊞ +M	最小化されているすべての画面を元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。 ［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行…」を選んだときと同じです。

* コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピュータのどこに保存されているか、一目で確認できます。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。
文字の入力は、MDの中の曲にタイトルを付けるときなどに必要です。
文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」ソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

ちょっと一言

キーボード上の特殊なキーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（42ページ）をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

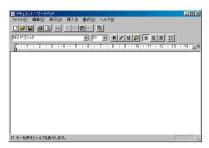
1 ワードパッドを起動する

まず、「ワードパッド」ソフトウェアを起動します。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「ワードパッド」ソフトウェアの画面が表示されます。

2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IME」のツールバーを使って、入力文字を切り替える必要があります。

MS-IMEツールバー

1 デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバーの［␣A］をクリックする。

文字入力選択メニューが表示されます。

2 メニューの［ひらがな］をクリックする。

ツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。

［␣A］から［あ］に変わる。

次のページにつづく

MS-IMEツールバーが表示されていないときは

デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をクリックし、表示されたメニューの中から［ツールバーを表示］をクリックします。
MS-IMEツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

タスクトレイとは

デスクトップ画面右下の部分のことです。本機をPCモードで起動したときに自動的に使えるようになったWindows 98の機能がここに表示されています。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つまたは3つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り替えるには

MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら、Caps Lock 英数（キャプス・ロック）キーを押す。
ローマ字入力とかな入力とが切り替わります。

かな入力

KANAの文字が押された状態

［KANA］をクリックするか、
Ctrl（コントロール）キーを押しながら、
Caps Lock 英数（キャプス・ロック）キーを押す。

ローマ字入力

KANAの文字が押されていない状態

文字入力を練習する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったソニーVAIO」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。

ローマ字入力の場合

S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

かな入力の場合

せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shift（シフト）キーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソル（画面上で点滅している「｜」のこと）が文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

2 **（スペース）キーを押す。**

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。

間違った漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、（スペース）キーを押します。

ちょっと一言

「き」など同音異義の漢字がたくさんある場合は、変換候補が表示されるまで（スペース）キーを押しつづけます。

3 **（エンター）キーを押す。**

変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

Backspace **（バックスペース）キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete **（デリート）キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc **（エスケープ）キー**：確定していない文字をすべて消します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。

ローマ字入力の場合

H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

ちょっと一言

小さい「っ」を入力するときは、「かった」のように次の文字が「た」であれば T キーを2回押します。

かな入力の場合

ひ、ろ、か、゛(濁点)、っ(Shift(シフト)キーを押しながら「つ」を押します)、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 Enter(エンター)キーを押す。

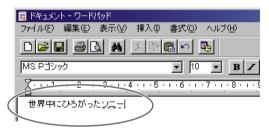
変換する必要がないので、 (スペース)キーを押す必要はありません。

次のページにつづく

3 カタカナを入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［全角カタカナ］をクリックする。**

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

2 **「ソニー」の読みを入力する。**

ローマ字入力の場合

S、O、N、I、–（ハイフン）の順にキーを押します。

かな入力の場合

そ、に、ー の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 **（エンター）キーを押す。**

変換する必要がないので、［ ］（スペース）キーを押す必要はありません。

4 英字を入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［カ］をクリックして、［半角英数］をクリックする。**

ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 **Shift（シフト）キーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。**

3 **Enter（エンター）キーを押す。**

変換する必要がないので、　　（スペース）キーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、（シフト）キーを押す必要はありません。

次のページにつづく

これで「世界中にひろがったソニーVAIO」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたはMS-IMEのヘルプをご覧ください。

「～」や「~」を入力するには

- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（53ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまで [ ]（スペース）キーを押すか、[Shift]（シフト）キーを押しながら[~^]キーを押します。
- インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、MS-IMEツールバーで「直接入力」を選び[~^]を押すか、MS-IMEツールバーで「半角英数」（59ページ）を選び、[Shift]（シフト）キーを押しながら[~^]キーを押します。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書や本機に取り込んだ静止画などのデータを保存することができます。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。

ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めるとフロッピーディスクドライブアクセスランプが緑色に点灯します。

本機では、市販されている「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。
本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（66ページ）をご覧ください。
「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクをご購入いただくと、初期化する手間が省けます。
初期化とは何かについては、「フロッピーディスクを初期化する」（64ページ）をご覧ください。

ご注意

MDをフロッピーディスクドライブに入れないようにご注意ください。

次のページにつづく

フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。

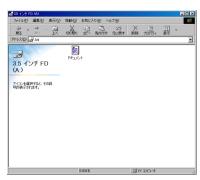
フロッピーディスクのデータを使う

ここではフロッピーディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

2 **(3.5インチFD（A:)）をダブルクリックする。**

フロッピーディスクの内容が表示されます。

3 **目的に応じて操作する。**

フロッピーディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよびヘルプをご覧ください。

Windows 98のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

フロッピーディスクにデータをコピーする

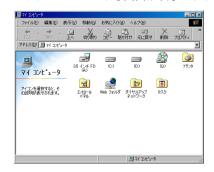
作成した文書などのデータをフロッピーディスクにコピーするには、以下の手順に従ってください。

1 **フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。**

入れかたについては61ページをご覧ください。

2 **デスクトップ画面上の (マイ コンピュータ）をダブルクリックする。**

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

次のページにつづく

3 **コピーするデータのアイコンをクリックし、（3.5インチFD（A:））に重なるようにドラッグする。**

（3.5インチFD（A:））が反転表示されます。

4 **マウスのボタンを離す。**

データがフロッピーディスクにコピーされます。

フロッピーディスクを初期化する

「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクは、そのまま本機のフロッピーディスクに入れてすぐにお使いになれますが、以下の場合は「初期化」（または「フォーマット」ともいう）という作業が必要です。

- 「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されていないフロッピーディスクを初めて使うとき
- フロッピーディスクの中のデータがいっぱいになり、そのデータを一度に消し、初期状態に戻したいとき

「初期化」とは、お使いのコンピュータでフロッピーディスクにデータを読み書きできるようにフロッピーディスクの記録方法を決めることです。

初期化するとフロッピーディスクは、区画に分けられ番地が付けられ、どの区画にどんな情報が書き込まれているかを記録し、管理する部分が作られます。

本機でフロッピーディスクを初期化するには、以下の手順に従ってください。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

1 **初期化したいフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。**

入れかたについては61ページをご覧ください。

2 デスクトップ画面左上の （マイ コンピュータ）をダブルクリックする。

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

3 （3.5インチFD（A:））を右クリックし、表示されるメニューから［フォーマット］をクリックする。

フォーマットの画面が表示されます。

4 開始(S) をクリックする。

フロッピーディスクが初期化されます。

5 閉じる をクリックする。

フォーマットの画面が閉じます。

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと書かれた、すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

データを書き込み禁止にする

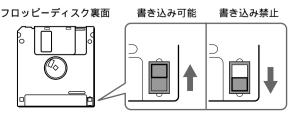
大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないときは、書き込み禁止にしておきます。

使用できるフロッピーディスク

本機では、パッケージに「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。また、3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	Windows上では読み書きともに可。 MS-DOSプロンプトやMS-DOSモードでは読み書きともに不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のコンピュータとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいコンピュータのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のソフトウェアはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

AV機能操作編

本機の動作モードについて

本機には2つの動作モードがあり、各モードで以下のようなことができます。目的に合わせて、どちらかの動作モードを選んでお使いください。

PCモード

Windows 98が起動し、すべての機能が使用可能な状態のことです。

このモードでできること

- Windows 98を使って通常のコンピュータとしてお使いいただけます。
- キーボードを使ってMDの曲名を入力したり、マウス操作でMDを編集することができます。
- 「DVD Player」ソフトウェアを使ってDVDビデオを見ることができます。
- 「MX Stage」ソフトウェアを使って本機のDVD-ROMドライブやMDドライブの中のディスクや本機に接続した機器を操作するなど、オーディオモードでできることだけでなく、オーディオ機能をフルに活用いただけます。

電源を入／切するには…

「電源を入れる」（32ページ）をご覧ください。

操作のしかたは…

主にディスプレイ画面上で、マウスとキーボードを使って操作します。オーディオ機能のほとんどはリモコンを使って操作することもできます。

モードの見分けかたは…

PCモードのときは、ディスプレイ画面にWindows 98のデスクトップが表示され、本機前面の表示窓が赤色に点灯しています。

オーディオモード

Windows 98が起動しておらず、本機のオーディオ機能の一部を簡単に使える状態のことです。

このモードでできること

- 音楽CDやMDの再生ができます。
- 音楽CDからMDへのダビングができます。
- FMラジオを聞いたり、FM文字放送を見ることができます。
- FMラジオをMDに録音することができます。
- 音楽を聞きながら眠ることができます。

電源を入／切するには…

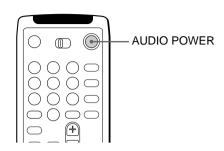
「オーディオモードで電源を入れる」（69ページ）をご覧ください。

操作のしかたは…

主にリモコンまたは本機前面パネルのボタンと表示窓を使って操作します。

モードの見分けかたは…

オーディオモードのときは、ディスプレイ画面には何も表示されず、本機前面の表示窓が赤色に点灯しています。

オーディオモードで電源を入れる

本機の電源が切れている状態で、付属のリモコンを本機の®（リモコン受光部）に向け、AUDIO POWERボタンを押す。

本機の電源がオーディオモードで入り、表示窓が点灯します。

本機前面パネルのボタンで電源を入れることもできます

本機の電源が切れている状態で、前面パネルのAUDIOボタンを押してもオーディオモードで電源が入ります。

ご注意

- 本機がPCモードのときに本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIO POWERボタンを押しても、オーディオモードへ切り替えることはできません（Windows 98を終了することはできません）。「電源を切る」（33ページ）の手順に従っていったん電源を切ったあと、上記の手順に従ってオーディオモードで電源を入れてください。
- オーディオモードで使えるさまざまな機能の一部は、事前にPCモードで設定をしておく必要があるため、本機を初めてお使いになるとき、それらの機能がすぐにはお使いいただけないことがあります。

オーディオモードで電源を切るには

リモコンのAUDIO POWERボタンを押します。電源ランプがいったん点灯してから本機の電源が切れます。

本機前面パネルのボタンでも電源を切れます

前面パネルのAUDIOボタンを押してもオーディオモードで電源を切れます。

「MX Stage」について PC

PCモードでは、付属の「MX Stage」を使って、本機のDVD-ROMドライブやMDドライブ内のディスクやFMラジオ、本機に接続したスピーカーやAV機器の操作など、本機の多彩なオーディオ機能をデスクトップ画面上で見渡すことができ、アイコンの操作で簡単に使うことができます。また、音楽CD、MD、FMラジオの目覚まし再生などのタイマー予約設定も「MX Stage」で行うことができます。

「MX Stage」はWindows 98が起動するのと同時に起動し、通常はいつでも使える状態になっています（画面が表示されています）。
画面が表示されていないときは、デスクトップ画面右下のタスクトレイのアイコンをダブルクリックすると、「MX Stage」画面が表示されます。

リモコンやマルチファンクションボタンでも「MX Stage」を起動できます

リモコンのP3ボタンは、お買い上げ時の設定で「MX Stage」を起動するように設定されています。
PCモードのときは、リモコンのP3ボタンを押すことにより「MX Stage」画面が表示されます。オーディオモードのときは、リモコンのP3ボタンを押すことにより、本機がオーディオモードからPCモードに移行し、「MX Stage」画面が表示されます。本機の電源が切れているときは、リモコンのP3ボタンを押すことにより、本機がPCモードで電源が入り、「MX Stage」画面が表示されます。
リモコンのP3ボタンに他のソフトウェアを割り当てることもできます。詳しくは、「プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる」（153ページ）をご覧ください。
また、PCモード時に、「MX Stage」画面が表示されていないときに本機の前面パネルのFC3ボタンを押すと、「MX Stage」画面が表示されます。

ご注意

リモコンのP3ボタンを押して、本機をオーディオモードからPCモードに移行させて「MX Stage」画面を表示させるとき、Windowsのログインのパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力するまで本機がPCモードで起動せず、「MX Stage」画面は表示されません。

「MX Stage」は下図のように各デバイス（音源やコネクタ、スピーカーなど）の状態を表示する「デバイスビュー」とタイマー予約設定を行う「タイマービュー」の2つのビューがあります。

タイマービュー　　**デバイスビュー**

ここをクリックして切り替える

各ビューの下の［コンパクト］をクリックすると「MX Stage」画面がコンパクトサイズで表示されます。他のソフトウェアを使いながら「MX Stage」を操作したいときに表示させると便利です。

操作のしかた

「MX Stage」では、アイコンのダブルクリック（37ページ）やドラッグアンドドロップ（38ページ）といった操作で、ディスクの再生や音楽CDからMDへのダビング、タイマー予約設定など、さまざまな機能を簡単に使えます。

アイコン

アイコンについて

- **各デバイスの現在の状態を示します。デバイスビューでは、さらに詳細な状態を示します。関連する各デバイスのアイコンが画面上に表示されます。**
- **アイコンをダブルクリックすると、そのデバイスに関連するソフトウェアを起動したり、画面を表示できます。**
- **アイコンを右クリック（39ページ）すると、ショートカットメニューが表示され、そのデバイスを設定する画面を表示できます。**
- **CDアイコンをMDアイコンへドラッグアンドドロップして、音楽CDの曲を全曲MDへダビングできます。（デバイスビューのときのみ）**

次のページにつづく

「MX Stage」の各アイコンで実行される動作は以下のとおりです。

CD／DVD

デバイスビューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	DVD-ROMドライブに入っているディスクによって、「Media Bar」、「VIDEO CD Player」または「DVD Player」ソフトウェアが起動し、再生が始まる。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［DVD設定］を選ぶ。	「DVD設定」画面が表示される（173ページ）。 この画面については［ヘルプ］をクリックしてヘルプもご覧ください。
アイコンを「MD」アイコンへドラッグアンドドロップする。	CDからMDへ全曲ダビングするための待機状態となる（録音は開始されない）（105ページ）。

ご注意

以下の場合はアイコンをドラッグアンドドロップできません。
- MDドライブにMDが入っていないとき
- MDを再生中または録音中のとき
- MDが誤消去防止状態のとき
- DVD-ROMドライブにDVDビデオやDVD-ROMが入っているとき

タイマービューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	DVD-ROMドライブに入っているディスクによって、「Media Bar」、「VIDEO CD Player」または「DVD Player」ソフトウェアが起動し、再生が始まる。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［DVD設定］を選ぶ。	「DVD設定」画面が表示される（173ページ）。 この画面については［ヘルプ］をクリックしてヘルプもご覧ください。
アイコンをカレンダーへドラッグアンドドロップする。	音楽CDの再生がドラッグアンドドロップした日付にタイマー設定される（139ページ）。

MD

デバイスビューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「MD Player」ソフトウェアが起動し、MDの再生が始まる（95ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［MD設定］を選ぶ。	「MD設定」画面が表示される。 この画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプをご覧ください。

タイマービューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「MD Player」ソフトウェアが起動し、MDの再生が始まる（95ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［MD設定］を選ぶ。	「MD設定」画面が表示される。 この画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプをご覧ください。
アイコンをカレンダーへドラッグアンドドロップする。	MDの再生がドラッグアンドドロップした日付にタイマー設定される（139ページ）。

FM

デバイスビューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「FM Tuner」ソフトウェアが起動する（111、120ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［プリセットの設定］を選ぶ。	「プリセットの設定」画面が表示される（122ページ）。
「FM Tuner」起動中にアイコンを「MD」アイコンへドラッグアンドドロップする。	FMラジオのMDへの録音が始まる（112ページ）。

次のページにつづく

タイマービューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「FM Tuner」ソフトウェアが起動する（111、120ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［プリセットの設定］を選ぶ。	「プリセットの設定」画面が表示される（122ページ）。
アイコンをカレンダーへドラッグアンドドロップする。	FMラジオの受信がドラッグアンドドロップした日付にタイマー設定される（139ページ）。

SOUND（サウンドチップ）

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「Media Bar」ソフトウェアの「HDD検索」画面が表示される。再生したいサウンドファイルを選択できます。 詳しくは、「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［Vortex コントロールパネル］を選ぶ。	「Vortex コントロールパネル」画面が表示される。

OPT IN（光デジタル入力）

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックまたは右クリックして表示されるメニューから［光デジタルサウンド切替］を選ぶ。	「光デジタルサウンド切替」画面が表示される（177ページ）。

OPT OUT（光デジタル出力）

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックまたは右クリックして表示されるメニューから［光デジタルサウンド切替］を選ぶ。	「光デジタルサウンド切替」画面が表示される（177ページ）。

SPEAKER

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「ボリュームコントロール」画面が表示される。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［オーディオイコライザ］を選ぶ。	「オーディオイコライザ」画面が表示される（166ページ）。 この画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプもご覧ください。

パーソナルタイマー

タイマービューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックまたは右クリックして表示されるメニューから［パーソナルタイマー設定］を選ぶ。	「パーソナルタイマー設定」画面が表示される（148ページ）。 この画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプをご覧ください。
アイコンをカレンダーへドラッグアンドドロップする。	パーソナルタイマーがドラッグアンドドロップした日付にタイマー設定される（139ページ）。

「MX Stage」を使わないときは

各ビューの下のをクリックすると、「MX Stage」の画面が最小化され、デスクトップ画面右下のタスクトレイに戻ります。

「MX Stage」を自分の好みに合わせることができます

「MX Stage」の画面の背景を変えたり、アイコンの色を変えたりなど、「MX Stage」を使いやすいように変更することができます。詳しくは、「MX Stage」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ディスクを再生する

音楽CDやビデオCD、DVDビデオを再生して楽しむことができます。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアや付属のリモコンを使って再生する方法を説明します。

「Media Bar」ソフトウェアを使って再生する

PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアを起動し、音楽CDやビデオCD、DVDビデオを再生できます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます（一部のソフトウェアを除く）。

ご注意

DVDを再生するときは、必ず「Media Bar」ソフトウェアをお使いください。その他のソフトウェアで再生すると、本機の故障の原因となります。

1 **本機がPCモードになっていることを確認する（68ページ）。**

2 **初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときはデスクトップ画面上の（AV再生の設定）をクリックする。**
「AV再生の設定」画面が表示されます。

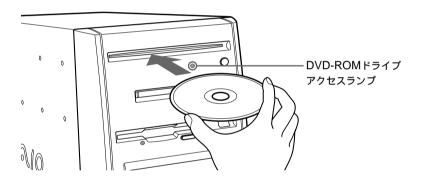
3 **画面の指示に従って各チェックボックスをクリックしてから、** OK **をクリックする。**

4 **再生したい面を下にして、ディスクをDVD-ROMドライブに入れる。**

音楽CDやビデオCDのときは、レーベル面（文字が書いてある面）を上にして入れます。

両面にデータが記録されているDVDビデオのときは、再生したい面を下にして入れます。反対側の面を再生するときはディスクを一度取り出し、裏返して入れてください。A面（表面）／B面（裏面）の区別は、ディスク内周のラベルに記載されています。

ディスクの信号面（文字が印刷されていない面）には触れないようにご注意ください。

8cmディスクを再生するときは、「8cmディスクを入れるときは」（80ページ）をご覧ください。

ディスクが吸い込まれるようにして自動的にDVD-ROMドライブに入ります。

ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

音楽CDを入れた場合は、「Media Bar」ソフトウェアが起動し、再生が始まります。

次のページにつづく

ビデオCDを入れた場合は、「VIDEO CD Player」ソフトウェアが起動し、再生が始まります。

DVDビデオを入れた場合は、「DVD Player」ソフトウェアが起動し、再生が始まります。

頭出しや早送り／早戻し、リピート／シャッフルなど、いろいろな再生のしかたについて詳しくは、「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

再生を止めるには

「Media Bar」、「VIDEO CD Player」または「DVD Player」ソフトウェアの ■（停止）をクリックします。

DVDビデオをより快適にお楽しみいただくために

本機ではソフトウェアを用いてDVDビデオを再生しています。このため、ディスクによっては以下の操作を行うことにより、より滑らかな再生映像をご覧いただけます。

- DVDビデオを再生する「DVD Player」ソフトウェア以外のソフトウェアをすべて終了する。
- 「MX Stage」画面の タスクトレイへ をクリックし、「MX Stage」をデスクトップ画面右下のタスクトレイに収納する。

DVDビデオを再生したあと、「MX Stage」をデスクトップ画面に表示させるときは、以下のいずれかの操作を行ってください。

- タスクトレイの をダブルクリックする。
- リモコンのP3ボタンを押す。
- 本機前面パネルのFC3（MX）ボタンを押す。

ちょっと一言

- 手順4で音楽CDをDVD-ROMドライブに入れたあと、「Media Bar」へのパッケージ登録をうながすダイアログボックスが表示されることがあります。この場合は、「Media Bar」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧になり、操作してください。
- ビデオCDによってはメニューが表示される場合があります。そのときは、表示されたメニュー画面（選択画面）を使って、対話形式で再生していきます（「PBC（プレイバックコントロール）について」、93ページ）。PBC再生のしかたについては「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- DVDによってはタイトルメニューやDVDメニューが表示される場合があります。詳しくは「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

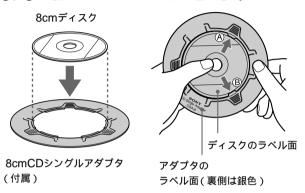
DVDビデオを再生しているときは、画面の解像度は変更しないでください。変更すると、DVDビデオが正しく再生されなかったり、画面にノイズが出ることがあります。

8cmディスクを入れるときは

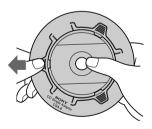
8cmディスクに付属の8cmCDシングルアダプタを取り付けたあと、DVD-ROMドライブに入れます。

ご注意

必ず8cmディスクに8cmCDシングルアダプタを取り付けてからDVD-ROMドライブに入れてください。

❶ Ⓐ、Ⓑ の順に2つのツメにディスクを差し込む。

 ちょっと一言

両面にデータが記録されているDVDにアダプタを取り付けるときは、再生したい面の反対側の面をアダプタのラベル面に合わせます。

❷ 3つめのツメを外側に引いて、ディスクをはめる。

❸ 押してみて、平らであることを確認する。
すべてのツメについて確認してください。

8cmCDシングルアダプタ取り付け時のご注意

- ツメが浮いている場合は平らになるように指で押し込んでください。
  ツメが浮いていると異音が発生したり、動作しないことがあります。
- 取り付けた後で必ず、ディスクが3つのツメのみぞに正しくはまっているかを確認してください。

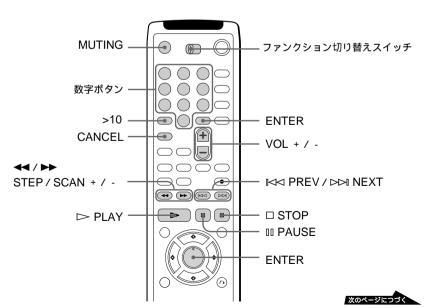
ご注意

- ディスクを入れたまま、本機の電源を切らないでください。
- ディスクをDVD-ROMドライブに入れるときは、まっすぐにゆっくりと挿入してください。斜めに挿入すると、DVD-ROMドライブの故障の原因となります。
- 8cmCDシングルアダプタを8cmCDに取り付けずにDVD-ROMドライブに入れると取り出せなくなることがありますのでご注意ください。また、本機の故障の原因となります。

リモコンで操作するには

付属のリモコンを使って音楽CDやビデオCD、DVDビデオを操作することもできます。

PCモードでは、「Media Bar」ソフトウェアが起動していなくても、リモコンを操作することにより自動的に「Media Bar」ソフトウェアが起動し、音楽CDやビデオCD、DVDビデオが再生されます。

次のページにつづく

1 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。**

2 **目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。**

音楽CD／ビデオCD／DVDビデオ共通

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ PLAYを押す。
止める	□ STOPを押す。
一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
再生中にチャプター[1] や映像、曲を進める	▷▷▯ NEXTを押す。
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	▯◁◁ PREVを押す。
再生中に画面を見ながら（音を聞きながら）探す	◀◀ STEP／SCAN −または ▶▶ STEP／SCAN ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	VOL ＋／−ボタンを押す。
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。

[1] DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（92ページ）をご覧ください。

音楽CDのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、またはが「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）	PLAY MODEボタンを、「SHUF」が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
再生するトラック[2]を選ぶ	数字ボタンで再生したいトラックの番号を押す。10トラック目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す（99トラックまで）。 選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。
時間表示を切り替える	DISPLAYボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 →コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間 →パッケージ経過時間 →パッケージ残り時間 →

[2] ビデオCDや音楽CDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（92ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

ビデオCDのみ

こんなときは	操作のしかた
選択用のメニュー画面に戻る（PBC再生中）	一般的なPBC対応のビデオCDでは、RETURNボタンまたは⏮ PREV、⏭ NEXTのいずれかのボタンを押す。
音声を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
時間表示を切り替える	DISPLAYボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 **トラック経過時間** ↕ **トラック残り時間**

DVDビデオのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、タイトルまたはチャプターが「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
字幕を表示する	再生中、SUBTITLEボタンを、好みの字幕が表示されるまで押す。
アングルを切り替える	再生中、ANGLEボタンを、好みのアングルが表示されるまで押す。
音声を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
タイトル[3)]メニューで好きなタイトルを選ぶ	1 TITLEボタンを押してタイトルメニューを表示させる。 2 再生したいタイトルを⇦／⇧／⇩／⇨ボタンで選び、ENTERボタンを押す。

こんなときは	操作のしかた
DVDメニューで好きな項目を選ぶ	1 DVD MENUボタンを押してDVDメニューを表示させる。 2 再生したい項目を⇦／⇧／⇩／⇨ボタンで選び、ENTERボタンを押す。
時間表示を切り替える	DISPLAY ボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 **タイトル経過時間** ↕ **タイトル残り時間**

3) DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（92ページ）をご覧ください。

ご注意

再生するDVDビデオによっては、動作しない機能があります。

ディスクを取り出すには

DVD-ROMドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンを押します。

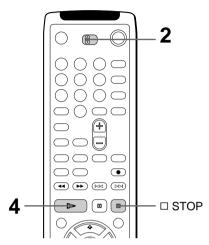
ご注意

⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンは、本機がPCモードまたはオーディオモードで電源が入っていないと動作しません。また、PCモードでも本機がシステムスタンバイモードに入っているときは動作しません。この場合は、キーボード上のいずれかのキーを押して、本機を通常の動作モードに戻してから、⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンを押してください。

ディスクが取り出せないときは

「主なトラブルとその解決方法」の「再生」（245ページ）をご覧ください。

リモコンや前面パネルのボタンを使って再生する Audio

オーディオモードでは、付属のリモコンや本機前面パネルのボタンやつまみを使って、音楽CDを再生することができます。

1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する**（68ページ）。

2 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」に設定する。**

3 **レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、ディスクをDVD-ROMドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについて詳しくは、77ページの手順4をご覧ください。

ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

4 **リモコンの ▷ PLAYを押す。**

音楽CDの再生が始まり、表示窓に曲番と演奏時間が表示されます。

再生を停止するには

リモコンの □ STOPを押します。

その他のリモコン操作

再生する

こんなときは	操作のしかた
一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
再生中に曲を進める	▷▷| NEXTを押す。
再生中に曲を戻す	|◁◁ PREVを押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ STEP／SCAN －または ▶▶ STEP／SCAN ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	VOL ＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す。（99曲まで） 選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。

次のページにつづく

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、⮎または⮎1が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	PLAY MODEボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

前面パネルのボタンで操作するには

1 本機がオーディオモードになっていることを確認する（68ページ）。

2 レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。

ディスクの入れかたについて詳しくは77ページの手順4をご覧ください。
ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

3 FC1ボタンを CD が前面パネルの画面に表示されるまで押す。

4 前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをFMラジオへ切り替える。再生中に押すと、再生が停止する。
FC2（■）	再生を停止する。
FC3（►／II）	再生する。再生中に押すと、一時停止する。
FC4（I◄◄／◄◄）	短く押すと、1曲ごとに前の曲に戻る。 長く押すと、押している間曲を早戻しする。
FC5（►►／►►I）	短く押すと、1曲ごとに次の曲へとぶ。 長く押すと、押している間曲を早送りする。
FC6（P.MODE）	押すごとに再生モードが以下のように切り換わります。 →（全曲リピート）→ 1（1曲リピート）→ SHUF* →（表示無し） *「SHUF」は再生が停止中のみ
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り替わります。 曲番と再生中の曲の演奏経過時間 ↓ 曲番と再生中の曲の残り時間 ↓ 残りの曲数とディスク全体の残り時間 ↓ スペクトルアナライザ
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （169、252ページ）
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	停止中に押すと、音楽CDの全曲をMDへ録音する。 再生中、または一時停止中に押すと、現在再生または一時停止中の曲のみをMDへ録音する。

使用できるディスク

本機のDVD-ROMドライブで再生できるディスクは以下の通りです。
8cmディスクは付属の8cmCDシングルアダプタに取り付けて使用します。

ディスクの種類	マーク	再生できるモード
DVD-ROM	DVD ROM	PCモードのみ
DVDビデオ	DVD VIDEO	PCモードのみ
音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	PCモード オーディオモード
CD Extra	COMPACT disc+ DIGITAL AUDIO / CD EXTRA TM	PCモード[2] オーディオモード[3]
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO / VIDEO CD	PCモードのみ
CD-ROM	COMPACT disc	PCモード[2] オーディオモード[4]
CD TEXT	COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT / CD TEXT	PCモード オーディオモード[3]
CD-R[1]	COMPACT disc Recordable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable	PCモード[2] オーディオモード[4]
CD-RW[1]	COMPACT disc ReWritable / COMPACT disc Recordable ReWritable	PCモード[2] オーディオモード[4]

[1] 本機では、何も書き込まれていないディスク、書き込みに失敗したディスク、データ書き込み後にDVD-ROMドライブでデータを読み込めるように設定していないディスクはお使いになれません。

[2] PCモードでは、映像および音声を再生できます。

[3] オーディオモードでは、音声のみ再生できます。

[4] オーディオモードでは、一部の音声ファイルでのみ音声を再生できます。

ご注意

- DVDビデオを再生するときは、必ず付属の「Media Bar」ソフトウェアをお使いください。その他のソフトウェアで再生すると、本機の故障の原因となります。
- 「Media Bar」ではCD-ROMの音声を再生する動作については保証していません。
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- 破損したディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- 音楽CDの再生中は本機に触れないでください。音飛びすることがあります。

再生可能なDVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDには 2 のように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーやドライブの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、または ALL の表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と「DVD Player」ソフトウェアの画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

DVD、ビデオCD再生時の操作上のご注意

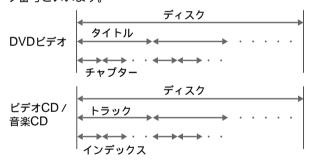
DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

DVDに表示されているマークの説明

DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようなものがあります。それぞれのマークはそのディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。
ただしそれらの機能が使えても、以下のマークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
3	音声のトラック数を表します。
2	字幕の数を表します。
3	アングル数を表します。
16:9 LB	選択可能な画像アスペクト比を表します。
2	再生可能な地域番号を表します。

ディスクに関する用語の説明

- **タイトル**
  DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（あるいは1曲）にあたります。それぞれのタイトル順に付けられた番号をタイトル番号といいます。
- **チャプター**
  DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号といいます。ディスクによってはチャプターが記録されていないものもあります。
- **トラック**
  ビデオCDや音楽CDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。

- **インデックス（音楽CD）／ビデオインデックス（ビデオCD）**
  ビデオCDおよび音楽CDで、再生したい部分を見つけやすいように1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。
- **シーン**
  PBC対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのことをシーンと言います。シーンごとに順に付けられた番号をシーン番号と言います。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。
（PBCとは、Playback Controlの略です。）
ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクのタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、デスクトップ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生）。また、高精細の静止画も再生できます。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。

MDを再生する

MD（ミニディスク）を再生して楽しむことができます。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアや付属のリモコンを使っての再生のしかたを説明します。

ご注意

本機のMDドライブはMDclipには対応していません。MDclip情報が入っているMDを再生するときは、誤消去防止つまみの孔を開き、録音できない状態にしてください。（104ページ）

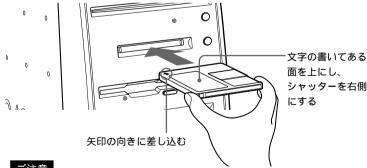
「Media Bar」ソフトウェアを使って再生する PC

PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」を起動し、MDを再生できます。MDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます（一部のソフトウェアを除く）。

1 本機がPCモードになっていることを確認する（68ページ）**。**

2 初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときは「Media Bar」の設定を行う。

詳しくは76～77ページの手順2～3をご覧ください。

3 文字が書いてある面を上にして、MDをMDドライブに入れる。

ご注意

- ラベルがはみ出したり、正しい位置にラベルを貼っていないMDはお使いにならないでください。本機の故障の原因となることがあります。
- MDをフロッピーディスクドライブに入れないようにご注意ください。

4　デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

5　画面左下のデバイスビューをクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

6　「MX Stage」の（MD）をダブルクリックする。

「MD Player」が起動し、再生が始まります。

頭出しや早送り／早戻しなどの操作について詳しくは、「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

再生を止めるには

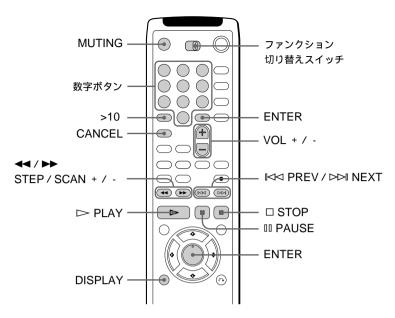
「MD Player」の（停止）をクリックします。

リモコンで操作するには

付属のリモコンを使ってMDを操作することもできます。

ちょっと一言

PCモードでは、「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」が起動していなくても、リモコンを操作することにより自動的に「MD Player」が起動し、MDが「MD Player」を使って再生されます。

次のページにつづく

1 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「MD」にする。**

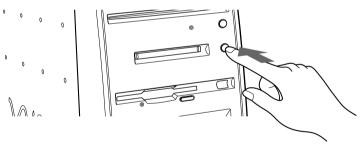
2 **目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。**

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ PLAYを押す。
止める	□ STOPを押す。
一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
曲を進める	⏭ NEXTを押す。
曲を戻す	⏮ PREVを押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ STEP／SCAN －または ▶▶ STEP／SCAN ＋を聞きたいところまで押し続ける
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。

こんなときは	操作のしかた
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10トラック目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、ENTERボタンを押す。 選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。
音量を調節する	VOL ＋／－ボタンを押す。
時間表示を切り替える	DISPLAYボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 →コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間 パッケージ残り時間←パッケージ経過時間←

MDを取り出すには

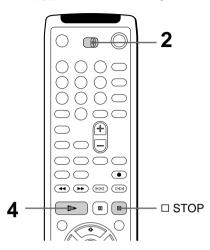
⏏（MDイジェクト）ボタンを押します。

ご注意

上記の⏏（MDイジェクト）ボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。

ディスクが取り出せないときは

上記の「MDを取り出すには」の操作を行ってもディスクが取り出せないときは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。

リモコンや前面パネルのボタンを使って再生する

オーディオモードでは、付属のリモコンや本機前面パネルのボタンやつまみを使って、MDを再生することができます。

1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する**（68ページ）。

2 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「MD」に設定する。**

3 **文字が書いてある面を上にして、MDをMDドライブに入れる。**
MDの入れかたについて詳しくは、94ページの手順3をご覧ください。

ご注意

オーディオモードでMDをMDドライブに入れるときは、本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIO POWERボタンを押してからしばらくお待ちになり、本機前面の表示窓がオーディオモードの表示になってから、MDを入れてください。表示窓にVAIOロゴまたは時刻が表示されているときにMDを入れようとすると、MDは排出され、TOCなどが正しく認識されなくなります。このような状態になったときは、本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIO POWERボタンを押して、いったんオーディオモードの電源を切り、再度、本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIO POWERボタンを押して、オーディオモードで電源を入れてください。

4 リモコンの ▷ PLAYを押す。

MDの再生が始まり、表示窓に曲番と演奏時間が表示されます。

再生を停止するには

リモコンの □ STOPを押します。

その他のリモコン操作

こんなときは	操作のしかた
一時停止する	⏸ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	⏸ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
曲を進める	⏭ NEXTを押す。
曲を戻す	⏮ PREVを押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ STEP／SCAN －または ▶▶ STEP／SCAN ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。

次のページにつづく

こんなときは	操作のしかた
音量を調節する	VOL＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、ENTERボタンを押す。選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、↻または↻1が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	PLAY MODEボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

前面パネルのボタンで操作するには

1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する**（68ページ）。

2 **文字が書いてある面を上にして、MDをMDドライブに入れる。**

MDの入れかたについて詳しくは94ページの手順3をご覧ください。

3 FC1**ボタンを** M D **が前面パネルの画面に表示されるまで押す。**

4 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをOPT INへ切り替える。 各種設定メニューの「OPT IN」で「OPT IN FUNCTION」を「OFF」に設定したときはCDに切り替える。 再生中に押すと、再生が停止する。
FC2（■）	再生を停止する。
FC3（►／❚❚）	再生する。再生中に押すと、一時停止する。
FC4（⏮／◀◀）	短く押すと、1曲ごとに前の曲に戻る。 長く押すと、押している間曲を早戻しする。
FC5（▶▶／⏭）	短く押すと、1曲ごとに次の曲へとぶ。 長く押すと、押している間曲を早送りする。
FC6（P.MODE）	押すごとに再生モードが以下のように切り替わります。 → （全曲リピート）→ 1（1曲リピート）→ SHUF* →（表示無し）→ *「SHUF」は再生が停止中のみ

次のページにつづく

再生する

DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り替わります。 **再生中／再生一時停止中** **曲番と再生中の曲の演奏経過時間** ↓ **曲番と再生中の曲の残り時間** ↓ **残りの曲数とディスク全体の残り時間** ↓ **ディスク名、曲名** ↓ **スペクトルアナライザ**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （169、252ページ）
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。

録音の前にお読みください

MDは、音質劣化の少ない「デジタル方式」で録音、再生を行います。また、音楽CDにあるような曲番を付けることで、すばやい曲の頭出しや、録音した曲の編集を実現しています。
本機では音源によって、次のように録音を行い、曲番を付けます。

本機のDVD-ROMドライブから録音するとき

- デジタル録音をします*1。
- 曲番は自動的に音楽CDと同じように付きます。

OPTICAL INコネクタにつないだCS/BSチューナーなどのデジタル機器から録音するとき

- デジタル録音をします*1。
- 曲番の付きかたは録音する音源によって異なります。

本機のFMラジオや、LINE INコネクタにつないだ別売りの機器(カセットデッキなど)から録音するとき

- アナログ録音をします*2。
- 曲番は録音開始点にしか付きません。

*1 デジタル録音には制約があります(270ページ)。

*2 デジタル機器をつないでいても、デジタル接続ケーブルを使ってOPTICAL INコネクタにつないでいないときは、アナログ録音されます。

MDの曲番について(TOC)

MDでは、曲番(曲順)や曲の開始/終了点などの情報を「TOC*3」と呼ばれる領域で、音楽とは別に管理しています。「TOC」の情報を書き替えるだけで曲の編集がすばやくできます。

*3 Table of Contentsの略(目次の意味)。

録音したあとは

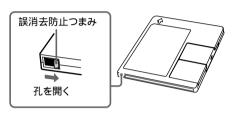
MDイジェクトボタンを押してMDを取り出す。

「TOC」が点灯または点滅し始め、録音の情報がMDへ書き込まれ、録音が完了します。

電源コンセントを抜く前に

MDへの録音は録音情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すと行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点灯または点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。録音情報が正しく記録されません。

MDの録音内容を消したくないときは

- 誤消去防止つまみをずらして孔を開きます。再び録音するときは、つまみを元の位置に戻します。

- MDが誤消去防止状態になっていると、表示窓に「PROTECTED」と表示され、録音できません。誤消去防止つまみを元の位置に戻して、孔をふさいでください。

音楽CDを録音する

音楽CDをMDへ録音できます。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアや付属のリモコンを使って音楽CDからMDへ録音する方法を説明します。

「Media Bar」ソフトウェアを使って録音する PC

PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」を起動し、音楽CDをMDへ録音できます。

1 **本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。**

2 **初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときは「Media Bar」の設定を行う。**

詳しくは76～77ページの手順2～3をご覧ください。

3 **録音したい音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについては、77ページの手順4をご覧ください。

4 録音用のMDをMDドライブに入れる。

MDの入れかたについては、94ページの手順3をご覧ください。

5 デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

6 画面左下の デバイスビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

7 「MX Stage」の（CD／DVD）を（MD）へドラッグアンドドロップする。

「Media Bar」と「MD Player」が自動的に起動し、音楽CDの中の曲名が「MD Player」の画面にコピーされます（録音待機状態）。

次のページにつづく

8 **「MD Player」の （録音）または「Media Bar」の （再生）ボタンをクリックする。**

音楽CDが1曲目から再生され、MDへの録音が始まります。

録音を停止するには

「MD Player」の （停止）ボタンをクリックします。

ちょっと一言

- 途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから録音されます。
- DVD-ROMドライブに音楽CDを入れると、「Media Bar」ソフトウェアが自動的に起動し、再生が始まることがありますが「MX Stage」から同様に録音の操作ができます。

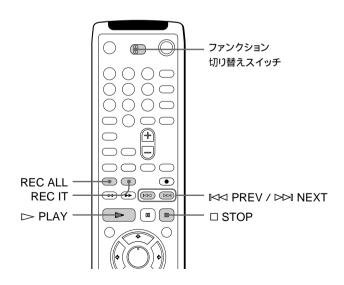
ご注意

- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」（104ページ）をご覧ください。
- 音楽CDから録音しようとする曲の合計演奏時間がMDの空き時間を超える場合は、録音ができません。

リモコンで操作するには

付属のリモコンを使って操作することもできます。

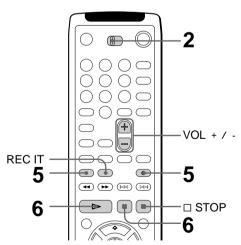
ちょっと一言

PCモードでは、「Media Bar」や「MD Player」が起動していなくても、リモコンを操作することにより自動的に「Media Bar」と「MD Player」が起動し、音楽CDからMDへの録音をすることができます。

1 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。**

2 **目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。**

こんなときは	操作のしかた
「Media Bar」ソフトウェアで再生中の音楽CDのすべての曲をMDに録音する	REC ALLボタンを押し、▷ PLAYを押す。
「Media Bar」ソフトウェアで再生中の音楽CDの中の1曲をMDに録音する	⏮ PREVまたは⏭ NEXTボタンで録音したい曲を選んでからREC ITボタンを押し、▷ PLAYを押す。
録音を止める	□ STOPを押す。

リモコンや前面パネルのボタンを使って録音する Audio

オーディオモードでは、付属のリモコンや本機前面のボタンやつまみを使って、音楽CDをMDに録音することができます。

1 **本機がオーディオモードになっているかを確認する**（68ページ）。

2 **ファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。**

次のページにつづく

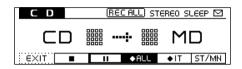
3 録音したい音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。

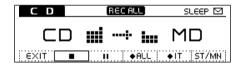
ディスクの入れかたについては、77ページの手順4をご覧ください。

4 録音用のMDをMDドライブに入れる。

ディスクの入れかたについては、94ページの手順3をご覧ください。

5 リモコンの ● RECまたはREC ALLボタンを押す。

録音待機状態になります。

6 リモコンの ⅡPAUSEまたは ▷ PLAYを押す。

音楽CDが1曲目から再生され、MDへの録音が始まります。

好きな1曲だけを録音するには

録音したい曲の再生中にREC ITボタンを押してから、Ⅱ PAUSEまたは ▷ PLAYを押します。指定した曲の先頭から、MDへの録音が始まります。

録音を停止するには

リモコンの □ STOPボタンを押します。

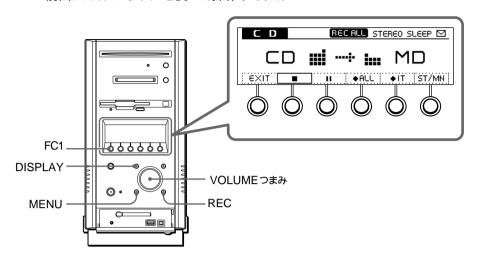
音量を調節するには

リモコンのVOL＋／－ボタンを押します。

途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから録音されます。

ご注意

- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」（104ページ）をご覧ください。
- 音楽CDから録音しようとする曲の合計演奏時間がMDの空き時間を超える場合は、録音ができません。

前面パネルのボタンを使って操作するには

1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する（68ページ）。**

2 **レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについて詳しくは77ページの手順4をご覧ください。

ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

3 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**

MDの入れかたについては94ページの手順3をご覧ください。

4 **FC1ボタンを C D が前面パネルの画面に表示されるまで押す。**

5 **RECボタンを押す。**

前面パネル画面に上記のような画面が表示されます。

6 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	停止中に押すと、音楽CDの再生へ戻る。

次のページにつづく

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC2（■）	録音を停止する。
FC3（❚❚）	録音一時停止中に押すと、録音を開始する。
FC4（●ALL）	音楽CDの全曲を録音するモードへ移行する。
FC5（●IT）	音楽CDの中の1曲を録音するモードに移行する。
FC6（ST/MN）	押すごとにMDの録音モードが次のように切り換わります。 STEREO ←→ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **録音中、録音一時停止中** → **アニメーション画面** ↓ CD**の曲番と**CD**の曲の演奏経過時間** ↓ CD**の残り曲数と**CD**の残り時間**＊ ↓ MD**の曲番と**MD**の残り時間** ↓ **スペクトル アナライザ** →（最初に戻る） ＊ 音楽CDの全曲録音中。1曲録音中は、CDの曲番とCDの曲の残り時間が表示される。 **停止中** → **アニメーション画面** ↓ CD**の全曲数と**CD**の全時間** ↓ MD**の全曲数と**MD**の残り時間** →（最初に戻る）
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （169、252ページ）
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。

FMラジオを録音する

FMラジオをMDへ録音できます。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」や付属のリモコンを使ってFMラジオからMDへ録音する方法を説明します。

「Media Bar」ソフトウェアを使って録音する

PCモードでは「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」を起動し、FMラジオをMDへ録音できます。

1 本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。

2 デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。
「MX Stage」が表示されます。

3 画面左下の デバイスビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。
「デバイスビュー」が表示されます。

4 「MX Stage」の（FM）をダブルクリックする。

「FM Tuner」が起動し、前回受信したFM放送局が受信されます。

初めて「FM Tuner」を起動したときは「プリセットの設定」画面が表示されます。FMラジオをお聞きになる地域を選んでください。詳しくは120ページをご覧ください。

MDに録音する

次のページにつづく

5 録音したいFM放送局を選ぶ。

FMラジオの選局のしかたについては、120ページをご覧ください。

6 録音用のMDをMDドライブに入れる。

MDの入れかたについては、97ページの手順3をご覧ください。

7 （録音）をクリックする。

ボタンをクリックした時点より、FMラジオからMDへの録音が始まります。

録音を停止するには

「FM Tuner」の ■（停止）ボタンをクリックします。

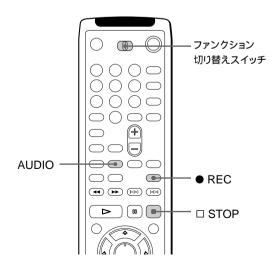
ちょっと一言

途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから新しいトラックとして録音されます。

ご注意

- 録音中にFMラジオの受信状態が悪いときは、室内のコンピュータ、アンテナ、テレビ、電話、蛍光灯などが雑音の原因となっていることがありますので、FMアンテナをなるべく離してお使いください。
- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」（104ページ）をご覧ください。

リモコンで操作するには

付属のリモコンを使って操作することもできます。

1 **「FM Tuner」が起動して、録音したいFM放送局を受信していることを確認する。**

2 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。**

3 **目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。**

こんなときは	操作のしかた
録音する	● RECを押す。
録音を止める	□ STOPを押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り替える	AUDIOボタンを好みの音声が選択されるまで押す。

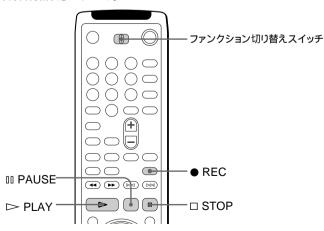
リモコンや前面パネルのボタンを使って録音する Audio

オーディオモードでは、付属のリモコンや本機前面パネルのボタンやつまみを使って、FMラジオをMDに録音することができます。

ご注意

- FM文字放送を保存することはできません。
- 録音するための操作は、PCモードで「FM Tuner」ソフトウェアを使うときの操作と異なります。リモコンの●RECボタンや前面パネルのRECボタンを押しても録音は始まらず、録音待機状態になります。

1 **本機がオーディオモードになっているかを確認する（68ページ）。**

次のページにつづく

2 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。**

3 **録音したいFM放送局を選ぶ。**

FMラジオの選局のしかたについては、「プリセット局を選んで聞く」(124ページ)をご覧ください。

4 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについては、97ページの手順3をご覧ください。

5 **リモコンの ● RECを押す。**

録音待機状態になります。

6 **リモコンの ⏸ PAUSEまたは▷ PLAYボタンを押す。**

FMラジオからMDへの録音が始まります。

録音を停止するには

リモコンの □ STOPボタンを押します。

音量を調節するには

リモコンのVOL ＋／－ボタンを押します。

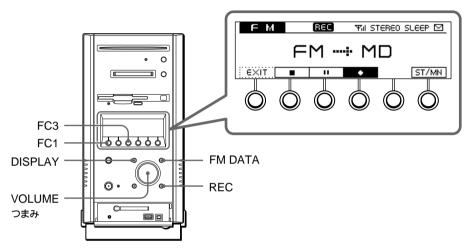
途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから録音されます。

ご注意

- 録音中にFMラジオの受信状態が悪いときは、室内のアンテナ、テレビ、電話、蛍光灯などが雑音の原因となっていることがありますので、FMアンテナをなるべく離してお使いください。
- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」(104ページ)をご覧ください。

その他のリモコン操作

こんなときは	操作のしかた
録音を一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、録音を再開する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
音量を調節する	VOL ＋／－ボタンを押す。

前面パネルのボタンを使って操作するには

1 **本機がオーディオモードになっているかを確認する**（68**ページ**）。

2 **録音用の**MD**を**MD**ドライブに入れる。**

MDの入れかたについては、97ページの手順3をご覧ください。

3 FC1**ボタンを前面パネルの画面に** F M **が表示されるまで押す。**

4 REC**ボタンを押す。**

録音待機状態になります。

5 FC3（❚❚）**ボタンを押す。**

FMラジオからMDへの録音が始まります。

6 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

次のページにつづく

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	停止中に押すと、FMラジオ放送へ戻る（録音状態を解除する）。
FC2（■）	録音を停止する。
FC3（❚❚）	録音一時停止中に押すと、録音を開始する。 録音中に押すと、録音が一時停止状態になる。
FC4（●）	停止中に押すと、録音待機状態になる。
FC6（ST/MN）	押すごとにMDの録音モードが次のように切り替わります。 STEREO ←→ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り替わります。 → **アニメーション画面** ↓ **プリセット番号、**FM**放送局名、周波数** ↓ **プリセット番号、周波数** ↓ MD**の曲番、**MD**の残り時間** ↓ **スペクトルアナライザ** → (最初に戻る)
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送（ライブ）を表示する。

MDを編集する前にお読みください

録音済みの1枚のMD上で、曲の移動や削除などの編集作業が行えます。編集を行うことで、MD間でのダビングをせずに、オリジナルMDアルバムの作成をお楽しみいただけます。
MDの編集をするには、MDが書き込み可能な状態になっている必要があります。

編集をはじめる前に、MDが誤消去防止状態になっていないか確認してください。
誤消去防止状態になっているときは、つまみを動かして孔をふさぎます。MDが誤消去防止状態になっているときは、編集作業はできません。

本機のMDドライブはMDclipには対応していません。
本機でMDclip情報が入ったMDを編集すると、MDclip情報が表示できなくなったり、正しいタイミングで表示できなくなることがあります。

編集機能について

- Name（ネーム） — **名前を付ける**
  ディスク名と曲名を記録できます。
  入力できる文字は漢字、カタカナ、アルファベット（大文字、小文字）、数字、記号の一部です。
- Erase（イレース） — **曲を削除する**
  不要な曲を削除できます。
- Move（ムーブ） — **曲順を変える**
  曲順の入れ替えが自由にできます。
- Divide（ディバイド） — **曲を分ける**
  曲と曲の間をふたつに分けると（Divide）、分けたところに曲番が付きます。
  この機能を使って、曲の途中、例えば好きなフレーズのはじめに曲番を付けると、好きなフレーズの頭出しもできます。
- Combine（コンバイン） — **曲をつなぐ**
  この機能を使うとふたつの曲が1曲につながります。

編集したあとは

MDイジェクトボタンを押してMDを取り出す。
本機前面パネルの表示窓に「TOC」が点灯または点滅し始めます。編集の情報がMDへ書き込まれ、編集が完了します。

電源コンセントを抜く前に

MDの編集は編集情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すと行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点灯または点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。編集情報が正しく記録されません。

「Media Bar」ソフトウェアを使って編集する PC

「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」を起動して、ドラッグアンドドロップなどの操作で録音済みのMDを編集します。

1 録音済みのMDをMDドライブに入れる。

MDの入れかたについては、97ページの手順3をご覧ください。

2 デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

3 画面左下のデバイスビューをクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

4 「MX Stage」の(MD）をダブルクリックする。

「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」が起動し、再生が始まります。

5 編集作業を行う。

各編集のしかたについて詳しくは、「Media Bar」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

FMラジオを聞く

本機でFMラジオを受信して聞くことができます。FM放送局が文字放送を実施している場合は、音声と同時にディスプレイ画面上または本機前面の表示窓で文字情報を見ることもできます。
FM文字放送について詳しくは130ページをご覧ください。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」や付属のリモコンを使ってFMラジオを聞く方法を説明します。

ご注意

- 受信状態の悪いときは、FMアンテナを張り直してください。張りかたについて詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。
- 受信状態が悪いときは、室内のテレビ、電話、蛍光灯などが雑音の原因となることがありますので、それらを本機のFMアンテナからなるべく離してお使いください。それでも受信状態にあまり変化がない場合は、本機のアンテナをテレビアンテナに接続すると受信状態が良くなることがあります。

地域を指定してFM放送局を選ぶ（スーパーエリアコール） PC

PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」を起動してFMラジオを受信します。あらかじめ記憶されている14の地域の中からお使いになる地域を選び、地域ごとに設定されたFM放送局の中から受信したいFM放送局を選びます（スーパーエリアコール）。
本機で選局できるスーパーエリアコールについては、「スーパーエリアコール周波数一覧」（286ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

1 **本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。**

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。

3 **画面左下のデバイスビューをクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**

「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の（FM）をダブルクリックする。**

「FM Tuner」が起動し、前回受信していたFM放送局が受信されます。

初めて「FM Tuner」ソフトウェアを起動したときは

「プリセットの設定」画面が表示され、初期設定のFM放送局が受信されます（「受信地域：関東1」の「1. 76.1MHz インターFM」）。

お聞きになる地域を「受信地域」リストから選んでクリックし、決定をクリックしてください。地域別のプリセットリストが設定されます。

5 ［ファイル］メニューの［選局モード］から［プリセット］をクリックする。

6 をクリックして表示されるプリセットリストからFM放送局を選ぶ。

選んだFM放送局が受信されます。

選んだFM放送局がFM文字放送を実施している場合は、「FM Tuner」の［FM DATA］をクリックして番組を選択できます。FM文字放送について詳しくは130ページをご覧ください。

ご注意

FMラジオやFM文字放送受信時に表示される はチューニング周波数の電波の強さの目安を示します。電波の状況により、実際の受信状況と異なることがあります。

ちょっと一言

初期設定では、プリセット局としてあらかじめ地域別のFM放送局が登録されています。これらのプリセット局は、リモコンの数字ボタンでプリセット番号を押すだけで、受信できます。また、プリセット局は「FM Tuner」で変更、追加、削除することができます。詳しくは、「プリセット局を変更・追加・削除するには」（122ページ）をご覧ください。

スーパーエリアコールにないFM放送局を選ぶには（マニュアル選局）

手動で周波数を調整して受信することができます。

前ページの手順3のあと、「FM Tuner」で［ファイル］メニューの［選局モード］から［マニュアル］をクリックし、聞きたいFM放送局を受信するまで［+］または［−］ボタンをクリックします。周波数が0.1MHzずつ増減します。

キーボードを使って周波数を直接入力することもできます。

サテライト局を選ぶには

雑音が多く受信状態が悪いときは、サテライト局を探します。サテライト局とは、広い地域に放送しているFM放送局が、本局から離れたところでは別の周波数で放送している場合の中継局のことです。

サテライト局の選びかたについては、「FM Tuner」のヘルプをご覧ください。

次のページにつづく

プリセット局を変更・追加・削除するには

初期設定であらかじめ登録されているプリセット局を変更したり、よく聞くFM放送局を新たにプリセット局として追加したり、不要なプリセット局を削除することができます。

1 **「FM Tuner」の「ファイル」メニューから［プリセットの設定］をクリックする。**

「プリセットの設定」画面が表示されます。

2 **「受信地域」を確認する。**

3 **目的に合わせて、プリセット局の一覧から変更・追加・削除したいプリセット局をクリックして選び、［追加/変更...］または［削除］をクリックする。**

［追加/変更...］をクリックした場合は、「プリセットの追加／変更」画面が表示されます。

［削除］をクリックした場合は、プリセット局が一覧から削除されます。

4 **変更・追加したいFM放送局の周波数と放送局名を入力して、［OK］をクリックする。**

周波数は［+］／［−］ボタンで調整することもできます。

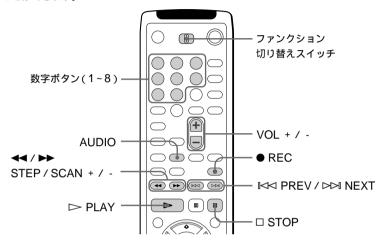
ご注意

プリセット局を変更・追加・削除したあとに「受信地域」の設定を変更すると、プリセット局は初期設定のリストに戻ります。

リモコンで操作するには

付属のリモコンを使ってFMラジオを操作することもできます。

ちょっと一言

PCモードでは、「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」が起動していなくても、リモコンを操作することにより自動的に「FM Tuner」が起動し、FMラジオを聞くことができます。

1 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。**

2 **目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。**

こんなときは	操作のしかた
前回受信したFM放送局を受信する	▷ PLAYを押す。
プリセット局を直接選んで受信する	受信したいプリセット局の番号の数字ボタン（1〜8のいずれか）を押す。
プリセット局を探す	⏮ PREV／⏭ NEXTを押す。
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ STEP／SCAN －または▶▶ STEP／SCAN ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀STEP／SCAN －または▶▶ STEP／SCAN ＋を2秒以上押す。
音量を調節する	VOL ＋／－ボタンを押す。

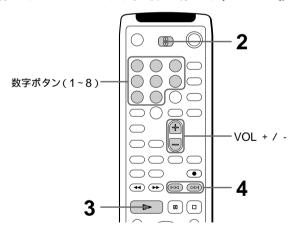
次のページにつづく

こんなときは	操作のしかた
FMラジオ音声のみをミュート（消音）する	□ STOPを押す。ミュートを解除するときは、▷ PLAYを押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
FMラジオをMDに録音する	● RECを押す。

プリセット局を選んで聞く Audio

オーディオモードでは、付属のリモコンや前面パネルのボタンやつまみを使って、「FM Tuner」で登録されたプリセット局を選んで聞くことができます。

ご注意

オーディオモードでは、プリセット局を選ぶか、マニュアル選局で受信することのみ可能です。プリセット局の変更、追加、削除はできません。プリセット局の変更、追加、削除はPCモードで「FM Tuner」を使って行います（122ページ）。

1 **本機がオーディオモードになっているかを確認する**（68ページ）**。**

2 **リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。**

3 **リモコンの ▷ PLAYを押す。**
前回受信していたFM放送局が受信されます。
最初にオーディオモードでFMラジオを受信したときは、「FM Tuner」でプリセット番号1に登録されているFM放送局が受信されます。

4 **聞きたいFM放送局の名前が表示窓に表示されるまで、リモコンの⏮ PREV／⏭ NEXTをくり返し押す。**

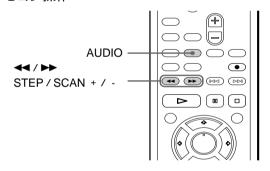
選ばれたFM放送局が受信されます。

音量を調整するには

リモコンのVOL ＋／－ボタンを押す。

プリセット局を直接選ぶには

上記の手順4で、聞きたいプリセット局のプリセット番号を、リモコンの数字ボタン（1〜8）で押します。

その他のリモコン操作

こんなときは	操作のしかた
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ STEP／SCAN －／▶▶ STEP／SCAN ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀ STEP／SCAN －／▶▶ STEP／SCAN ＋を2秒以上押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。

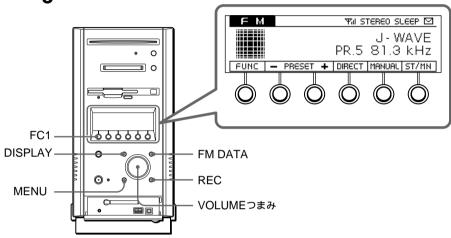
FMラジオ

次のページにつづく

前面パネルのボタンを使って操作するには

1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する（68ページ）。**

2 FC1**ボタンを前面パネルの画面に** F M **が表示されるまで押す。**

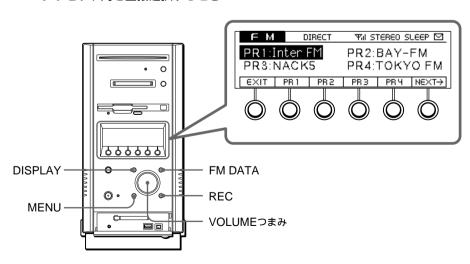
3 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

プリセット局を受信するとき

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをMDへ切り替える。
FC2（PRESET –）	前のプリセット局を受信する。
FC3（PRESET +）	次のプリセット局を受信する。
FC4（DIRECT）	プリセット局を直接選択するモードになる（127ページ）。
FC5（MANUAL）	FM放送局の周波数をマニュアルで調整するモードになる（129ページ）。
FC6（ST/MN）	押すごとにスピーカーから聞こえる音声が次のように切り替わります。 STEREO ←→ MONO

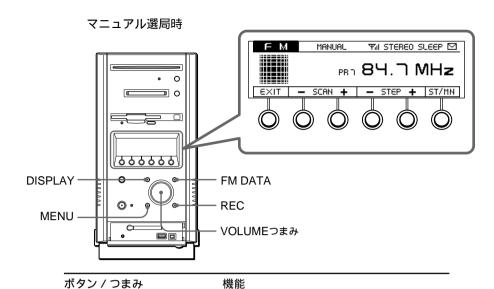
ボタン／つまみ	機能
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り替わります。 プリセット番号、FM放送局名、周波数 ↓ プリセット番号、周波数 ↓ スペクトルアナライザ
MENU	各種設定をするメニューを表示する。（169、252ページ）
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。（115ページ）

FMラジオ

プリセット局を直接選択するとき

次のページにつづく

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局受信時の状態（125ページ）に戻る。
FC2〜F5（PR1〜PR8）	押したプリセット局を受信する。
FC6 （NEXT →／TOP →）	「NEXT →」を押すと、表示窓の画面を次ページへ送る。 「TOP →」を押すと、表示窓の画面を前ページへ戻す。
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り替わります。 **プリセット番号とプリセット局名のリスト表示** ↕ **プリセット番号と周波数のリスト表示**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。（169、252ページ）
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。（115ページ）

何も操作しないで15秒たつと自動的にプリセット局受信時の状態（125ページ）に戻ります。

マニュアル選局時

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局受信時の状態（125ページ）にもどる。
FC2（SCAN –）	周波数の低い方向へ受信可能なFM放送局を探す。
FC3（SCAN +）	周波数の高い方向へ受信可能なFM放送局を探す。
FC4（STEP –）	1回押すごとに0.1MHzずつ周波数を減らす。
FC5（STEP +）	1回押すごとに0.1MHzずつ周波数を増やす。
FC6（ST/MN）	押すごとにスピーカーから聞こえる音声が次のように切り替わります。 STEREO ←→ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り替わります。 **周波数←→スペクトルアナライザ**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （169、252ページ）

ボタン／つまみ	機能
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。（115ページ）

FM文字放送を見る

FM文字放送とは

FM文字放送とは、ラジオ放送の電波と一緒に文字情報を送る放送サービスのことです。国内では、JFN系列（「見えるラジオ」）、J-WAVE（「アラジン」）、FM802（「Watch-me」）、NHK FMなどで実施中で、さまざまな番組情報や生活情報を配信しています。この文字放送は、FM文字放送対応のFMラジオで受信し、見ることができます（従来のラジオでは受信できません）。文字情報は全角文字で15文字（半角文字では31文字）×2行程度の文字を中心としたサービスとなっています。

FM文字放送には大きく分けて次の2種類があります。

番組情報（ライブ）

FMラジオの音声番組に関する情報。番組ごとに変わります。例えば、今流れている曲のタイトルやアーティスト名、リクエストの宛て先などが文字で見られます。

独立情報

音声の番組とは直接関係ない、独立した文字情報。例えば、ニュース、天気予報、交通情報などが文字で見られます。

上記のさまざまな情報を、ディスプレイ画面上で見ることができます。

FM文字放送受信時のご注意

FM文字放送は、受信状態により、音声が受信できても文字情報 は受信できないことがあります。建物の中や地下など、電波の弱いところでは、受信できなかったり、すべてのデータを受信するのに時間がかかったりします。
また、FM文字放送を行っていないFM放送局を受信したときも文字放送は表示されません。

「Media Bar」ソフトウェアを使って見る

FM文字放送を実施しているFM放送局を受信すると、番組情報（ライブ）や独立情報を見ることができます。

1 「地域を指定してFM放送局を選ぶ（スーパーエリアコール）」（119ページ）**の手順に従って、文字放送を実施しているFM放送局を受信する。**

2 「FM Tuner」の FM DATA ▼ **をクリックする。**

番組メニューが表示されます。

ちょっと一言

FM DATA ▼ をクリックする代わりに、リモコンのDVD MENUボタンを押して番組メニューを表示させることもできます。

3 番組メニューから見たい番組情報や独立情報を選ぶ。

FMラジオに戻るには

FM DATA ▼ をクリックし、表示されるメニューから［FM DATAの終了］を選びます。

受信を止めるには

画面右上の ✕ ボタンをクリックします。

- 番組情報は、放送局側の音声とのタイミングで、その都度新しい情報に変わりますが、本機は最新のものから最大10ページを常に保存しているので、「FM Tuner」のスクロールバーをクリックして、さかのぼって見ることができます。
- FMラジオの音声をリモコンの □STOPボタンを押してミュートして、「Media Bar」ソフトウェアで音楽CDを聞きながらFM文字放送を見ることができます。
- FM DATA ▼ をクリックし、表示されるメニューから［複数ウィンドウ表示］をクリックすると、別のウィンドウが表示され、同一の放送局の情報を複数同時に見ることができます。
  詳しくは、「FM Tuner」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

表示される文字について

- 放送局から送られてくる文字データに、Windows 98では表示できない文字が含まれていると、その番組ウィンドウ内ですべての文字が表示しきれないことがあります。
- Windows 98の仕様上、表示される文字の上下、左右の間隔が番組ウィンドウの大きさによって異なるので、「――」が「－－－」、「[」が「[」のように表示されることがあります。

番組メニューについて

本文が受信できていない番組メニューやサブメニューの項目はグレー色で表示され、選べません。

独立情報について

- 独立情報は受信できたページから順に表示されます。
- 独立情報は、FM放送局から新しい情報が放送されると、自動的に新しい情報に変わり、「番組が更新されました」と表示されます。この表示が出る直前は情報が混在することがあります。
- うまく受信できずに、情報の全ページが一度にそろわないことがあります。そのときは、受信できたページだけが表示されます。

ご注意

最終ページを受信するまで総ページ数を表示できない番組があります。

前面パネルのボタンを使って見る Audio

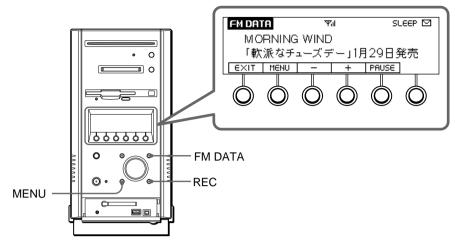
オーディオモードでは、本機前面のボタンを使って、番組情報（ライブ）や独立情報を見ることができます。

番組情報（ライブ）を見るには

FM文字放送を実施しているFM放送局を受信中に、本機前面のFM DATAボタンを押すと、番組情報が表示窓に表示されます。

ちょっと一言

番組情報は例です。

独立情報を見るには

1 **FM文字放送を実施しているFM放送局を受信中に、本機前面のFM DATAボタンを押す。**

番組情報が表示窓に表示されます。

2 **FC2（MENU）ボタンを押す。**

文字放送メニューが表示されます。

3 **FC3（−）またはFC4（＋）ボタンを押して見たい情報を選び、FC5（ENTER）を押す。**

選んだ独立情報が表示窓に表示されます。

ご注意

- オーディオモードでFM文字放送を見るとき、FM文字放送を行っていないFMラジオ局を受信しても、本機前面の表示窓に「受信中です。しばらくお待ちください。」と表示されます。
- FM文字放送の内容は、一定時間ごとに更新されます。オーディオモードではFM文字放送を見るとき、FM文字放送の内容が更新された場合は、古い内容をいったん消去するため、ページが飛んだり、新しい内容が本機前面の表示窓に表示されるまでに時間がかかることがあります。

次のページにつづく

前面パネルのボタン操作

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局を受信する（124ページ）。
FC2 （MENU／RETURN）	番組情報の受信時は、文字放送メニューを表示する。 独立情報の文字放送メニュー時は、一つ前のメニューに戻る。
FC3（－）	ページを戻す。文字放送メニュー時は、メニュー項目を選ぶときに押す。
FC4（＋）	ページを送る。文字放送メニュー時は、メニュー項目を選ぶときに押す。
FC5 （PAUSE／ENTER）	ページの自動送りを一時停止する。もう一度押すと、自動送りを再開する。 文字放送メニュー時は、選んだメニュー項目を決定するときに押す。
FM DATA	押すと、FMラジオ受信状態に戻る。
MENU	各種設定をするメニューを表示する（169、252ページ）。
REC	FMラジオ放送の録音状態になる。

FM文字放送を保存する PC

PCモードでは大切な情報を保存しておいて、あとで見ることができます。
番組単位で番組情報または独立情報を保存できます。
保存した情報は、呼び出して見ることができます。

1 **FM文字放送を受信し、保存したい番組を表示させる。**
文字情報の表示のしかたは、「「Media Bar」ソフトウェアを使って見る」（131ページ）をご覧ください。

2 保存したい番組ウィンドウの データ保存 をクリックする。

そのウィンドウに表示されていたページが保存され、「保存データ」画面で表示されます。

番組情報（ライブ）を保存する場合は、最新のものからさかのぼって10ページまで保存します。

独立情報を保存する場合は、現在受信しているページを番組ごと保存します。

ちょっと一言

データは100件まで保存できます。

保存した情報を呼び出すには

1 「表示」メニューから［保存データの表示］を選ぶ。

「保存データ」画面が表示されます。

2 履歴リストから見たい情報を選ぶ。

保存した情報が表示されます。

ご注意

FM文字放送番組の文字の中には、Windows 98では表示できないものが含まれている場合があります。このような番組を保存したときは、正常に文字が表示されないことがあります。

よく見るFM文字放送番組を登録する（ブックマーク） PC

PCモードでは、FM文字放送番組を登録し、名前を付けることができます。名前を選ぶだけで、いつも見る文字放送番組を受信することができます。

ちょっと一言

文字放送番組は20件まで登録することができます。

1 よく見るFM文字放送番組を表示させる。

FM文字放送番組の表示のしかたについて詳しくは、「「Media Bar」ソフトウェアを使って見る」（131ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

2 「FM Tuner」の［ブックマーク］メニューから［ブックマークの追加］をクリックする。

「ブックマークの追加」画面が表示されます。

3 名前を入力し、OK をクリックする。

表示しているFM文字放送番組がブックマークに追加されます。

登録したFM文字放送番組を見るには

「FM Tuner」の［ブックマーク］メニューから登録したFM文字放送番組の名前を選びます。

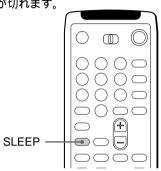
登録したFM文字放送番組の名前を変更する、順番を入れ替える、削除するには

「FM Tuner」の［ブックマーク］メニューから［ブックマークの編集］をクリックし、「ブックマークの編集」画面で行います。詳しくは、「FM Tuner」のヘルプをご覧ください。

ご注意

- FM放送局の番組改編で登録した文字放送番組自体がなくなっている場合は、文字放送番組は表示されません。また、番組名が変わった場合は、そのまま表示されます。
- 複数のウィンドウを表示しているときは、登録したいFM文字放送番組が表示されているウィンドウの［ブックマーク］メニューから、［ブックマークの追加］をクリックしてください。

音楽を聞きながら眠る（スリープタイマー）

音楽CDやMD、FMラジオを聞きながら床につき、指定した時間がたつと、自動的に電源が切れます。

オーディオモードで音楽CDやMDを再生中または、FMラジオを聞いているときに、リモコンのSLEEPボタンを押す。

押すたびに時間が下図のように表示窓に表示され、しばらくすると元の表示に戻ります。表示された時間がたつと、本機の電源が切れます。時間は10分単位で設定できます。

→90分→80分→70分→60分→50分
OFF←10分←20分←30分←40分←

残り時間を確認するには

SLEEPボタンを1回押します。

途中で時間を変えるには

SLEEPボタンを押して、時間を選び直します。

スリープタイマーを解除するには

SLEEPボタンをくり返し押して、「OFF」を表示させます。

前面パネルのボタンを使ってスリープタイマーを設定することもできます

本機前面パネルのMENUボタンを押し、「MENU1」を表示させ、FC3（SLEEP）ボタンを押して時間を設定します。

目覚ましとして使う（デイリータイマー） PC

毎日指定した時刻に自動的に本機の電源が入り、音楽CDやMD、FMラジオを聞いて、指定の時刻に切れるように設定できます。
設定は、Windowsを起動して「MX Stage」で行いますが、デイリータイマーは本機の電源が切れている状態のときでタイマーがオンのときのみ有効です。

1 **本機がPCモードになっているかを確認する**（68ページ）**。**

2 **音楽CDまたはMDを聞いて目覚める場合は、音楽CDまたはMDをDVD-ROMドライブやMDドライブに入れる。**

ディスクやMDの入れかたについて詳しくは、77ページの手順4や94ページの手順3をご覧ください。

ご注意

DVDビデオなど、音楽CDやMD以外のディスクを入れた場合は、本機は正しく動作しません。

3 **デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。

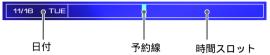
4 **画面左下の デバイス ビュー をクリックして、「タイマービュー」を選ぶ。**

「タイマービュー」が表示されます。

5 **△/▽（カレンダースクロールボタン）を使ってカレンダーをスクロールし、予約したい日の日付を表示する。**

毎日または毎週同じ時刻にタイマーを設定したい場合は、適当な日付を表示させます。

6 **タイマーで再生したいデバイス（音楽CD、MD、FMラジオのいずれか）のアイコンを予約したい日付の時間スロットにドラッグアンドドロップする。**

時間スロットに、30分の長さの予約線が表示されます。

ちょっと一言

予約は8つまで設定できます。#1 ～ #8 の予約番号にそれぞれ設定した予約が対応しています。予約が設定されている番号は初期設定では白色で表示されます。

7 **予約線の位置と長さを調整し、タイマー開始／終了時刻、予約時間を設定する。**

予約線の中央をドラッグして、移動させたい日付の時間スロット上にドロップして予約線を移動します。

ちょっと一言

予約線の幅がせまくてドラッグできないときは、いったん予約線の幅を広げてからドラッグしてください。

カーソルが◁▷になったときは予約線の端を左右にドラッグして、予約線の長さを調整します。

ご注意

希望の時刻に本機が起動して音楽CDやMDの再生が始まったり、FMラジオを受信できるように、タイマー開始時刻は希望の時刻の約2分前に設定してください。

次のページにつづく

8 毎日または毎週、同じ時刻にタイマーを設定するときは、タイマー時刻と時間を設定したあと、予約線をダブルクリックする。

「タイマー予約設定」画面が表示されます。

9 予約パターンを選び、OK をクリックする。

「毎日」または「毎週」を選びます。

「毎週」を選んだときは予約したい曜日もチェックしてください。

ちょっと一言

「タイマー予約設定」画面では、予約日時や予約時間を変更することもできます。また、メモを記入したり、タイマー実行時の再生ボリュームを指定することもできます。他にも、タイマー設定するデバイスによって、再生モードや再生を開始する曲などの指定、FM放送局指定などの詳細な事項をここで設定することができます。詳しくは、「MX Stage」のヘルプをご覧ください。

10 タスクトレイへ をクリックして「MX Stage」をタスクトレイへ収納する。

これでタイマー設定は完了です。

本機の電源が切れているとき、設定した時刻にタイマーが起動して音楽CDやMDの再生、FMラジオの受信が始まります。

音量を調節するには

タイマーを設定して音楽CDやMD、FMラジオを聞いて目覚めたり、FMラジオをMDに録音する場合、音量はオーディオモードで調節したものになります。タイマーの音量を調節するときは、以下の手順に従って操作してください。

1 **タイマー設定をしたあと、本機の電源を切る。**

2 **本機前面のFC6ボタンを押す。**

タイマーが解除されます。

3 **本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIO POWERボタンを押す。**

オーディオモードで本機の電源が入ります。

4 **VOLUMEつまみを回してタイマー起動時の音量を調節する。**

5 **本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIOパワーボタンを押す。**

本機の電源が切れ、タイマーが設定されます。

タイマー起動時に、手順4で調節した音量で音楽CDやMDの再生またはFMラジオが始まります。

タイマー設定を変更するには

現在選択されているタイマー設定を変更するには、以下のいずれかの操作を行い、「タイマー予約設定」画面を表示させて変更します。

- 変更したい予約線を CHANGE にドラッグアンドドロップする。
- 変更したい予約線をクリックして選び、 CHANGE をクリックする。
- 変更したい予約線を右クリックして表示されるメニューから［予約変更］をクリックする。

次のページにつづく

タイマー設定を解除するには

解除したいタイマー設定の予約線をクリックしてから、以下のいずれかの操作をします。

- キーボードのDelete（デリート）キーを押す。
- （ごみ箱ボタン）上に予約線をドラッグアンドドロップする。
- （ごみ箱ボタン）をクリックする。

予約線を右クリックして表示されるメニューから「取り消し」を選んでもタイマーを解除できます。

ご注意

- タイマー設定の時刻に本機がPCモードまたはオーディオモードで起動している場合、電源を切った状態でもタイマーがオフの場合は、タイマーは働きません。
- タイマーが設定されている状態でPCモードまたはオーディオモードから本機の電源を切ると、自動的にタイマーがオンの状態になります。
- FMラジオ受信のタイマーを設定したあと、FM放送のプリセット局の設定を変更するとタイマーが正しく動作しないことがあります。
- タイマーがオンの状態で本機の電源が切られているときは、PCモードまたはオーディオモードで本機の電源を入れることはできません。（表示窓には と表示されています。）この場合は、前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマーをオフにしてから、本機の電源を入れてください。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能は正常に動作しません。この場合は、いったん本機の電源をPCモードで入れてください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。「制限事項について」（156ページ）の注意事項もあわせてご覧ください。

FMラジオをMDへタイマー録音する

指定した時刻に自動的に本機の電源が入り、FMラジオのプリセット局をMDに録音して、指定の時刻に切れるように設定できます。
設定は、Windows 98を起動して「MX Stage」で行いますが、タイマーは本機の電源が切れている状態のときでタイマーがオンのときのみ有効です。

1 本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。

2 録音用のMDをMDドライブに入れる。

MDの入れかたについて詳しくは94ページの手順3をご覧ください。

3 デスクトップ画面右下のをダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

4 画面左下の デバイス ビュー をクリックして、「タイマービュー」を選ぶ。

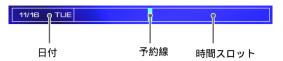
「タイマービュー」が表示されます。

5 △/▽（カレンダースクロールボタン）を使ってカレンダーをスクロールし、予約したい日付を表示する。

毎日または毎週同じ時刻にタイマーを設定したい場合は、適当な日付を表示させます。

次のページにつづく

6 (FM) を予約したい日付の時間スロットにドラッグアンドドロップする。

時間スロットに、30分の長さの予約線が表示されます。

7 予約線の位置と長さを調整し、タイマー開始／終了時刻、予約時間を設定する。

予約線の中央をドラッグして、移動させたい日付の位置にドロップして予約線を移動します。

予約線の幅がせまくてドラッグできないときは、いったん予約線の幅を広げてからドラッグしてください。

カーソルがになったときは予約線の端をドラッグして、予約線の長さを調整します。

ご注意

録音済みのトラックが多いMDを使って録音するときは、希望の時刻に本機が起動してFMラジオからMDへの録音が開始できるように、タイマー開始時刻は希望の時刻の約2分前に設定してください。

8 予約線をダブルクリックする。

「タイマー予約設定」画面が表示されます。

9 予約パターンと録音したいプリセット局を選び、［MDへ録音する］をクリックしてチェックをつけ、 OK をクリックする。

予約パターンは、「1回」、「毎日」、「毎週」のいずれかを選びます。「毎週」を選んだときは予約したい曜日もチェックしてください。

 ちょっと一言

「タイマー予約設定」画面では、予約日時や予約時間を変更することもできます。また、メモを記入したり、タイマー実行時のボリュームを指定することもできます。詳しくは、「MX Stage」のヘルプをご覧ください。

10 タスクトレイへ をクリックして「MX Stage」をタスクトレイへ収納する。

これでタイマー設定は完了です。

本機の電源が切れているとき、設定した時刻にタイマーが起動してFMラジオのMDへの録音が始まります。

音量を調整するには

141ページをご覧ください。

タイマー設定を変更するには

現在選択されているタイマー設定を変更するには、以下のいずれかの操作を行い、「タイマー予約設定」画面を表示させて変更します。

- 変更したい予約線を CHANGE にドラッグアンドドロップする。
- 変更したい予約線をクリックして選び、 CHANGE をクリックする。
- 変更したい予約線を右クリックして表示されるメニューから［予約変更］をクリックする。

タイマー設定を解除するには

解除したいタイマー設定の予約線をクリックしてから、以下のいずれかの操作をします。

- キーボードのDelete（デリート）キーを押す。
- （ごみ箱ボタン）上に予約線をドラッグアンドドロップする。
- （ごみ箱ボタン）をクリックする。

予約線を右クリックして表示されるメニューから「取り消し」を選んでもタイマーを解除できます。

ご注意

- タイマー設定の時刻に本機がPCモードまたはオーディオモードで起動している場合、電源を切った状態でもタイマーがオフの場合は、タイマーは働きません。
- マニュアル選局したFM放送局をタイマー録音することはできません。
- タイマーが設定されている状態でPCモードまたはオーディオモードから本機の電源を切ると、自動的にタイマーがオンの状態になります。
- タイマーを設定したあと、FM放送のプリセット局の設定を変更するとタイマーが正しく動作しないことがあります。
- タイマーがオンの状態で本機の電源が切られているときは、PCモードまたはオーディオモードで本機の電源を入れることはできません。（表示窓には と表示されています。）この場合は、前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマーをオフにしてから、本機の電源を入れてください。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能は正常に動作しません。この場合は、いったん本機の電源をPCモードで入れてください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。「制限事項について」（156ページ）の注意事項もあわせてご覧ください。

ちょっと一言

タイマー動作中に再生や録音を中断したいときもFC6（TIMER）ボタンを押すと、タイマーが解除されます。

タイマーで自動的に電子メールを確認する PC

設定した時刻になったら自動的にWindows 98を起動して、電子メールを確認するように設定します。
タイマーは、本機の電源が切れている状態のときで、タイマーがオンのときのみ有効です。

ご注意

- 本機の電源を切った状態からパーソナルタイマーで電子メールソフトウェアを起動するとき、Windowsのログインパスワードを設定している場合は、Windows起動時にパスワード入力画面が表示されます。この画面でパスワードを入力するまで、Windowsは起動せず、パーソナルタイマーで設定した電子メールソフトウェアは起動しませんのでご注意ください。
- この機能を使う前に、電子メールが使えるように設定しておく必要があります。詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

1 本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。

2 デスクトップ画面右下の　をダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

3 画面左下の デバイスビュー をクリックして「タイマービュー」を選ぶ。

「タイマービュー」が表示されます。

次のページにつづく

タイマーを使う

4 (パーソナルタイマー)をダブルクリックする。

「パーソナルタイマー設定」画面が表示されます。

5 [電子メールを受信する/WWWブラウザを起動する]を選択し、次へ(N) >をクリックする。

「パーソナルタイマー設定－実行内容の選択」画面が表示されます。

6 [ダイヤルアップネットワーク接続する]をクリックしてチェックマークを表示させ、「ダイヤルアップの接続先」でをクリックして表示されるリストから接続するダイヤルネットワークを選択する。

ちょっと一言

ダイヤルアップの設定が済んでいないと、この部分はグレー表示になり、選択できません。

7 [電子メールの受信]をクリックし、「使用するソフトウェアの選択」でをクリックして表示されるリストから使用する電子メールソフトウェアを選択し、次へ(N) > をクリックする。

「パーソナルタイマー設定－メール着信アイコンの表示」画面が表示されます。

ご注意

電子メールソフトウェアによっては、「パーソナルタイマー設定－メール着信アイコン表示」画面が表示されない場合があります。その場合は着信アイコンも表示されません。

8 新しいメールを受信したときにアイコンを表示窓に表示させるかどうかを選択し、［次へ(N) >］をクリックする。

「パーソナルタイマー設定－終了時間の設定」画面が表示されます。

9 電子メールソフトウェアを起動してから本機の電源を切るまでの時間を設定し、［次へ(N) >］をクリックする。

「パーソナルタイマー設定－設定名の入力」画面が表示されます。

10 「設定名」に任意の名前を入力し、［完了(F)］をクリックする。

「パーソナルタイマー設定－設定名の入力」画面が閉じます。

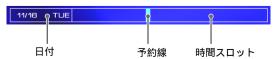
11 「タイマービュー」で△/▽(カレンダースクロールボタン) を使ってカレンダーをスクロールし、予約したい日付を表示する。

毎日または毎週同じ時刻にタイマーを設定したい場合は、適当な日付を表示させてください。

12 (パーソナルタイマー) を予約したい日付の時間スロットにドラッグアンドドロップする。

時間スロットに予約線が表示されます。

タイマーを使う

次のページにつづく

13 予約線の位置を調整し、タイマー開始時刻を設定する。

予約線の中央をドラッグして、移動させたい日付の時間スロット上にドロップして予約線を移動します。

ご注意

- 予約線の長さ（予約時間）は、「パーソナルタイマー設定」画面で設定されている時間になりますので、ここでは変更できません。変更するときは149ページの手順9をご覧ください。
- パーソナルタイマーを設定するときは、希望の時刻に本機が起動して電子メールを確認できるように、タイマー開始時刻は、希望の時刻の約２分前に設定してください。

14 タイマー時刻を設定したら、予約線をダブルクリックする。

「タイマー予約設定」画面が表示されます。

15 予約パターンを選び OK をクリックする。

予約パターンは、「1回」、「毎日」、「毎週」のいずれかを選びます。「毎週」を選んだときは予約したい曜日もチェックしてください。

ちょっと一言

「タイマー予約設定」画面では、メモを記入することもできます。詳しくは、「MX Stage」のヘルプをご覧ください。

16 をクリックして「MX Stage」をタスクトレイへ収納する。

これでタイマー設定は完了です。

本機の電源が切れているとき、設定した時刻にタイマーが起動し、Windows 98が起動して、自動的にメールを確認します。

メールの着信があった場合、本機前面の表示窓に✉（メールアイコン）が表示されます。

終了時刻になると、自動的にWindows 98が終了し、本機の電源が切れます。

ちょっと一言

- 表示窓の ✉（メールアイコン）は「パーソナルタイマー設定」でメールアイコンを表示しない設定にした場合は表示されません。詳しくは「MX Stage」のヘルプをご覧ください。
- 表示窓の ✉（メールアイコン）は本機の電源を切った状態でも消えません。✉（メールアイコン）の表示をを消すには、本機の動作中にデスクトップ画面右下のタスクトレイ上で点滅しているアイコンをクリックします。

タイマー設定を変更するには

現在選択されているタイマー設定を変更するには、以下のいずれかの操作を行い、「タイマー予約設定」画面を表示させて変更します。

- 変更したい予約線を CHANGE にドラッグアンドドロップする。
- 変更したい予約線をクリックして選び、 CHANGE をクリックする。
- 変更したい予約線を右クリックして表示されるメニューから［予約変更］をクリックする。

タイマー設定を解除するには

解除したいタイマー設定の予約線をクリックしてから、以下のいずれかの操作をします。

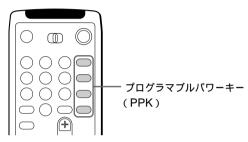
- キーボードのDelete(デリート）キーを押す。
- （ごみ箱ボタン）上に予約線をドラッグアンドドロップする。
- （ごみ箱ボタン）をクリックする。

予約線を右クリックして、表示されるメニューから「取り消し」を選んでもタイマーを解除できます。

ご注意

- タイマー設定の時刻に本機がPCモードまたはオーディオモードで起動している場合、電源を切った状態でもタイマーがオフの場合は、タイマーは働きません。
- タイマーが設定されている状態でPCモードまたはオーディオモードから本機の電源を切ると、自動的にタイマーがオンの状態になります。
- タイマーがオンの状態で本機の電源が切られているときは、PCモードまたはオーディオモードで本機の電源を入れることはできません。（表示窓には と表示されています。）この場合は、前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマー設定をオフにしてから、本機の電源を入れてください。
- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能は正常に動作しません。この場合は、いったん本機の電源をPCモードで入れてください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。「制限事項について」（156ページ）の注意事項もあわせてご覧ください。

PPK（プログラマブルパワーキー）とは

PPK（プログラマブルパワーキー）は、1回押すだけで目的のソフトウェアを起動できる便利なキーです。電源スイッチの機能も兼ね備えていますので、本機の電源が切られている状態で押すと、電源の投入から目的のソフトウェアの起動までを自動的に行います。

本機に付属のリモコンには4つのPPKがあり、それぞれのボタンに1つずつソフトウェアが初期設定で割り当てられています。
初期設定で割り当てられているソフトウェアについては、「ワンタッチでソフトウェアを起動する」（153ページ）をご覧ください。
また、これらの割り当てられたソフトウェアは、「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使ってよく使うソフトウェアなどへ変更することもできます。
割り当てられたソフトウェアを変更する方法については、「プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる」（153ページ）をご覧ください。

ご注意

以下の場合はPPKの機能は使えません。
- 本機がスタンバイモードに入っているとき（本機の電源ランプが赤色に点灯）
- ディスプレイの電源が切れているとき（ディスプレイの電源ランプが消灯）
- ディスプレイが省電力モードに入っているとき（ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯）

PPKを使ってソフトウェアを起動するときは、キーボード上のいずれかのキーを押して本機を通常の動作モードに戻してから操作を行ってください。ディスプレイの電源が切れているときは、ディスプレイの電源を入れてください。

 ちょっと一言

キーボードのショートカットキーでもソフトウェアを起動することができます。詳しくは「キーボードを使う」の「キーボードショートカット」（46ページ）をご覧ください。

ワンタッチでソフトウェアを起動する

付属のリモコンの各プログラマブルパワーキーに割り当てられたソフトウェアをワンタッチで起動できます。各ボタンには、初期設定でそれぞれ以下のソフトウェアが割り当てられています。

ボタン名	割り当てられたソフトウェア
P1	「Outlook Express」ソフトウェア（電子メール）
P2	「Internet Explorer」ソフトウェア（インターネット）
P3	「MX Stage」ソフトウェア（オーディオ機能）
P4	「Picture Gear」ソフトウェア

目的に合わせて、P1〜P4ボタンのいずれかを押す。

ボタンに割り当てられたソフトウェアが起動します。

ご注意

P1およびP2ボタンを使うには、インターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

各ボタンに割り当てられたソフトウェアは「VAIO Action Setup」ソフトウェアで変更することができます

手順について詳しくは、下記の「プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる」をご覧ください。

プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる PC

ここでは、プログラマブルパワーキーに初期設定で割り当てられたソフトウェアを、付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、好みのソフトウェアが起動するように変更する方法を説明します。

ここでは、P4ボタンを押すと「オンラインマニュアル」（この取扱説明書の内容）が起動するようにしてみます。

次のページにつづく

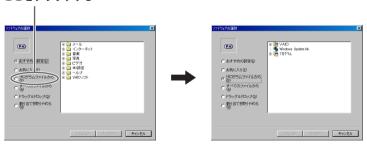
1 デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。

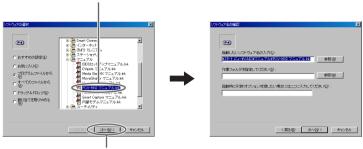
プログラマブルパワーキー（PPK）の「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。

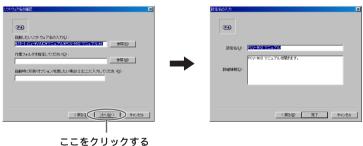
2 をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

3 ［プログラムファイルから］をクリックする。

本機に付属しているソフトウェアなどのリストが右側に表示されます。

4 **[VAIO]、[マニュアル] の順にダブルクリックし、[PCV-MX2 マニュアル.lnk] をクリックしてから 次へ(N) > をクリックする。**

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。

5 **次へ(N) > をクリックする。**

「設定名の入力」画面が表示されます。

6 **「設定名」と「詳細情報」を入力してから 完了(F) をクリックする。**

これで設定は完了です。リモコンのP4ボタンを押すと「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し「オンラインマニュアル」が表示されます。

「VAIO Action Setup」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

次のページにつづく

P1～P3ボタンでの設定割り当てについて

P1～P3ボタンに別のソフトウェアを割り当てる場合には、154ページの手順2で「P1」、「P2」または「P3」のいずれかのボタンをクリックして設定してください。

制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。
プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後に電源を切った状態へ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの、電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。
このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「VAIO Action Setup」ソフトウェアのダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。

スクリプト実行中はコンピュータの操作をしないでください

「VAIO Action Setup」ソフトウェアの設定による電子メール取り込みには「Smart Script」ソフトウェアで作成したスクリプトを使用しています。
これらのスクリプトを実行中にコンピュータの操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

動画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から動画を取り込み、動画を加工／編集したり、電子メールに添付して送ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の動画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から動画を取り込む
- 動画を加工／編集する
- 動画を電子メールで送る

ちょっと一言

本機を使って、i. LINK対応機器から動画を取り込むには別売りの i. LINKケーブルが必要です。詳しくは「必要な i. LINKケーブル」（212ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

付属の「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を本機に取り込めます。

以下の流れに沿って動画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（207ページ）をご覧ください。

「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を取り込みます。

各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアの取扱説明書または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

次のページにつづく

ご注意

- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って動画を取り込むときは、他のすべてのソフトウェアをあらかじめ終了してください。
- ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む動画に影響はありません。
  ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（182ページ）をご覧ください。
- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って取り込む動画データは容量が大きいので、本機では、ハードディスクがC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれており（お買い上げ時）、動画を扱うためのデータのスペースとしてD:ドライブが確保されています。お使いになる状況によって、D:ドライブに割り当てられている容量を変えることができます。パーティションサイズを変更するには、「パーティションサイズを変更する」（262ページ）をご覧ください。

 リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き替えています。この書き替えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き替えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

動画を加工／編集する

i.LINK対応機器で録画した動画を本機に取り込んで加工／編集することができます。不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげるといった加工をするときは付属の「DVgate Assemble」ソフトウェアを使います。
また、付属の「MovieShaker」ソフトウェアを使うと、動画と動画をつなぐオーバーラップ効果や色の調整、特殊効果、テキスト文字の挿入などさまざまなビデオ編集ができます。加工／編集した動画はi.LINK対応機器に録画することもできます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（207ページ）をご覧ください。

動画を取り込む

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（157ページ）をご覧ください。

動画の簡単な加工をする

「DVgate Assemble」ソフトウェアを使って動画を加工します。
「DVgate Assemble」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」の取扱説明書をご覧ください。

動画を編集する

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画を編集します。
「MovieShaker」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「MovieShaker」の取扱説明書をご覧ください。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（157ページ）をご覧ください。

↓

動画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

静止画で楽しむ PC

本機にi.LINK対応機器から静止画を取り込み、静止画を電子メールに添付して送ったり、パノラマ画像や写真入りのラベルを作ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の静止画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から静止画を取り込む
- 静止画を電子メールで送る
- パノラマ画像を作る
- 写真入りのラベルを作る

ちょっと一言

本機を使って、i.LINK対応機器から静止画を取り込むには別売りの i. LINKケーブルが必要です。詳しくは「必要な i. LINKケーブル」（212ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

付属の「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で録画した映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。以下の流れに沿って静止画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（207ページ）をご覧ください。

「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。
各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアの取扱説明書または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

次のページにつづく

ご注意

ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む静止画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（182ページ）をご覧ください。

 リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き替えています。この書き替えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き替えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

静止画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。静止画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（161ページ）をご覧ください。

↓

静止画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

パノラマ画像を作る

本機に取り込んだ静止画を何枚かつなげて、パノラマ画像を作ることができます。パノラマ画像を作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

パノラマ画像の作成に必要な静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、パノラマ画像作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（161ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」を使ってパノラマ画像を作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

写真入りのラベルを作る

本機に取り込んだ静止画を使ったラベルを作成し、印刷してMDのケースなどに貼ることができます。写真入りのラベルを作るには、付属の「PictureGear」を使い、以下の流れに沿って行います。

ラベルに入れる静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、ラベル作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（161ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」を使って静止画や文字をレイアウトして、写真入りのラベルを作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

セットアップ編

音質の設定を変更する

音楽にあった音を選ぶ（プリセットイコライザ）PC Audio

4種類のプリセットイコライザを、音楽や状況に合わせて選べます。

PCモードでは

1 **本機がPCモードになっているかを確認する**（68ページ）。

2 **音楽CDなどを再生中に、デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。

3 **画面左下の デバイス ビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**

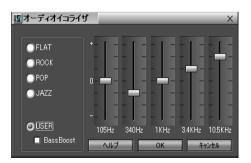
「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の（SPEAKER）を右クリックし、［オーディオイコライザ］をクリックする。**

ちょっと一言

スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックして、さらに［オーディオイコライザ］をダブルクリックして「オーディオイコライザ」画面を表示することもできます。

「オーディオイコライザ」画面が表示されます。

ご注意

ドルビーヘッドホン方式でDVDビデオを再生中は、「オーディオイコライザ」画面を表示させることはできません。

5 **音楽に合ったプリセットイコライザをクリックして選ぶ。**

FLAT： イコライザを設定しないときに選びます。

ROCK：ロックに適した設定にします。パワフルでクリアな音を再現したいときに選びます。

POP（お買い上げ時の設定）：
ポップスに適した設定にします。明るくて軽快な音を再現したいときに選びます。

JAZZ： ジャズ音楽に適した設定にします。パーカッションなどの音を再現したいときに選びます。

USER：お好みの音質に調整できます。設定のしかたについては、下記の「お好みの音質に調整するには（USER）」をご覧ください。

– BassBoost：現在の音質よりさらに低音を強調します。

ちょっと一言

リモコンのEQボタンをくり返し押しても、プリセットイコライザを選ぶことができます。

ご注意

ドルビーヘッドホン方式でDVDビデオを再生中は、自動的に「FLAT」の設定になりEQボタンを押しても設定は変更されません。

6 **OK をクリックする。**

プリセットイコライザの効果を消すには

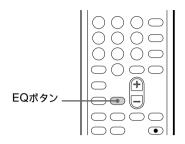
「オーディオイコライザ」画面で［FLAT］をクリックし、OK をクリックします。

お好みの音質に調整するには（USER）

上記の手順5で「USER」をクリックして選び、画面右側のスライダを上下に動かして各周波数帯域のゲインを調整し、OK をクリックします。「USER」に、調整した音声が保存されます。また、［BassBoost］をクリックすると、さらに低音を強調できます。

次のページにつづく

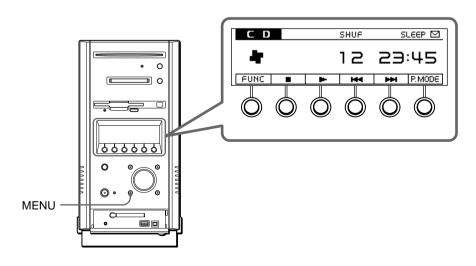
オーディオモードでは

リモコンで操作するには

オーディオモードで音楽CDなどを再生中にリモコンのEQボタンを押す。

押すたびに、表示窓に表示されるプリセットイコライザ名が次のように変わります。

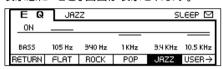
プリセットイコライザの効果を消すには

EQボタンをくり返し押して、表示窓に「FLAT」を表示させる。

前面のパネルのボタンで操作するには

1 **オーディオモードで音楽CDなどを再生中に、前面パネルのMENUボタンを押す。**

表示窓に「MENU1」画面が表示されます。

2 **FC2（EQ）ボタンを押す。**

表示窓に「EQ」画面が表示されます。

3 **音楽に合ったプリセットイコライザをFC2（FLAT）～FC6（USER →）ボタンを押して選ぶ。**

選んだプリセットイコライザが反転表示されます。

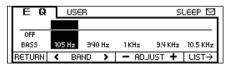
表示窓の表示を元に戻すには、FC1（RETURN）ボタンを押してから、もう一度FC1（EXIT）ボタンを押します。

プリセットイコライザの効果を消すには

「EQ」画面でFC2（FLAT）ボタンを押します。

お好みの音質に調整するには（USER）

前ページの手順3でFC6（USER →）ボタンを押します。

下のような画面が表示されます。

FC2（BAND <）またはFC3（BAND >）ボタンを押して調整する周波数帯域を選び、FC4（ADJUST－）またはFC5（ADJUST＋）ボタンを押してゲインを調整します。

BASSを選ぶと、FC4（ADJUST－）またはFC5（ADJUST＋）ボタンを押してBassBoostを入／切できます。

ちょっと一言

- お買い上げ時は「POP」に設定されています。
- イコライザの効果は、MDには録音されません。本機のOPTICAL OUTとLINE OUTコネクタからも出力されません。
- オーディオモード時にリモコンで「USER」を選ぶと、PCモードまたは上記で設定した音質が反映されます。リモコンでは「USER」の周波数帯域ゲイン調整はできません。

音楽データやゲームの音質を変更する PC

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 (XG Synth Driver) をダブルクリックする。

「S-YXG50のプロパティ」画面が表示されます。

ちょっと一言

デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックして表示されるメニューから［ソフトシンセサイザー設定］をクリックしても「S-YXG50のプロパティ」画面が表示されます。

3 お好みのサウンド設定をクリックして選ぶ。

詳細な設定をしたいときは、［詳細設定1／2］および［詳細設定2／2］の画面で各種の設定を行います。
画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。
各画面の設定項目は、以下のとおりです。

詳細設定1/2

❑ ウェーブテーブル音源 最大発音数

最大発音数をクリックするか、スライダを左右に動かして選ぶ。

❑ 最大CPU使用率

CPUの占有率をクリックするか、スライダを左右に動かして選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

ご注意

CPUの占有率を上げすぎると、他のソフトウェアの動作が遅くなることがあります。

❑ 受信エフェクト

各種エフェクト効果を入／切する。

リバーブ: □をチェックして☑にすると、残響効果が加わる。

コーラス: □をチェックして☑にすると、奥行きや厚みといった音響効果が加わる。

バリエーション: □をチェックして☑にすると、さまざまな音響効果が加わる。

❑ 音質（サンプリング周波数）

再生する音声のサンプリング周波数（音声波形のきめ細かさ）をクリックして選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

❑ ダイレクトサウンド

マイクロソフト社のダイレクトサウンドの使用をクリックして入／切する。ダイレクトサウンドに対応したゲームを使用する場合は「On」を選ぶ。

詳細設定2/2

❑ オーディオデバイス

ダイレクトサウンドがオン／オフのとき、 オーディオ再生デバイスを選ぶ。ダイレクトサウンドがオンの場合には、発音処理時間を調整できます。

4 設定が終了したら、[OK]をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

「YAMAHA ソフトシンセサイザー S-YXG50」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、このソフトウェアのヘルプをご覧ください。

DVDの設定を変更する PC

デジタル出力を切り替える

本機のOPTICAL OUTコネクタとHEADPHONESコネクタから出力する音声信号の方式を切り替えます。

- PCM
  ドルビーデジタル（AC-3）に対応していない機器（アンプなど）を本機につなぐときは「PCM」に設定します。この設定のときは、ドルビーデジタル（AC-3）方式で記録されているDVDを再生すると、音声が2チャンネルにダウンミックスされて出力されます。
- **ドルビーデジタル**
  ドルビーデジタル（AC-3）に対応している機器を本機につなぐときは「ドルビーデジタル」に設定します。この設定のときは、ドルビーデジタル（AC-3）方式で記録されているDVDを再生すると、ドルビーデジタル（AC-3）方式で音声が出力されます。
  Linear PCM方式で記録されているDVDを再生すると、PCM方式で音声が出力されます。
  音楽CDを再生したり、WAVファイルやMIDIファイルを再生すると、音声はPCM方式で出力されます。
- **ドルビーヘッドホン**
  ヘッドホンを本機につないでドルビーヘッドホン方式で音声を出力したいときは「ドルビーヘッドホン」に設定します。この設定のときは、ドルビーデジタル方式（AC-3）で記録されているDVDを再生すると、通常のヘッドホンでも仮想的にドルビーデジタル音声を楽しむことができます。
  ヘッドホンのつなぎかたについて詳しくは、「ヘッドホンをつなぐ」（206ページ）をご覧ください。

ご注意

「オーディオイコライザ」画面を表示させているときは、「DVD設定」画面は表示させることはできません。

ちょっと一言

ドルビーデジタル（AC-3）方式で音声が出力されている間はスピーカー、ヘッドホンおよびLINE OUTコネクタの出力はオフになりますが、ノイズなどの雑音が出ることがあります。この場合は、リモコンのMUTINGボタンを押して音声を消してください。

ドルビーデジタル（AC-3）に対応していない機器をつなぐときは、デジタル出力をPCMにしてください。設定を誤ると、DVDビデオなどを再生するときに、突然大音量が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーが破損したりすることがあります。

1 本機がPCモードになっているかを確認する。（68ページ）

2 「Media Bar」ソフトウェアの「DVD Player」が起動していないことを確認する。

3 デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

4 画面左下のデバイスビューをクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

5 「MX Stage」の（CD／DVD）を右クリックし、[DVD設定]を選びます。

「DVD設定」画面が表示されます。

音声・映像の設定を変更する

6 ［音声出力］タブをクリックする。

7 音声信号の方式を切り替える。

PCM方式に設定するには：

「PCM」をクリックします。

ドルビーデジタル方式に設定するには：

「ドルビーデジタル」をクリックします。

ドルビーヘッドホン方式に設定するには：

「ドルビーヘッドホン」をクリックし、「効果」の中からお好みのものを選びます。

「DH1（マイルーム）」、「DH2（ライブ）」、「DH3（ホール）」と選んでいくに従って、サラウンド効果が高まります。

8 OK をクリックする。

年齢による視聴制限をする

DVDビデオの中には、見る人の年齢によって視聴を制限できるものがあります。本機には、この視聴制限レベルを設定しておく機能があります。

「MX Stage」から「DVD設定」画面を表示して、視聴年齢制限を設定します。

1 本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。

2 デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

3 画面左下の デバイス ビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の(CD／DVD)を右クリックし、[DVD設定]をクリックする。**

「DVD設定」画面が表示されます。

5 **[再生]タブをクリックする。**

6 **[パレンタルロック]の 変更 をクリックする。**

「新しいパスワードの登録」画面が表示されます。

7 **パスワードを入力し、 OK をクリックする。**

確認のため、上下の欄に同じパスワードを入力してください。

「パレンタルロック設定」画面が表示されます。

8 **視聴年齢制限のレベルと使用地域を▼をクリックして表示されるリストから選ぶ。**

9 **閉じる をクリックする。**

視聴制限レベルがロックされ、「DVD設定」画面に戻ります。

10 **OK をクリックする。**

ご注意

視聴年齢制限がないDVDビデオは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。

光デジタル出力を切り替える PC

本機の光デジタル出力を、本機のDVD-ROMドライブの音楽CD、MDドライブのMD、FMラジオの音声を直接出力するか、または本機のサウンドチップ・ミキサーの音源を出力するかを切り替えることができます。
「光デジタルサウンド切替」画面を使って、OPTICAL OUTコネクタからの出力と、SPEAKER、LINE OUT L／R、HEADPHONESコネクタからの出力を切り替えることができます。

- **「選択した入力音源を出力する」を選択した場合**
  本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD、MDドライブのMD、FMラジオの音声を直接デジタル出力します。
- **「サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する」を選択した場合**
  本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD、MDドライブのMD、FMラジオの音声、本機のハードディスクドライブ上の音声ファイル、本機の後面のLINE INコネクタに接続した機器からの音声、本機に接続したマイクからの音声などをミキシングしてデジタル出力します。

ご注意

切り替えができるのは本機のOPTICAL OUTコネクタからの出力のみです。本機に接続したMDデッキやCDプレーヤーなどの光デジタル出力を本機からの操作で切り替えることはできません。

以下の手順に従って、光デジタル出力を切り替えます。

1 本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。

2 デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。
「MX Stage」が表示されます。

3 画面左下の デバイスビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

4 「MX Stage」の (OPT OUT) をダブルクリックする。

「光デジタルサウンド切替」画面が表示されます。

5 「OPTICAL OUTからの出力(光デジタル出力)」または「SPEAKER/LINE OUT/HEADPHONESからの出力」の中から「選択した音源を出力する」または「サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する」をクリックする。

「OPTICAL OUTからの出力(光デジタル出力)」の中から選んだ場合はOPTICAL OUTコネクタからの出力が、「SPEAKER/LINE OUT/HEADPHONESからの出力」の中から選んだ場合はSPEAKER、LINE OUT L/R、HEADPHONESコネクタからの出力がそれぞれ切り替わります。

選択した入力音源を出力する:

本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD、MDドライブに入っているMDまたはFMラジオの音声を直接デジタル出力します。

サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する:

本機のDVD-ROMドライブの音楽CD、MDドライブのMDまたはFMラジオの音声、本機のハードディスクドライブ上の音声ファイル、本機後面のLINE INコネクタに接続した機器からの音声、本機に接続したマイクからの音声などをミキシングしてデジタル出力します。

次のページにつづく

6 手順5で「選択した入力音源を出力する」を選んだときは「入力音源を選択」の▼をクリックして表示されるリストから音源をクリックする。

音楽CD：本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD

MD：本機のMDドライブに入っているMD

FM：FMラジオ

OPTICAL IN（**光デジタル入力**）：本機後面パネルのOPTICAL INコネクタにつないだ機器から入力した音声

サウンドチップ：本機のハードディスクにある音声ファイル

7 設定が終了したら、[OK]または[適用]をクリックする。

手順5および6で変更した設定がOPTICAL OUTコネクタまたはSPEAKER、LINE OUT、L／R、HEADPHONESコネクタからのデジタル出力に反映されます。

 ちょっと一言

「Media Bar」ソフトウェアを使って本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CDおよびハードディスクドライブにある音声ファイルを再生しているときは、上記の設定にかかわらず再生中の音源によって出力が自動的に切り替わります。

ご注意

- 「Media Bar」ソフトウェアを使って本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CDおよびハードディスクドライブにある音声ファイルを再生しているときに自動切り替えされるのは、本機のOPTICAL OUTコネクタ出力のみです。「Media Bar」ソフトウェアでコントロールしているCDプレーヤーなどの外部機器については、光デジタル出力を自動的に切り替えることはできません。
- OPTICAL OUTコネクタ出力のサンプリング周波数は、手順4で「選択した入力音源を出力する」を選んだときは44.1kHz、「サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する」を選んだときは48kHzです。
  OPTICAL OUTコネクタにMDデッキなどを接続してダビングを行う場合、接続した機器がこれらのサンプリング周波数に対応していないときは録音することができません。

テレビとディスプレイへの出力を切り替える PC

本機からの映像の出力を、テレビまたはディスプレイ（アナログまたはデジタル）に切り替えることができます。
「画面出力切替」ソフトウェアを使って、S VIDEO／VIDEO OUTコネクタからの出力（テレビ出力）と、MONITORコネクタ（アナログディスプレイへの出力）またはDVIコネクタ（デジタルディスプレイへの出力）からの出力を切り替えます。

ちょっと一言

テレビのつなぎかたについて詳しくは、「テレビをつなぐ」（204ページ）をご覧ください。ディスプレイのつなぎかたについて詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

ご注意

MONITORコネクタとDVIコネクタに同時にディスプレイをつながないでください。

以下の手順に従って、画面出力をテレビに切り替えます。

1. **本機がPCモードになっているかを確認する（68ページ）。**
2. **デスクトップ画面右下のタスクトレイのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから以下のいずれかの解像度をクリックする。**
   - 800×600 True Color（32ビット）
   - 640×480 True Color（32ビット）

   ディスプレイに表示される画面が、選択された解像度に変わります。

3 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[プログラム]にポインタを合わせ［画面出力切替］をクリックする。

「画面出力切替」画面が表示されます。

4 OK をクリックする。

画面出力がテレビに切り替わります。

画面出力をディスプレイに切り替えるには

上記の手順3で、「画面出力切替」画面に「画面出力をコンピュータディスプレイ（またはフラットパネル）に切り替えます」というメッセージが表示されたら OK をクリックします。

ちょっと一言

- 「画面出力切替」ソフトウェアをキーボードのショートカットキーに割り当てておくと、キーを押すだけでソフトウェアを起動することができます。ショートカットキーへの割り当てかたについて詳しくは、「ショートカットキーに割り当てられているソフトウェアを変更するには」（47ページ）をご覧ください。
- 手順2で表示されるメニューの中から［ディスプレイプロパティの調整］をクリックすると、「画面のプロパティ」画面の「設定」タブが表示されます。［詳細］をクリックして、さらに［出力デバイス］タブをクリックして表示される画面からも画面出力を切り替えることができます。詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」の「出力デバイス」（194ページ）をご覧ください。

ご注意

- 手順2で指定されている以外の解像度を選んでいるときは、「画面出力切替」画面で出力をテレビに切り替えることができません。この場合は、正しい解像度を選び直してください。
- 画面出力をテレビに切り替えた状態で本機の電源を切ると、次にPCモードで電源を入れた時には画面の出力はディスプレイに切り替わります。

Windowsの設定を変更する

本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 98のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 98に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。

設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目の画面を表示させ、設定を変えます。

アイコン	できること
（キーボード）	キーボードの設定を変更できます。
（UI Design Selector）	ソニー製ソフトウェアのデザインを変更できます。（196ページ）
（XG System Driver）	音質の設定を変更できます。（170ページ）
（サウンド）	Windows 98の起動時や終了時の音、警告音などを変更できます。
（マウス）	ポインタの動きかたを変更したり、ホイール機能の設定ができます。（197ページ）
（マルチメディア）	音や映像の設定を変更できます。
（日付と時刻）	本機に登録してある日付や時刻を変更できます。
（画面）	解像度を変更したり、画面の背景、スクリーンセーバーを変更できます。（182ページ）

ディスプレイの設定を変更する PC

画面の背景、ウィンドウの枠の色、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （画面）をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［背景］、［スクリーンセーバー］、［デザイン］、［効果］、［Web］、［設定］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

4 設定が終了したら、[OK]または[適用(A)]をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ 背景（183ページ）

画面の背景について設定する画面です。

❑ スクリーンセーバー（184ページ）

スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

❑ デザイン（185ページ）

ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ 効果（186ページ）

アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。

❑ Web（187ページ）

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

❑ 設定（188ページ）

解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景

次のページにつづく

❑ 壁紙

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。選んだ壁紙が上のディスプレイ画面にプレビュー表示される。

[参照]: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやアクティブデスクトップを使っているときのみインターネットドキュメント（HTMLファイル）を選ぶ画面が表示される。

[模様]: クリックすると、デスクトップに使用する模様を選択する画面が表示される。

表示位置: 壁紙の表示位置を▼をクリックしてリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙が画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙が画面全体に表示される。

拡大：壁紙が画面全体に拡大されて表示される。

壁紙とは

デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

スクリーンセーバー

❑ スクリーンセーバー

(なし) ▼: 使用するスクリーンセーバーを▼をクリックしてリストから選ぶ。

[設定]: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定する画面が表示される。

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: をクリックして にすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

[変更]: クリックすると、スクリーンセーバーを保護するパスワードが設定される。

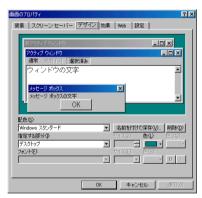
待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを をクリックして選ぶ。

❑ ディスプレイの省電力機能

[設定]: クリックすると、ディスプレイの電源を設定する画面が表示される。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン

❑ 配色

Windows スタンダード: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色を をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録する画面が表示される。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

次のページにつづく

❑ 指定する部分

デスクトップ : 「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさををクリックして選ぶ。

色: 指定する部分の色ををクリックして選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色ををクリックして選ぶ。

❑ フォント

: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類ををクリックしてリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさををクリックして選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

I: クリックすると、文字が斜体になる。

効果

❑ デスクトップアイコン

変更したいアイコンをクリックして変更する。

[アイコンの変更]: クリックすると、変更できるアイコンの一覧の画面が表示される。

[既定のアイコン]: クリックすると、変更したアイコンを初期状態のアイコンに戻す。

デスクトップがWebページとして表示される場合は、表示しない:
をクリックしてにすると、アクティブデスクトップを使用しているときはデスクトップにアイコンを表示しないように設定する。

❑ 視覚効果

大きいアイコンを使う: □をクリックして☑にすると、デスクトップに表示されるアイコンに大きいアイコンを使用する。

すべての色を使ってアイコンを表示する: □をクリックして☑にすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

ウィンドウ、メニュー、および一覧をアニメーション化する: □をクリックして☑にすると、ウィンドウやメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーンフォントの縁を滑らかにする: □をクリックして☑にすると、複雑な文字が見やすくなる。

ご注意

この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する: □をクリックして☑にすると、ウィンドウをドラッグするときに画面を表示したままドラッグする。

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

❑ Active DesktopをWebページとして表示

☐をクリックして☑にすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

下のリストのアクティブデスクトップ項目の☐をクリックして☑にすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

[新規]: 新しいアクティブデスクトップ項目をインストールする。

[削除]: 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ]: 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細が表示される。

[すべてリセット]: デスクトップを標準の設定に戻す。

❑ フォルダオプション

クリックすると、フォルダに関する詳細を設定する画面が表示される。この項目を選ぶと「画面のプロパティ」画面は保存され閉じられる。

設定

❑ ディスプレイ

接続されているディスプレイが表示される。

❑ 色

[True Color (32 ビット) ▼]: 画面の表示色数を▼をクリックしてリストから選ぶ。

ご注意

本機では「True Color（32ビット）」に設定してお使いになることをおすすめします。

❑ 画面の領域

スライダを左右に動かして画面の解像度を設定する。

ご注意

- 本機では1024×768ピクセルに設定してお使いになることをおすすめします。
- DVDビデオを再生しているときは、画面の解像度は変更しないでください。変更すると、DVDビデオが正しく再生されなかったり、画面にノイズが出ることがあります。

❑ Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする

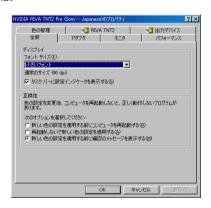
マルチディスプレイのときに有効になる。

マルチディスプレイとは

1台のコンピュータに複数のディスプレイを接続して、それぞれに違う画面を表示する機能です。

❑ [詳細]

クリックすると、フォントサイズ、ディスプレイなどを設定する画面が表示される。[詳細] をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般

次のページにつづく

- **ディスプレイ**

  フォントサイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小ををクリックしてリストから選ぶ。

  タスクバーに設定インジケータを表示する:
  をクリックしてにすると、がデスクトップ画面右下のタスクバーに表示される。

- **互換性**

  ディスプレイの色の設定を変更するときに適用するオプションのをクリックしてにして選ぶ。

アダプタ

- **[変更]**

  クリックすると、新しいディスプレイアダプタのソフトウェアをインストールするための画面が表示される。

- **アダプタとドライバの情報**

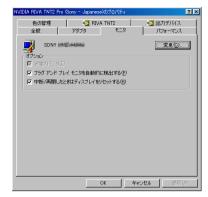
  現在使用しているディスプレイアダプタの情報が表示される。

- **リフレッシュレート**

  変更したいリフレッシュレートをクリックしてリストから選ぶ。

リフレッシュレートとは

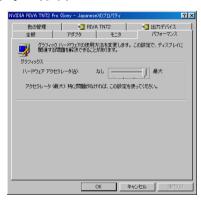
コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き替えています。この書き替えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き替えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

モニタ

• **[変更]**

クリックすると、接続されているディスプレイを変更する画面が表示される。

• **オプション**

それぞれの□をクリックして☑にし、ディスプレイに関するオプションの設定を変更する。

パフォーマンス

• **グラフィックス**

ハードウェアアクセラレータ: スライダを左右に動かして、ハードウェアアクセラレータの機能をどの程度使うか指定する。

ハードウェアアクセラレータとは

コンピュータの画面表示を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。

次のページにつづく

色の管理

- **現在のモニタ**

  接続されているディスプレイの名前が表示される。

- **既定のモニタ プロファイル**

  接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。

- **このデバイスに現在関連付けられているカラープロファイル**

  接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。使用するプロファイルをクリックして選ぶ。

- **[追加]**

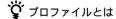
  クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択するウィンドウが表示される。

- **[削除]**

  クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。

- **[既定値として設定]**

  クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

プロファイルとは

Windows 98のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

RIVA TNT2

❏ ディスプレイアダプタ情報

本機に接続しているRIVA TNT2のグラフィックスプロセッサ、バスタイプ、BIOSのバージョン、オンボードメモリ、IRQ、TVエンコードタイプが表示される。

❏ システム情報

本機に接続しているRIVA TNT2のシステムプロセッサ、物理メモリの合計、物理メモリの空き容量が表示される。

❏ ドライバ バージョン情報

グラフィックスドライバの各モジュールのバージョン情報が表示される。

❏ [詳細プロパティ]

カラー補正、オーバーレイカラーコントロール、その他のオプションを設定する画面が表示される。

❏ [NVIDIAのホームページ]

クリックするとドライバを更新したり、製品情報を見たりするためのメニューが表示される。

ご注意

ドライバを更新したり製品情報を見るには、インターネットに接続するための設定が完了している必要があります。

出力デバイス

Windowsを表示する出力デバイスの選択を行う画面です。

❏ Windowsを表示する出力デバイスを選択する

アナログ モニタ（アナログディスプレイ）、デジタル フラット モニタ（デジタルディスプレイ）、TV（テレビ）のどれが接続されているかが表示される。をクリックしてにして画面出力を切り替えることができます。

ご注意

- MONITORコネクタにディスプレイをつなぐときはDVIコネクタに15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD1をつながないでください。
- アナログディスプレイ、デジタルディスプレイ、テレビの3台に同時に出力することはできません。

画面出力は「画面出力切替」ソフトウェアを使って切り替えることもできます。詳しくは、「テレビとディスプレイへの出力を切り替える」（179ページ）をご覧ください。

❏ ［デバイスの設定］

クリックすると、コンピュータディスプレイに表示される画面の位置の調整を行う画面が表示される。

❏ TV

をクリックしてにしてテレビを選ぶと、形式、テレビの解像度と色の濃さ、ビデオ出力形式を設定することができます。

形式：［形式の変更］をクリックすると、地域の設定の一覧が表示される。使用地域をクリックして選ぶ。

TV解像度と色の濃さ：テレビ画面の解像度と画面の表示色ををクリックしてリストから選ぶ。

ビデオ出力形式：テレビに出力する映像の形式ををクリックしてリストから選ぶ。

アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす PC

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。「アクティブデスクトップ」とは、ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップです。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

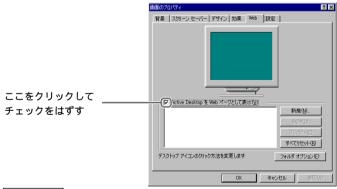
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （画面）をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［Web］タブをクリックする。

4 ［Active DesktopをWebページとして表示］の☑をクリックして□にして、チェックをはずす。

5 OK をクリックする。

下記のメッセージが表示されます。

6 いいえ(N) をクリックする。

Windows 98のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

ウィンドウのデザインを変更する PC

「UI Design Selector」に対応したソニー製ソフトウェアのインターフェイスのデザインを好みに合わせて変更することができます。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **(UI Design Selector) をダブルクリックする。**

「UI Design Selector」画面が表示されます。

3 **[<<] または [>>] をクリックして、デザインを選ぶ。**

ここをクリックしてデザインを選ぶ

4 適用（A） **をクリックする。**

「UI Design Selector」画面のデザインが変わります。ソニー製ソフトウェアの画面もこの画面と同じデザインになります。

5 **デザインを選び直すときは、[<<] または [>>] をクリックする。**

6 OK **をクリックする。**

ソニー製ソフトウェアの画面のデザインが変更され、「UI Design Selector」画面が閉じます。

マウスの設定を変更する PC

ポインタの動きかたや形など、マウスに関する設定を変更することができます。
ここでは、付属のホイールマウスの設定を変更する方法について説明します。

ご注意

- 付属のマウス以外のマウスを本機につないだときの動作保証はいたしませんのであらかじめご了承ください。
- 「マウスのプロパティ」画面右下の［ヘルプ］をクリックしたとき表示されるヘルプには、タッチパッド、他のマウスの追加などの説明が含まれていますが、本機ではお使いになれません。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （マウス）をダブルクリックする。

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［クイックセットアップ］、［ポインタ］、［ボタン］、［動作］、［方向］、［デバイス］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

4 設定が終了したら、 OK または 適用(A) をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定については、以下のページをご覧ください。

❑ **クイックセットアップ（198ページ）**

本機に接続したマウスのセットアップを行う画面です。

❑ **ポインタ（199ページ）**

ポインタの表示のしかたを設定する画面です。

次のページにつづく

❏ ボタン（200ページ）

マウスのボタンの機能割り当てを設定する画面です。

❏ 動作（200ページ）

ポインタの速度調節などを設定する画面です。

❏ 方向（201ページ）

マウスの方向を設定する画面です。

❏ デバイス（202ページ）

マウスの情報を表示したり、システムにマウスを追加するなどの設定をする画面です。

クイックセットアップ

使用中のマウスを表す図と、現在のボタンの割り当てを表示します。

❏ [デバイスの設定]

クリックすると、メーカー推奨設定に従ってマウスを再設定する。

❏ タスクバーにアイコンを表示

□をクリックして☑にすると、デスクトップ画面右下のタスクバーに（マウスアイコン）が表示されます。

をダブルクリックすることにより「マウスのプロパティ」画面を表示させることができます。

ポインタ

❑ デザイン

: 登録されているマウスのポインタのデザインの組み合わせを▼をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、下のリストで設定しているポインタのデザインの組み合わせに名前を付けて登録する画面が表示される。

[削除]: クリックすると、登録したポインタのデザインの組み合わせが削除される。

❑ リスト

選択したポインタのデザインの組み合わせが一覧表示される。

OS（Operating System）の動作状態ごとにいろいろなデザインのポインタを割り当てることができます。

[既定の設定]: クリックすると、ポインタの設定が標準に戻る。

[参照]: クリックすると、そのOSの動作状態のポインタのデザインを割り当てる画面が表示される。

OSとは

「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機はOSとしてWindows 98を使っています。

次のページにつづく

ボタン

❑ ボタンの割り当て

[クリック/選択]: マウスの各ボタンに割り当てられる機能を[▼]をクリックしてリストから選ぶ。

[オプション]: クリックすると、さらに詳細なマウスのオプションを設定する画面が表示される。

❑ スクローラ

スクロール速度: ホイールボタンを使ったとき、スクロールされる文章の量を[▼]をクリックしてリストから選ぶ。

Office 97互換のスクロールのみを使用: [ ]をクリックして[✓]にすると、Microsoft Office 97互換スクロールを有効にする。

動作

❑ カーソルの速度と加速

スライダ: マウスを動かす距離に反応してデスクトップ画面上のポインタが移動する距離を設定する。

右の : クリックすると、ポインタの加速が変わる。

❑ スマートムーブ

設定する: をクリックして にすると、ダイアログボックスが開いたときにポインタが初期設定のコマンドボタンに自動的に移動するように設定される。

❑ カーソルの軌跡

設定する: をクリックして にすると、ポインタがデスクトップ画面上を移動する際に軌道を残すように設定される。

軌跡の長さ: スライダを左右に動かして、ポインタの軌跡の長さを調節する。

方向

❑ 方向の設定

[方向の設定]: クリックすると、マウスの方向を変更する画面が表示される。

次のページにつづく

デバイス

❑ デバイス情報

[ホイール マウス (PS/2 ポート 上) ▼]: 本機に現在接続しているマウスが表示されるので、使用するマウスを▼をクリックしてリストから選ぶ。

[デバイスの追加]: クリックすると、本機に接続されているすべてのマウスがマウスウェアによって検出される。

❑ バージョン情報

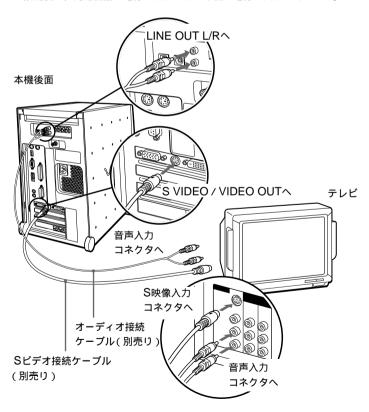
現在使用しているマウスやマウスウェアの情報が表示される。

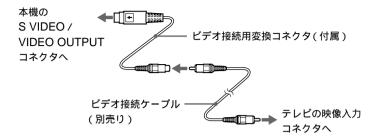
拡張編

テレビをつなぐ

付属の「Media Bar」ソフトウェアで再生するDVDビデオの映像をテレビでもお楽しみいただけます。
Sビデオ接続ケーブル（別売り）とオーディオ接続ケーブル（別売り）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り替えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

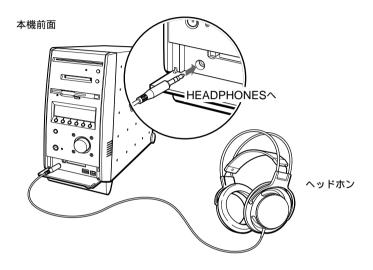
- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

S映像入力コネクタのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（別売）をつないで使うことができます。

テレビとディスプレイへの出力を切り替えるには

テレビとディスプレイ（アナログまたはデジタル）への出力を切り替えるには、以下の2つの方法があります。

- 「画面出力切替」ソフトウェアを使って出力を切り替える。
  詳しくは、「テレビとディスプレイへの出力を切り替える」（179ページ）をご覧ください。
- 「画面のプロパティ」画面の「出力デバイス」タブで出力を切り替える。
  詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」の「出力デバイス」（194ページ）をご覧ください。

ヘッドホンをつなぐ

付属の「MX Stage」ソフトウェアを使ってデジタル出力をドルビーヘッドホン方式（AC-3）に切り替えることにより、ドルビーデジタル方式（AC-3）で記録されているDVDビデオを再生するときに、通常のヘッドホンでも仮想的にドルビーデジタル音声を楽しむことができます。

ドルビーヘッドホンにするには

付属の「MX Stage」ソフトウェアを使います。「DVD設定」画面の「音声出力」タブで「ドルビーヘッドホン」を選択します。詳しくは、「デジタル出力を切り替える」（172ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

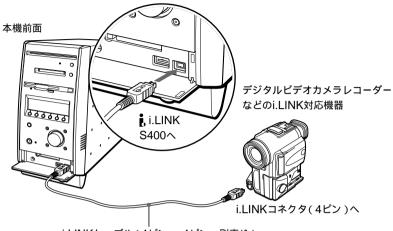
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」（212ページ）および「本機と操作できるi.LINK対応機器」（213ページ）をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- 本機は電源が切れている場合、i.LINKのデータを中継（リピート）しません。

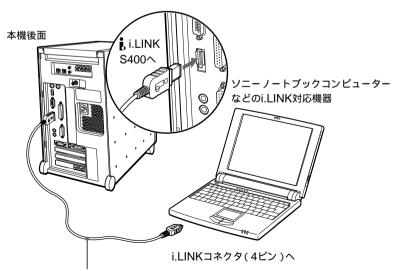
ちょっと一言

i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

次のページにつづく

前面パネルのコネクタ（4ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（別売り）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。
i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（別売り）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。
i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

「Smart Connect」を使ってデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機を別売りのi.LINKケーブルで接続すると、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。
本機では「Smart Connect」は初期設定で使えない状態に設定されています。使えるようにするには、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。
使いかたについて詳しくは、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。

ちょっと一言

「Smart Connect」を使ったデータのやりとりの状態は、「Smart Connectモニタ」で確認できます。デスクトップ画面右下のタスクトレイのをダブルクリックして確認します。詳しくは、「Smart Connectモニタ」のヘルプをご覧ください。

ご注意

「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときに、「DVgate」、「Smart Capture」のいずれかのソフトウェアを起動すると、本機が正常に動作しなくなることがあります。「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときは、これらのソフトウェアは起動しないでください。

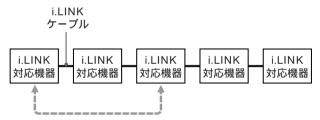
i.LINKとは？

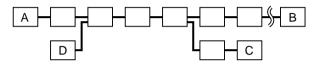
i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

次のページにつづく

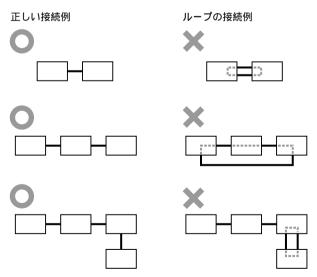
- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINKの規格上、i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、
いずれの経路も最大17**台の機器を接続できます(最大**
16**ホップ)。**

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪(環状)になることを「ループ」と呼びます。

接続についてのご注意

- コンピュータなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

必要なi.LINKケーブル

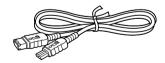
ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

6ピン⟷6ピン

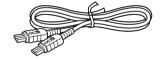
- VMC-IL6615A（1.5 m）
- VMC-IL6635A（3.5 m）

4ピン⟷6ピン

- VMC-IL4615A（1.5 m）
- VMC-IL4635A（3.5 m）

4ピン⟷4ピン

- VMC-IL4408A（80 cm）
- VMC-IL4415A（1.5 m）
- VMC-IL4435A（3.5 m）

ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機と操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（2000年5月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

  * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。
  取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。
- ソニーi.LINK CD-RWドライブ PCVA-CRW1
- ソニーが2000年4月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバータおよびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む、ツーリストモデルは除く）

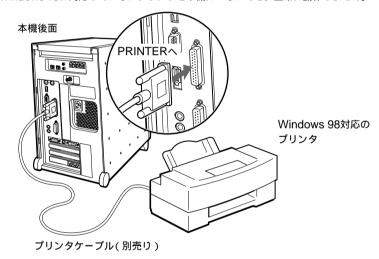
ご注意

本機はDTLAコピー・プロテクション技術（210ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

プリンタをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンタを本機につないで、「PictureGear」ソフトウェアの「ラベルメーカー」で作成したラベルや、「ワードパッド」ソフトウェアで作成した書類などを印刷できます。
プリンタに付属または別売りのプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。

プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンタおよび付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

 ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

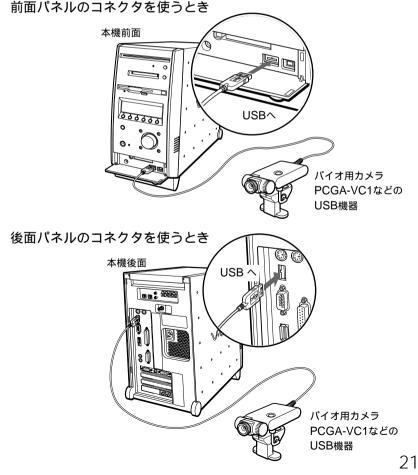
ご注意

本機をスタンバイモードから通常の動作モードに戻したあとで、本機につないだプリンタが使えなくなる場合があります。この場合は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［プリンタイネーブラ］をクリックして表示される画面で OK をクリックしてください。プリンタが使えるようになります。なお、プリンタが正常に使える場合には、「プリンタイネーブラ」は実行しないでください。

USB機器をつなぐ

本機の前面と後面にあるUSBコネクタを使って、バイオ用カメラPCGA-VC1などのUSB機器を接続することができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

前面パネルのコネクタを使うとき

後面パネルのコネクタを使うとき

ジョイスティック／MIDI機器をつなぐ

ジョイスティックをつないでゲームをよりリアルに楽しんだり、MIDI（Musical Instrument Digital Interface）に対応した電子楽器をつないで音楽を楽しめます。

ご注意

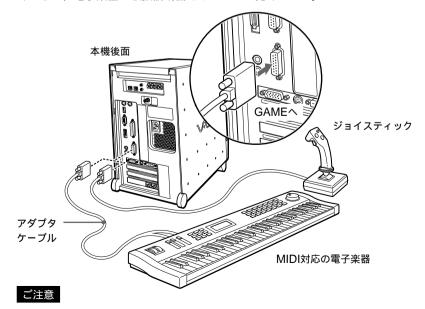
- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

ジョイスティックとは

ゲームなどでよく使われる操作用の機器です。方向をコントロールする柄の部分と、操作をコントロールするボタンから成っています。ジョイスティックを使うと、ゲームをよりリアルに楽しむことができます。ジョイスティックをつなぐときは、ジョイスティックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MIDI機器とは

MIDIとは、電子楽器間で情報をやりとりするために決められた通信規格のことです。MIDIに対応した電子機器をつなぐことで、本機からMIDI機器をコントロールして、自動演奏を楽しむことができます。MIDI機器をつなぐときは、電子楽器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

MIDIに対応していない電子楽器はつなげません。

拡張ボードを増設する

本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 98とPCI規格に対応していることをご確認ください。
本機では空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が2か所あり、PCI拡張ボードを2枚まで取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約220mmまでです。

 増設できる拡張ボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。
VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードは、ボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。
キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じた割り込み処理を行います。

メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

I/Oポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

リソースとは

もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼動するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）を右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

2 ［プロパティ］をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［デバイスマネージャ］タブをクリックする。

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 ［コンピュータ］をダブルクリックする。

「コンピュータのプロパティ」画面が表示され、現在使用中のリソースが表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」（33ページ）をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」（220ページ）をご覧ください。

電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」（32ページ）をご覧ください。

ドライバの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されると、メッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が壊れることがあります。

- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前に、本機の金属部分などの金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いて左側面のカバーと後面パネルを取り付けてから電源を入れてください。

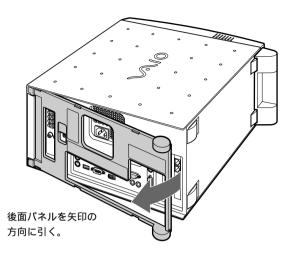
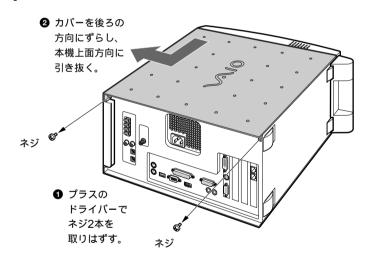
1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 本機を横に倒して置く。

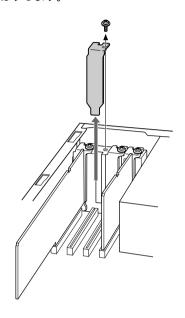
本機の右側面を下にして横に置きます。拡張ボードが取り付けやすくなります。

3 後面パネルを取りはずす。

4 左側面のカバーを取りはずす。

ご注意

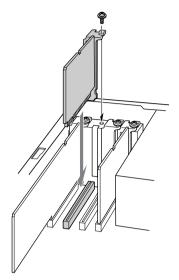
取りはずした2本のネジは左側面のカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

5　拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。

スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。

ご注意

- 本機内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。
- 本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないようにご注意ください。
- 本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないようにご注意ください。

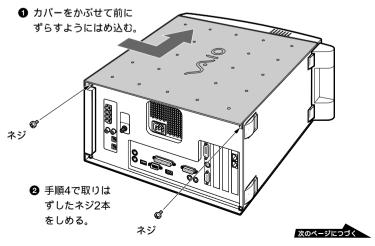
6 拡張ボードを取り付ける。

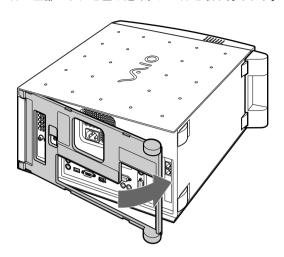
拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。
詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。
- 本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないようにご注意ください。
- 本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないようにご注意ください。

7 左側面のカバーを取り付ける。

左側面のカバーをかぶせて前にずらすようにはめ込み、ネジをしめます。

次のページにつづく

8 **後面パネルを取り付ける。**

先に後面パネルの上部のツメを差し込み、パネルを取り付けます。

9 **本機を立てて置く。**

10 **手順1ではずした周辺機器を接続し、周辺機器の電源を入れてから本機前面の⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。**

Windows 98が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示と拡張ボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

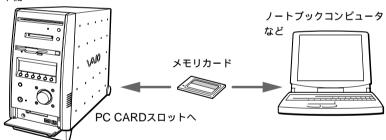
取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

PCカードを使う

本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張できます。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
PCカードには以下のような種類があります。

メモリカード
データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。
本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

SCSIカード
MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード
イーサネットなどのネットワークに接続できます。

TA（ターミナルアダプタ）カード
ISDN回線に接続できます。

本機には、PC CardタイプⅠとタイプⅡに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busに対応しています。（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

次のページにつづく

ソニー製の“メモリースティック”対応PCカードアダプタMSAC-PC2Nを取り付ければ、“メモリースティック”を使って、“メモリースティック”対応機器とデータをやりとりできます。

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

ドライバとは

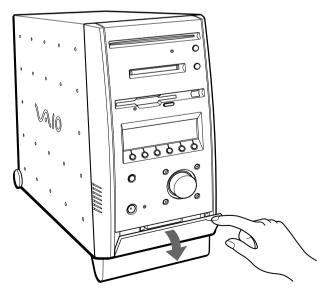
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータに知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。

PCカードを取り付ける

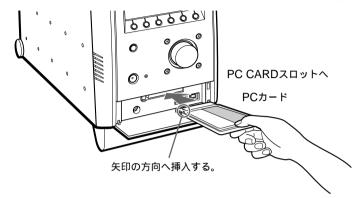
本機がPCモードのときに、PCカードを取り付けます。
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

ご注意

オーディオモードのときはPCカードを取り付けないでください。

1　本機前面の下にあるふたを手前に開ける。

2 カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向および表裏を確認してからもう1度挿入し直してください。

取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機でPCカードをお使いになる場合は、PCカードをあらかじめ取り付けてから、本機の電源を入れてください。また、PCカードによっては、PC CARDスロットに挿入したまま本機の電源を入れると、正しく動作しないことがあります。この場合は、PCカードの使用を中止し、いったん取り出してから、もう一度入れ直してください。PCカードの取り出しかたについて詳しくは、「PCカードを取り出すには」（228ページ）をご覧ください。
- 本機で「Smart Connect」とPCカードを同時にお使いになる場合は、PCカードをあらかじめ取り付けてから、本機を起動してください。本機が起動したあとにPCカードを取り付けたり、取りはずしたりすると「Smart Connect」が使えなくなることがあります。"メモリースティック"などのPCカードアダプタを使用する製品の場合も、本機が起動したあとに、その製品を取り付けたり、取りはずしたりすると、「Smart Connect」が使えなくなることがあります。あらかじめPCカードアダプタに"メモリースティック"などを取り付け、本機のPC CARDスロットに挿入してから本機を起動してください。
- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「コントロールパネル」の中の［システム］をダブルクリックして表示される「システムのプロパティ」の「デバイスマネージャ」タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバを削除し、再度インストールしてください。
- 本機がスタンバイモードのときはPCカードおよびカードデバイスを抜き差ししないでください。

次のページにつづく

PCカードを取り出すには

ご注意

- カードを取り出すときは、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。
- 本機がオーディオモードのとき、または本機の電源が切れているとき（本機前面の電源ランプが消灯）は、PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押すだけでPCカードを取りだせます。（手順1〜5は不要です。）本機がスタンバイモードのとき（本機前面の電源ランプが赤色に点灯）は、本機を通常の動作モードに戻してから手順1〜5を行ってください。本機を通常の動作モードに戻す方法については、34ページをご覧ください。

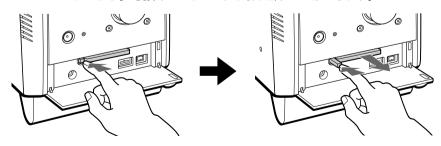
1 **本機がPCモードであることを確認する。（68ページ）**

2 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 **（PCカード）をダブルクリックする。**
「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面が表示されます。

4 **リストからソケット1のPCカードをクリックし、次に［停止(S)］をクリックする。**

5 **「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら［OK］をクリックする。**

6 **PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。**
いったんイジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう1度押すとPCカードを取り出すことができます。

カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

メモリを増設する

本機の内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。
メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

メモリの増設は本機内部の電源部分やケーブル類を取りはずすなどの作業が必要です。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けをご依頼ください。メモリーの増設をご自分で行うと、本機が故障したり、手や指をけがする恐れがありますので、絶対に行わないでください。

ソニー製のメモリーモジュールを取り付けるときはVAIOカスタマーリンク修理窓口または販売店にご依頼ください。メモリ増設サービス（有料）をご利用いただけます。
本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあり、標準で64Mバイトのメモリモジュールが1枚装着されています。本機に取り付けられるソニー製のメモリーモジュールには、PCVA-MM64Q／MM128Q／MM256Sがあり、これらのメモリモジュールを増設したときのメモリの容量は以下のようになります。

メモリモジュール	増設後の容量
PCVA-MM64Q	128Mバイト
PCVA-MM128Q	192Mバイト
PCVA-MM256S	320Mバイト

また、標準で装着されているメモリモジュールを取りはずし、PCVA-MM256Sを2枚取り付けることにより、最大512Mバイトまでメモリを増設できます。

ご注意

メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。

現在のメモリの容量を確認するには

1 **本機がPCモードになっていることを確認する。**（68ページ）

2 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［VAIO システム情報］を選び、［VAIO システム情報］をクリックする。**

「VAIO システム情報」画面が表示されます。

3 **「システムメモリ」の項目を確認する。**

ここに表示されているのが現在のメモリ容量です。

困ったときは

トラブルを解決するには

トラブルが発生したら、あわてずに下記の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

「主なトラブルとその解決方法」(233ページ)をチェックする

お使いのコンピュータの症状に合うものがないか確認してください。また、ソフトウェアについてのトラブルは、各ソフトウェアに付属の取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。Windows 98の使いかたについては、「スタート」メニューの［ヘルプ］をクリックして、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

「Q&A Search」を使う

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、お客様からのお問い合わせが多い質問と回答やQ&A集を掲載しています。詳しくは「「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する」（249ページ）をご覧ください。

それでもトラブルが解決しないときは

VAIOカスタマーリンクまたはお買い上げ店にご相談ください。

VAIOカスタマーリンクにお問い合わせいただくときは

付属のVAIOカルテと筆記用具をご用意ください。また、事前に以下のことを確認してください。

- お客様のカスタマーID
- 本機の型名：PCV-MX2
- 本機に接続している機器
- 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、そのソフトウェアの名前とバージョン
- トラブルの状況と発生時期／頻度
- その他お気づきの点

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動後または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（33ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

PCモード時

オーディオ機能使用時

電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。

→ 表示窓に「TIMER」と表示されていないか確認する。表示されていたら、本機はタイマーが設定された状態です。タイマーが設定された状態で本機の電源が切られているときは PCモードまたはオーディオモードで本機の電源を入れることはできません。前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマー設定を解除してから本機の電源を入れてください。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 98は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」（33ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの[Enter]（エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［Windowsの終了］を選んでも、「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、[Alt]（オルト）キーを押しながら[F4]キーを数回押して「Windowsの終了」画面を表示させ、［コンピュータの電源を切れる状態にする］をクリックして選び、［はい］をクリックしてください。[Alt]（オルト）キーを押しながら[F4]キーを数回押しても「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、[Ctrl]（コントロール）キーと[Alt]（オルト）キーを押しながら[Delete]（デリート）キーを押し、「タスクリスト」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

→ 前ページのいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safe mode（セーフモード）で起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（33ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

本機がスタンバイモードへ移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。再起動のしかたについては、「再起動する」（35ページ）をご覧ください。
再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出る。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。

詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（258ページ）および「パーティションサイズを変更する」（262ページ）をご覧ください。

電源を入れると「C:￥WINDOWS>_」と表示されたまま止まり、Windowsが起動しない。

→ 「exit」と入力して[Enter](エンター)キーを押してください。Windows 98が起動します。本機の電源を切るときは「電源を切る」(33ページ)の手順に従ってください。
「exit」と入力せずに本機の電源を切ってしまうと、次回電源を入れた際も「C:￥WINDOWS>_」と表示されたままになります。

ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

→ 画面出力をテレビに切り替えていないか確認する。(179または194ページ)

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像の端が欠ける。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑える働きをしています。アパチャーグリルは、ソニートリニトロンカラーコンピュータディスプレイ HMD-H200などのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。（272ページ）

→ [Windows]キーを押して「スタート」メニューを表示させ、[↑ PgUp]キーまたは[↓ PgDn]キーを押して［Windowsの終了］を選んで、[Enter]（エンター）キーを押す。そのあと[↑ PgUp]キーまたは[↓ PgDn]キーで［再起動する］を選び、[Enter]（エンター）キーを押して再起動する。

→ [Windows]キーを使って電源を切れない場合は、[Ctrl]（コントロール）キーと[Alt]（オルト）キーを押しながら[Delete]（デリート）キーを押して、本機を再起動する。

→ ディスクを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、[Ctrl]（コントロール）キーと[Alt]（オルト）キーを押しながら[Delete]（デリート）キーを押し、ディスクを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ [Ctrl]（コントロール）キーと[Alt]（オルト）キー、[Delete]（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して、電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール設定の方法が間違っている。スクロール方向の設定を確認してください。（201ページ）

→スクロール機能に対応していないソフトウェアを開いている。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

ホイールボタンを押してもオートスクロールできない。

→ ホイールボタンの動作設定を変更している。動作設定を確認してください。（200ページ）

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 62ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（65ページ）

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（65ページ）

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（258ページ）をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（258ページ）をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ DVD-ROMドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「文字を入力する」(52ページ)をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで(53ページ)、ひらがなで「から」と入力し「～」が選ばれるまでスペースキーを押すか、Shift(シフト)キーを押しながら~キーを押します。

URL**で使われる半角の「~」(チルダ)が入力できない。**

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」を選び、~キーを押すか、MS-IMEツールバーで「半角英数」を選び(59ページ)、Shift(シフト)キーを押しながら~キーを押します。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字が入力できない場合は、キーボード右上のNum Lock(ナム・ロック)ランプが消灯していないかを確認してください。消灯しているときは、数字キーは矢印キーやコレクションキーと同じ働きをします。NumLk ScrLk(ナム・ロック)キーを押して、ランプを点灯させてから数字を入力してください。

→ 「コントロールパネル」ウインドウの中の(システム)をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブでキーボードの項目が「106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)」に設定されているか確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 文字を入力したいソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。(タイトルバー(ウィンドウの上の部分)は薄い色になります。)文字を入力したいソフトウェアのウィンドウのどこかをクリックするか、Alt(オルト)キーとTab(タブ)キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする(タイトルバーが青い色になります)。

困ったときは

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されていない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器に映像を録画できない。

→ 他のソフトウェアが起動していないか確認する。他のソフトウェアが起動中に「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器への録画を繰り返し行うと、録画ができなくなることがあります。この場合は、本機を再起動してください。（35ページ）

インターネット

インターネットに接続できない。

→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する。詳しくは別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ ディスプレイ画面上の（インターネットに接続）をダブルクリックして設定を確認する。

→ 本機後面のパネルのTELEPHONEジャックにつないだ電話機の受話器を取り、発信音がするかどうか確認する。

→ 内蔵モデムがWindows 98に正しく認識されているか確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「内蔵モデムの設定を確認する」をご覧ください。「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

→ 本機に接続できる回線は、一般アナログ電話回線です。ダイヤル方法を確認してください。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの方法を設定する」をご覧ください。

→ インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

→ 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定しなければならない場合があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

モデム

内蔵モデムからダイヤルできない。

→ テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラジャックに差し込む。

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤル方法を設定する」をご覧ください。「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

→ 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

→ 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。

モデムはダイヤルしているが、接続できない。

→ 詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

モデムの通信速度が遅い。

→ 電話回線が混み合っている場合や電話回線の品質が悪い場合は、モデムはエラーが発生しないように自動的に通信速度を落として通信します。

→ 受信側のモデムが本機の内蔵モデムと同じ規格「K56flex/V.90」でない場合、本機に内蔵のモデムの最高速度56kbpsは出ません。

→ 日本国内では受信するときのみ最高速度56kbpsで通信できます。送信するときは、電話回線の中継局の制限で通信速度が遅くなります。

→ 分配器などを使って電話回線を分岐したときは、通信速度が遅くなったり、まったく通信できないことがあります。1本のテレホンコードで本機後面のLINEコネクタと壁の電話回線のコンセントをつないでください。

Windowsのメッセージ

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする（65ページ）。

電源を入れた後、「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.」というメッセージが出て、ハードディスクをから起動できない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「LOAD SETUP DEFAULTS」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換についてはVAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

音

音が出ない。

→ 音量が最小になっている。本機前面のVOLUMEつまみを右へ回して音量を上げる。

→ ヘッドホン（別売り）を差したままになっている。ヘッドホンをHEADPHONESコネクタから抜く。

→ スピーカーコードが付属のスピーカーと本機にしっかり接続されていないか、スピーカーコードのビニール部分がSPEAKERコネクタに食い込んでいる。スピーカーコードを正しく接続し直す。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下のタスクトレイの（スピーカーアイコン）をダブルクリックして表示される画面で音量を上げる。

→ MDを再生しても音が出ない場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **本機がPCモードであることを確認する。**（68ページ）
2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイのを右クリックし、表示されるメニューから［音量コントロールを開く］をクリックする。**
「ボリュームコントロール」画面が表示されます。
3 MD**の「ミュート」のチェックをはずす。外付けのアンプなどを接続している場合は、**Line-In**の「ミュート」をチェックする。**
4 **画面右上の（閉じるボタン）をクリックする。**

→ MDを再生しても音が出ない場合は、光デジタル出力の設定を確認する。（176ページ）

→ DVDビデオを再生しても音が出ない場合は、「DVD設定」画面で「ドルビーデジタル」が選ばれていないか確認する。（172ページ）

音がおかしい。

→ スピーカーコードの＋／−が正しく接続されていない。スピーカーコードを正しく接続し直す。

→ 左右のスピーカーの高さ、距離が極端に違う。高さ、距離をなるべく対称にする。

→ ひとつのスピーカーコネクタに2台以上のスピーカーをつないでいる。一つのスピーカーコネクタにつなぐのは、スピーカー1台にする。

→ 外付けのアンプなどにLINE IN、LINE OUTコネクタの両方をつないでいる場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **本機がPCモードであることを確認する。**（68ページ）
2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイのを右クリックし、表示されるメニューから［音量コントロールを開く］をクリックする。**
「ボリュームコントロール」画面が表示されます。
3 Line-In**の「ミュート」をチェックする。**
4 **画面右上の（閉じるボタン）をクリックする。**

雑音が多い。

→ テレビやビデオなど、ノイズを出す機器の近くに設置している。離れたところに設置し直す。

次のページにつづく

→ 冷蔵庫など、ノイズを出す機器と同じ電源コンセントにつないでいる。別の電源コンセントにつなぐか、市販の電源ラインのノイズフィルタを使用する。

→ 外付けのアンプなどを接続している場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **本機がPCモードであることを確認する。**（68ページ）

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［音量コントロールを開く］をクリックする。**
「ボリュームコントロール」画面が表示されます。

3 Line-In**の「ミュート」をチェックする。**

4 **画面右上の （閉じるボタン）をクリックする。**

プリセットイコライザで設定した音の効果が出ない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、プリセットイコライザがお買い上げ時の設定に戻った。PCモードで本機の電源を入れ、設定し直す。（166ページ）

タイマー

タイマーが設定できない。

→ 時計が設定されていない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、タイマーの設定が解除された。本機を再起動してタイマーを設定し直す。（137ページ）

タイマーが働かない。

→ 電源を切る前にタイマーが働くように設定していなかった。タイマーを設定する。（137ページ）

→ 誤った時間が設定されている。設定内容を確認し、正しい時間を設定する。（140ページ）

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンと本機の間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと本機の距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が本体の方を向いていない。リモコンを本体に向ける。

→ リモコンの乾電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。乾電池（単3）を交換する。

→ 本体の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本体と蛍光灯を離して設置する。

→ リモコンで操作できないソフトウェアを操作しようとしている。

再生

ディスクやMDが出てこない。

→ 85ページまたは97ページをご覧ください。

→ 「ディスクを取り出すには」(85ページ)の操作を行っても12cmディスクがDVD-ROMドライブから出てこない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ 8cmディスクを8cmCDシングルアダプタを取り付けずにDVD-ROMドライブに入れた。本機を正面から見て右側を下にしてゆっくり倒して横にしてから、⏏(DVD-ROMイジェクト)ボタンを押す。それでも取り出せない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ レンタルCDや中古CDなどで、シールなどからのりがはみ出したり、のりが付着したディスクを入れたため、ディスクが内部に貼り付いている、または貼り付いたディスクが内部に落ちて挟まっている。VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ ディスクやMDを入れたまま、本機を移動するなどの振動を与えたため、ディスクやMDが内部に挟まった。VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

MDが入らない。

→ MDの向きが違う。矢印の書いてある面を上にして、矢印の向きに挿入する。

MDの操作を受け付けない。

→ MDが汚れている、または破損している。新しいMDと交換する。

→ TOCを読み込み中である。(本機前面パネルの表示窓に「TOC READING」と表示されます。)「TOC READING」が消灯してから操作し直す。

→ 表示窓にVAIOロゴまたは時刻が表示されているときにMDを入れようとすると、MDは排出され、TOCなどが正しく認識されなくなります。このような状態になったときは、本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIO POWERボタンを押して、いったんオーディオモードの電源を切り、再度、本機前面のAUDIOボタンまたはリモコンのAUDIO POWERボタンを押して、オーディオモードで電源を入れてください。

ディスクやMDの再生が始まらない。

→ ディスクやMDが入っていない。ディスクやMDが入っているか確認する。

→ ディスクやMDの汚れ(油膜、指のあとなど)がひどい。汚れを拭き取る(272ページ)。

→ ディスクの傷がひどい。ディスクを交換する。

次のページにつづく

→ 再生しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。ディスクを交換する。

→ ディスクが裏返しに入っている。印刷面を上にして、DVD-ROMドライブに入れ直す。

→ 本機内部のレンズ、または入れたディスクやMDが結露している。ディスクは取り出してディスクの水分を拭き取り、MDは本機に入れて、本機の電源を入れたまま数時間待つ。

→ ディスクやMDが再生状態になっていない。「Media Bar」、「VIDEO CD Player」または「MD Player」ソフトウェアで再生ボタンをクリックするか、リモコンの ▷PLAYを押し、再生状態にする。

音とびがする。

→ ディスクやMDの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。汚れを拭き取る（272ページ）。

→ ディスクの傷がひどい。ディスクを交換する。

→ 演奏しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。ディスクを交換する。

→ 本機に振動が加わっている。振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。または、スピーカーと本機を離す、または別々の台の上に設置してみる。低音の効いた曲を大音量でお聞きになっている場合、スピーカーの振動により音とびしている可能性があります。

→ 本機内部とディスクの温度差がはげしい。MDを本機に入れ、電源を入れたまま10〜20分待つ。

音楽CDの再生が1曲目から始まらない。

→ シャッフル再生になっている。
PCモードのときは、リモコンのPLAY MODEボタンをくり返し押して、「Media Bar」ソフトウェアの画面の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。または、「Media Bar」ソフトウェアでシャッフル再生を解除する。詳しくは「Media Bar」の取扱説明書またはヘルプをご覧ください。
オーディオモードのときは、リモコンのPLAY MODEボタンをくり返し押して、表示窓の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。

MDの再生が1曲目から始まらない。

→ シャッフル再生になっている。
PCモードのときは、リモコンのPLAY MODEボタンをくり返し押して、「MD Player」ソフトウェアの画面の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。または「MD Player」ソフトウェアでシャッフル再生を解除する。詳しくは「Media Bar」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。オーディオモードのときは、リモコンのPLAY MODEボタンをくり返し押して、表示窓の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。

録音・編集

MDに録音したり編集を行ったのに、その情報が記録されていない。

→ オーディオモードで、MDの録音後、MDを取り出さないで電源コードを抜いた。MDの録音情報は、MDを取り出すときに記録されるため、録音後は必ずMDを取り出してください（103、118ページ）。

録音できない。

→ MDが誤消去防止状態になっている（「PROTECTED」が表示窓に表示されている）。ディスクを取り出し、録音可能状態にする（104、117ページ）。

→ 音源がMDになっている。他の音源に切り替える。

→ 市販の再生専用のMDが入っている。録音用MDと交換する。

→ MDの残り時間が足りない。MD編集のイレース機能を使っていらない曲を消すか、別のMDと交換する。

→ 録音中に停電があった、または電源コードが抜かれた。初めから録音し直す。

FMラジオ

雑音が入る／受信できない。

→ 放送局のバンド、周波数が合っていない。周波数を正しく設定する（121ページ）。

→ アンテナが正しく接続されていない。正しく接続し直す。つなぎかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ FM ANTENNAコネクタに整合器を直接つないでいる。付属のFMアンテナケーブルを使って、整合器とFMフィーダアンテナを本機からできるだけ離す。つなぎかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ アンテナが受信状態のよい場所に設置されていない。または電波が弱い。受信状態のよい場所（窓の外など）や方向を探し、設置し直す。設置のしかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

鉄筋、鉄骨造りのマンションなどの場合、付属の簡易アンテナでは充分に受信できない場合があります。窓の外に設置しても受信状態がよくならない場合は、市販の外部アンテナをつなぐことをおすすめします。

次のページにつづく

→ アンテナの一部分を折りたたむ、束ねる、巻き取るなどしている。付属のFMフィーダアンテナは全面で受信しているため、余分に感じる部分もそのまま垂らしておく。また、付属のFMフィーダアンテナの先は、テープなどで壁にとめる。

→ 付属のFMフィーダアンテナのT字部分がさけてしまった。セロファンテープなどでもとの位置まで張り合わせる。

→ 他のコンピュータ、テレビ、電話、蛍光灯などの電気器具の影響を受けている。電気器具の電源を切ってみるか、なるだけアンテナから離す。

→ サテライト局を選んで受信する（121ページ）。

→ テレビアンテナに本機のアンテナを接続してみる。

ラジオの音声は聞こえるが、文字放送が表示されない。

→ FM文字放送の受信には、FMラジオ以上の受信電波の強さが要求されます。受信状態のよい場所や方向を探して、より受信状態がよい場所でお使いください。

→ 受信中のFM放送局が文字放送を行っていない。

ステレオにならない。

→ モノラル受信の設定になっている。リモコンのAUDIOボタンを押し、表示窓に「STEREO」を点灯させる。

→ 受信状態が悪い。症状「雑音が入る／受信できない」を参照し、アンテナの状態を確認する。

MDに録音中、ザーザーという雑音が周期的に入る。

→ アンテナの設置位置が適切でない。雑音が消える位置までアンテナを動かす。

「FM Tuner」ソフトウェアの「プリセット設定」で設定したはずの受信地域などのプリセットが使えない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、プリセットが工場出荷時の設定に戻った。
PCモードで本機の電源を入れ、設定し直す。（122ページ）

「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp）には「Q&A Search」があり、VAIOに関する質問に対する回答を掲載しています。
「Q&A Search」を使うにはあらかじめインターネットに接続するよう設定しておいてください。インターネットの接続については、別冊の「はじめにお読みください」および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［お気に入り］にポインタを合わせ、［ソニーお勧めのサイト］を選び、［VAIOカスタマーリンク］をクリックする。**
インターネットに接続してホームページを見るためのソフトウェアが起動し、VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

2 **［Q&A Search］をクリックする。**
「Q&A検索」画面が表示されます。

3 **検索したい内容を入力し、 検 索 をクリックする。**
「検索結果一覧」画面が表示されます。

4 **読みたい文面をクリックする。**
回答の内容が表示されます。

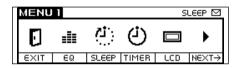
ちょっと一言
VAIOカスタマーリンクのホームページではVAIOに関する最新情報や、アップデートプログラムなどもあります。困ったら、まず1度ご覧ください。

その他

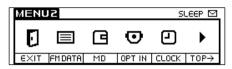
前面パネルのボタンを使ったその他の操作

ここでは、「AV機能操作編」（67ページ）でご紹介できなかった前面パネルのボタンを使った操作のしかたについて説明します。

MENU1

イコライザを設定したりタイマー設定を確認したりできます。前面パネルのMENUボタンを押すと表示されます。

ボタン		機能
マルチファンクションボタン		
	FC1（EXIT）	表示窓の画面をメニューに入る前に戻す。
	FC2（EQ）	プリセットイコライザを選択したりイコライザのマニュアル設定をする画面が表示される。（166ページ）
	FC3（SLEEP）	スリープタイマーを設定する画面が表示される。（137ページ）
	FC4（TIMER）	「MX Stage」で設定したタイマーの設定内容を確認する画面が表示される。
	FC5（LCD）	表示窓の明るさやコントラストを設定する画面が表示される。（254ページ）
	FC6（NEXT →）	「MENU2」を表示する。
MENU		メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

MENU2

FM文字放送のページの自動送りの速度やMDのスマートスペースを設定したり、OPTICAL INコネクタを設定したりできます。前面パネルのMENUボタンを押し、「MENU1」を表示させたあと、FC6（NEXT→）ボタンを押すと表示されます。

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	表示窓の画面をメニューに入る前に戻す。
FC2（FM DATA）	FM文字放送受信時に表示窓に表示される文字放送番組の情報のページが自動送りされる速度を調整する画面が表示される。（254ページ）
FC3（MD）	MD録音時のスマートスペース機能を設定する画面が表示される。（255ページ）
FC4（OPT IN）	OPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器を設定する画面が表示される。（255ページ）
FC5（CLOCK）	表示窓に表示する時刻の表示のしかたを設定する画面が表示される。（257ページ）
FC6（TOP →）	「MENU1」を表示する。
MENU	メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

LCD設定

表示窓の表示の明るさやコントラストを調整します。

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU1」に戻る。
FC3（☼ −）	押すごとに、表示窓の明るさが暗くなる。
FC4（☼ +）	押すごとに、表示窓の明るさが明るくなる。
FC5（◑ −）	押すごとに、表示窓のコントラストが弱くなる。
FC6（◑ +）	押すごとに、表示窓のコントラストが強くなる。
MENU	メニューから抜けてメニューに入る前の画面へ戻る。

FM DATA設定

FM文字放送受信時に表示窓に表示される文字放送番組の情報のページが自動送りされる速度を調整します。

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU2」に戻る。
FC5（−）	押すごとに、ページ送りが遅くなる。
FC6（+）	押すごとに、ページ送りが速くなる。

MD設定

MD録音中のスマートスペース機能の設定を行います。
スマートスペース機能をONに設定すると、MDへの録音中に無音状態が続いたあとで音声が再び入力された場合、曲間を録音状態のまま約3秒に短縮します。ただし、無音状態が30秒以上続いた場合は、曲間を約3秒に短縮してから録音が停止します。この場合、実際の表示と録音時間がずれることがあります。

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU2」に戻る。
FC5（ON）	スマートスペース機能を設定する。
FC6（OFF）	スマートスペース機能の設定を解除する。
MENU	メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

OPT IN設定

本機後面のOPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器について設定します。

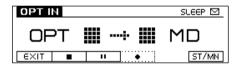
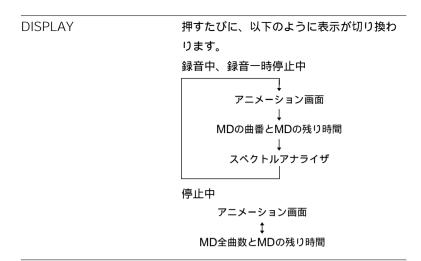
ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU2」に戻る。
FC5（ON）	OPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器を使えるように設定する。
FC6（OFF）	設定を解除する。
MENU	メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

次のページにつづく

OPT IN（再生時）

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションを「CD」へ切り替える。
REC	デジタル機器から入力する音声をMDへ録音する画面が表示される。（下記）

OPT IN（録音時）

本機のOPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器から入力される音声を本機のMDに録音します。

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	表示窓の画面を一つ前に戻す。
FC2（■）	録音を停止する。
FC3（❚❚）	録音中に押すと録音を一時停止する。
FC4（●）	録音待機状態にする。
FC6（ST／MN）	録音する音声のステレオ／モノラルを切り替える。

CLOCK設定

表示窓に表示される時刻の表示のしかたを設定します。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU1」に戻る。
FC5（24H）	時刻を24時間表示にする。
FC6（AM/PM）	時刻を12時間表示にする。
MENU	メニューから抜けてメニューに入る前の画面へ戻る。

ご注意

この画面では時刻の設定はできません。時刻の設定を変更するときは、以下の手順に従ってください。

1 **本機の⏻（電源）ボタンを押して、PCモードに入る。**

2 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 **［日付と時刻］をダブルクリックして表示される画面で設定を変更する。**

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROMを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って本機を再セットアップすることで、ハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。
  詳しくは「パーティションサイズを変更する」(262ページ)をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って行ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を標準設定にしてから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。リカバリ CDを使って本機を再セットアップすると、C:ドライブにあるファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。
C:ドライブに保存している大切なデータは、再セットアップを行う前に必ずバックアップを取ってください。

保存しているデータは、次の方法で残しておくことができます。

- フロッピーディスクにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないか。
- 本機がPCモードで起動しているか。オーディオモードになっているときは、いったん電源を切り（69ページ）、本機前面の ⏻（電源）ボタンを押してPCモードで起動し直してください。

以下の手順に従って再セットアップします。

1 **付属の「システム リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。**

入れかたについて詳しくは、77ページの手順4をご覧ください。

2 **Windows 98が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。**

Windows 98の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（33ページ）をご覧ください。

3 **30秒ほど待ってから、⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。**

しばらくするとDVD-ROMドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

4 **「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。**

メニュー画面が表示されます。

5 **再セットアップの方法を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.リカバリ CDを終了する...」：再セットアップを中止します。

6 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうか聞かれたときは、[Y ん]キーを押して[Enter](エンター)キーを押してください。

7 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、本機の電源を切る。**

8 **本機の電源を入れる。**

9 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」の手順に従って、Windows 98をセットアップする。**

10 **Windows 98のセットアップが終了したら、「アプリケーションリカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK]をクリックしてください。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「LOAD SETUP DEFAULTS」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」は本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた」(18ページ)をご覧ください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリCDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのためデータスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 98はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するには非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 「再セットアップする」(260ページ) **の手順**1〜4**を行う。**

2 メニュー画面が表示されたら、「2.**パーティションサイズの変更…」を選び、**Enter**(エンター) キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。

Esc(エスケープ)キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 パーティションサイズを選び、Enter**(エンター) キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、N みキーを押してからEnter(エンター)キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうかを聞かれたときはY んキーを押し、Enter(エンター)キーを押してください。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 「再セットアップする」(261ページ) **の手順**7〜10**を行う。**

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。
- スピーカーの近くに磁気を発生するもの（健康器具、玩具など）を置くと、相互作用でテレビ画面に色むらが起こりやすくなります。設置場所にご注意ください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

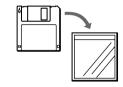
バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。

- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

その他

次のページにつづく

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。また、本機にはシステムを自動監視する「VShield」ソフトウェアはあらかじめインストールされていません。この機能をご利用になるには、右記の「「VShield」ソフトウェアをインストールするには」の手順に従って「VShield」ソフトウェアをインストールする必要があります。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www/nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
  ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポート
  電話番号：(03) 3379-7770

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

「VShield」ソフトウェアをインストールするには

以下の手順に従って「VirusScan」をインストールします。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［McAfee VirusScan］の［McAfee VirusScan セットアップ］をクリックする。**

VirusScanのインストーラが起動し、「セットアップへようこそ」画面が表示されます。

2 **［次へ］をクリックする。**

「ソフトウェアの使用許諾契約書」画面が表示されます。

3 **内容を確認後、「はい」をクリックする。**

「インストール済みの現在のバージョンが見つかりました！」画面が表示されます。

4 **［保存］をクリックする。**

「コンポーネントの選択」画面が表示されます。

5 **［次へ］をクリックする。**

「オプションの選択」画面が表示されます。

6 **「ブート時にシステムをスキャン」のチェックをはずし、［次へ］をクリックする。**

「プログラムフォルダの選択」画面が表示されます。

7 **［次へ］をクリックする。**

「インストール設定の確認」画面が表示されます。

8 **［次へ］をクリックする。**

「エマージェンシーディスクウィザード」画面が表示されます。

9 **画面の指示に従って操作し、エマージェンシーディスクを作成する。**

10 **画面の指示に従って本機を再起動する。**

操作がわからなくなったときは、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［McAfee VirusScan］、［必ずお読みください］の順にクリックします。
またはヘルプメニューをクリックします。

「VShield」ソフトウェアをご使用になる際のご注意

- 「VShield」ソフトウェアのインストールを行うと、次回起動時から「VShield」がデスクトップ画面右下のタスクトレイに常駐し、ウイルスの自動監視を行います。「VShield」ソフトウェアはメモリに常駐するため、Windowsのシステムリソースを消費します。そのため、各種ソフトウェアの連携操作を行った場合、複数のソフトウェアの起動によりWindowsのリソースが不足して次のようなメッセージが表示され、本機が正しく動作しなくなることがあります。
「90パーセント以上のシステムリソースが現在使用されています。使用していないプログラムを終了し、システムリソースを開放しないと、コンピュータが応答しなくなる可能性があります」
この場合は、タスクトレイにあるとをそれぞれ右クリックし、［終了］にポインタを合わせてクリックしてください。
- 「VShield」ソフトウェアのインストールにより、Windowsの起動時間が長くなる場合があります。

その他

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーをテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起こります。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

FM文字放送について

- 本機のFMラジオは日本国内用です。海外では放送方式が異なりますので、FM文字放送を受信することができません。
- 本機はVICS（交通情報サービス）に対応していないため、受信することはできません。
- FM文字放送の内容について、当社では責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 情報の内容について、個人として楽しむなどのほかは、権利者に無断で使用できません。

FMラジオ放送が受信できても、FM文字放送が受信できない場合があります。

- FMラジオ放送と受信方式が異なるので、FMラジオ放送がある程度受信できても電波の強さによりFM文字放送が受信できない場合があります。またはFM放送局が文字放送を行っていない場合もあります。
- 付属のFMアンテナの位置を少し動かすだけで良好に受信できることがあります。より受信条件の良い場所を探してください。

音量を調節するときは

ディスクはレコードとくらべ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。

演奏をはじめる前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。

特に、夜は小さめな音でも周囲には良く通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

ディスクの取り扱いについて

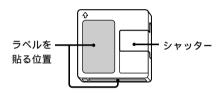
ディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。

- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。記録面には触れないでください。

- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

MDの取り扱いについて

- シャッターを無理に開けようとすると、壊れることがあります。シャッターが開いてしまった場合は、内部のディスクに直接触れずに、すぐ閉めてください。
- ディスクに付属のラベルはシャッターの周りなど所定以外の場所には貼らないでください。必ずラベル用のくぼみに貼ってください。くぼみの形はディスクによって異なります。

- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。

MDのシステム上の制約

MDではいくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音時間に達していなくても、表示窓に「DISC FULL」が表示される

255曲録音されると、それ以上の録音はできません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音するか、別のMDを使ってください。

曲数（最大255曲まで）にも録音時間にも余裕があるのに「DISC FULL」が表示される

曲中にエンファシス情報などの入り切りが多く行われたり、録音や編集をくり返し行うと、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「DISC FULL」が表示されます。

曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない

ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視します。このため、短い曲を何曲消しても、録音できる残り時間が増えないことがあります。

曲をつなげない

つなごうとする曲の長さが8秒以下のとき、その曲の曲番を消して曲をつなぐことはできません。また、編集を行ってできた曲はつなぐことができない場合があります。

ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間と一致しない

通常、録音は約2秒を最小単位としてディスクに記録します。2秒に満たない場合でも、実際には2秒分のスペースを使います。このため、実際に録音できる時間は少なくなります。また、MDに傷があるとその部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

編集した曲を再生しながら早送り、巻戻しすると音が途切れる

再生しながら早送り、巻戻しするときは通常より高速で再生します。このため、短い曲がディスクの上に分散していると探すのに時間がかかり、音が途切れることがあります。

曲番が曲の頭に付かない

レベルシンクロ録音中でも、次のときは曲番が曲の頭に付かないことがあります。

- 曲の間が短くて一定レベル以下になるのが2秒未満のとき
- 曲の途中でも2秒以上一定レベル以下になるとき

デジタルオーディオをコピーするときのルール ― シリアルコピーマネージメントシステム

デジタルオーディオでは、音声信号をデジタルでやりとりします。コンパクトディスク（CD）、ミニディスク（MD）、デジタルオーディオテープ（DAT）、衛星デジタル音楽放送などがこれに当たります。これらは音楽を手軽に、劣化の少ない状態でコピーできます。このため、音楽ソフトの著作権を保護するコピー規制が必要になりました。それが「シリアルコピーマネージメントシステム」です。本機の設計はこのシステムに準拠しています。概要は以下の通りです。

デジタル信号同士のコピー*は1世代まで

原則1

市販のデジタル音楽ソフトのコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

原則2

市販のアナログ音楽ソフト（アナログレコードやカセットテープなど）や公共放送をデジタル録音したもののコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

* コピーとは「デジタル信号をデジタル信号のまま録音したもの」を指します。本機では、本機のCDプレーヤーからMDデッキへの録音で、コピーを作れます。

ご注意

- アナログ入出力端子同士をつないで録音した場合は、この原則に当たりません。
- 本機はMDのサンプリング周波数（44.1kHz）と異なるDATや衛星デジタル音楽放送のサンプリング周波数（32kHz、48kHz）に対応するMDデッキを備えています。衛星デジタル音楽放送を録音する場合は、デジタル信号同士のコピーは2世代までできます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

ディスクのお手入れ

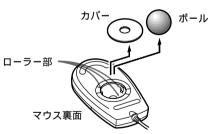
- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外側へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

MDのお手入れ

定期的にカートリッジ表面についたほこりやゴミを乾いた布で拭きとってください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。

- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。

当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**PCV-MX2
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

部品の交換について

この製品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意いただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

モード別リモコン操作一覧

ここでは、PCモード別およびオーディオモード別でのリモコンの操作について説明しています。リモコンをお手にとりながら本機のオーディオ機能などを操作できます。「各部の名称と働き」（20ページ）もあわせてご覧ください。

PCモード

ディスクを再生する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

音楽CD／ビデオCD／DVDビデオ共通

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ PLAYを押す。
止める	□ STOPを押す。
一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ PAUSEまたは▷ PLAYを押す。
再生中にチャプター[1]や映像、曲を進める	▷▷▯ NEXTを押す。
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	▯◁◁ PREVを押す。
再生中に画面を見ながら（音を聞きながら）探す	◀◀ STEP／SCAN －または ▶▶ STEP／SCAN ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	VOL ＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。

[1] DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（92ページ）をご覧ください。

音楽CDのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、 または が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）	PLAY MODEボタンを、「SHUF」が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
再生するやトラック[2]を選ぶ	数字ボタンで再生したいトラックの番号を押す。10トラック目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す。（99トラックまで） 選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。
時間表示を切り替える	DISPLAYボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 →コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間 →パッケージ経過時間 →パッケージ残り時間 →

[2] ビデオCDや音楽CDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（92ページ）をご覧ください。

ビデオCDのみ

こんなときは	操作のしかた
選択用のメニュー画面に戻る（PBC再生中）	一般的なPBC対応のビデオCDでは、 RETURNボタンまたは ⏮PREV、⏭ NEXTのいずれかのボタンを押す。
音声を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。

こんなときは	操作のしかた
時間表示を切り替える	DISPLAYボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 トラック経過時間 ↕ トラック残り時間

DVDビデオのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、タイトル またはチャプター が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
字幕を表示する	再生中、SUBTITLEボタンを、好みの字幕が表示されるまで押す。
音声を切り替える	AUDIOボタンを好みの音声が選択されるまで押す。
アングルを切り替える	再生中、ANGLEボタンを、好みのアングルが表示されるまで押す。
タイトル[3] メニューで好きなタイトルを選ぶ	1 TITLEボタンを押してタイトルメニューを表示させる。 2 再生したいタイトルを⇦／⇧／⇩／⇨ボタンで選び、ENTERボタンを押す。
DVDメニューで好きな項目を選ぶ	1 DVD MENUボタンを押してDVDメニューを表示させる。 2 再生したい項目を⇦／⇧／⇩／⇨ボタンで選び、ENTERボタンを押す。

時間表示を切り替える	DISPLAYボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 **タイトル経過時間** ↕ **タイトル残り時間**

3) DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（92ページ）をご覧ください。

ご注意

再生するDVDビデオによっては動作しない機能があります。

MDを再生する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「MD」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ PLAYを押す。
止める	□ STOPを押す。
一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
曲を進める	▷▷▯ NEXTを押す。
曲を戻す	▯◁◁ PREVを押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ STEP／SCAN －または ▶▶ STEP／SCAN ＋を聞きたいところまで押し続ける。
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、ENTERボタンを押す。 選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。

その他

次のページにつづく

こんなときは	操作のしかた
音量を調節する	VOL＋／－ボタンを押す。
時間表示を切り替える	DISPLAYボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り替わります。 →コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間 パッケージ残り時間 ←パッケージ経過時間←

音楽CDをMDに録音する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
「Media Bar」ソフトウェアで再生指定中の音楽CDのすべての曲をMDに録音する	REC ALLボタンを押し、⏸ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
「Media Bar」ソフトウェアで再生指定中の音楽CDの中の1曲をMDに録音する	⏮ PREVまたは⏭ NEXTボタンで録音したい曲を選んでからREC ITボタンを押し、⏸ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
録音を止める	□ STOPを押す。

FMラジオをMDに録音する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
録音する	● RECを押す。
録音を止める	□ STOPを押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。

FMラジオを聞く

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
前回受信したFM放送局を受信する	▻ PLAYを押す。
プリセット局を直接選んで受信する	受信したいプリセット局の番号の数字ボタン（1〜8のいずれか）を押す。
プリセット局を探す	⧏◅◅ PREV／▻▻⧐ NEXTを押す。
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ STEP／SCAN −または▶▶ STEP／SCAN ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀ STEP／SCAN −または▶▶ STEP／SCAN ＋を2秒以上押す。
音量を調節する	VOL＋／−ボタンを押す。
FMラジオ音声のみをミュート（消音）する	□STOPを押す。ミュートを解除するときは、▻ PLAYを押す。
音声（ステレオ／モノラル）を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
FMラジオをMDに録音する	●RECを押す。

オーディオモード

音楽CDを再生する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ PLAYを押す。
止める	□ STOPを押す。
一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
再生中に曲を進める	▷▷I NEXTを押す。
再生中に曲を戻す	I◁◁ PREVを押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ STEP／SCAN －または ▶▶ STEP／SCAN ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	VOL＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す。（99曲まで） 選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、⮎または⮎ 1が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	PLAY MODEボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

MDを再生する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「MD」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ PLAYを押す。
止める	□ STOPを押す。
一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
曲を進める	▷▷▯ NEXTを押す。
曲を戻す	▯◁◁ PREVを押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ STEP／SCAN −または ▶▶ STEP／SCAN ＋を聞きたいところまで押し続ける。
音量を調節する	VOL ＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	MUTINGボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、ENTERボタンを押す。選んだ数字を取り消すときはCANCELボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	PLAY MODEボタンを、⮌または⮌ 1が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	PLAY MODEボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

音楽CDをMDに録音する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
音楽CDすべての曲をMDに録音する	● RECまたはREC ALLボタンを押し、▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
音楽CDの中の1曲をMDに録音する	⏮ PREVまたは⏭ NEXTボタンで録音したい曲を選んでからREC ITボタンを押し、▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
録音を止める	□ STOPを押す。
音量を調節する	VOL＋／－ボタンを押す。

FMラジオをMDに録音する

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
録音する	● RECを押す。
録音を止める	□ STOPを押す。
録音を一時停止する	▯▯ PAUSEを押す。
一時停止したあと、録音を再開する	▯▯ PAUSEまたは ▷ PLAYを押す。
音量を調節する	VOL＋／－ボタンを押す。

FMラジオを聞く

リモコンのファンクション切り替えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
前回受信したFM放送局を受信する	▷ PLAYを押す。
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ STEP／SCAN －または▶▶ STEP／SCAN ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
プリセット局を直接選んで受信する	受信したいプリセット局の番号の数字ボタン（1～8のいずれか）を押す。
プリセット局を探す	⏮ PREVまたは⏭ NEXTを押す。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀ STEP／SCAN －または▶▶ STEP／SCAN ＋を2秒以上押す。
音量を調節する	VOL＋／－ボタンを押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り替える	AUDIOボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
FMラジオをMDに録音する	●RECを押す。

スリープタイマーを設定する

音楽CDやMDの再生中、FMラジオの受信中に、SLEEPボタンを希望の時間が表示されるまでくり返し押す。

スーパーエリアコール周波数一覧

1 北海道 （北海道）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		AIR-G'（FM 北海道）	FM NORTH WAVE	NHK FM					
周波数	S1	80.4	82.5	85.2	–	–	–	–	–
	S2	76.4	77.2	81.6	–	–	–	–	–
	S3	78.5	79.4	84.3	–	–	–	–	–
	S4	79.2	79.5	84.5	–	–	–	–	–
	S5	81.9	79.8	85.8	–	–	–	–	–
	S6	83.1	80.7	86.0	–	–	–	–	–
	S7	86.4	82.1	87.0	–	–	–	–	–
	S8	87.8	–	87.5	–	–	–	–	–
	S9	88.8	–	88.0	–	–	–	–	–
	S10	89.4	–	88.2	–	–	–	–	–
	S11	–	–	88.5	–	–	–	–	–

2 東北 1 （青森 秋田 岩手）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 岩手	FM 青森	FM 秋田	NHK FM				
周波数	S1	76.1	80.0	82.8	86.0	–	–	–	–
	S2	77.0	78.4	77.1	81.8	–	–	–	–
	S3	79.2	81.3	77.7	82.7	–	–	–	–
	S4	79.7	84.3	78.0	83.1	–	–	–	–
	S5	80.3	–	78.9	83.4	–	–	–	–
	S6	80.7	–	89.2	83.6	–	–	–	–
	S7	82.2	–	89.7	83.8	–	–	–	–
	S8	85.9	–	–	84.9	–	–	–	–
	S9	89.3	–	–	86.7	–	–	–	–
	S10	–	–	–	88.3	–	–	–	–

3 東北 2 （宮城 山形 福島）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		Date fm（FM 仙台）	FM 山形	ふくしま FM	NHK FM				
周波数	S1	77.1	80.4	81.8	82.5	–	–	–	–
	S2	81.3	76.9	78.6	82.1	–	–	–	–
	S3	81.4	77.3	79.8	83.3	–	–	–	–
	S4	84.1	78.2	82.8	83.6	–	–	–	–
	S5	–	–	–	84.2	–	–	–	–
	S6	–	–	–	84.3	–	–	–	–
	S7	–	–	–	84.6	–	–	–	–
	S8	–	–	–	85.3	–	–	–	–
	S9	–	–	–	85.9	–	–	–	–
	S10	–	–	–	86.0	–	–	–	–
	S11	–	–	–	86.1	–	–	–	–
	S12	–	–	–	88.3	–	–	–	–

4 関東 1 （千葉 埼玉 東京 神奈川）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		Inter FM	BAY-FM（FM サウンド千葉）	NACK5（FM 埼玉）	TOKYO FM（FM 東京）	J-WAVE（FM ジャパン）	NHK FM	FM ヨコハマ	放送大学
周波数	S1	76.1	78.0	79.5	80.0	81.3	82.5	84.7	77.1
	S2	76.5	77.7	77.5	76.7	–	80.7	80.4	78.8
	S3	–	79.3	–	84.3	–	81.9	–	–
	S4	–	79.7	–	–	–	83.5	–	–
	S5	–	87.4	–	–	–	83.7	–	–
	S6	–	–	–	–	–	83.9	–	–
	S7	–	–	–	–	–	85.1	–	–

5 関東 2 （茨城 群馬 栃木）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		RADIO BERRY（FM 栃木）	放送大学	NHK FM	FM ぐんま				
周波数	S1	76.4	78.8	83.2	86.3	–	–	–	–
	S2	78.3	77.1	80.3	76.7	–	–	–	–
	S3	78.5	–	81.6	77.8	–	–	–	–
	S4	79.1	–	82.9	79.4	–	–	–	–
	S5	84.4	–	83.4	82.0	–	–	–	–
	S6	–	–	83.7	82.2	–	–	–	–
	S7	–	–	84.2	–	–	–	–	–

6 中部 （山梨 静岡 長野）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		K-MIX（FM 静岡）	FM 長野	FM-FUJI	NHK FM				
周波数	S1	79.2	79.7	83.0	88.8	–	–	–	–
	S2	78.4	78.1	78.6	77.4	–	–	–	–
	S3	78.6	80.3	80.5	82.1	–	–	–	–
	S4	80.3	81.8	–	83.0	–	–	–	–
	S5	80.5	83.3	–	83.8	–	–	–	–
	S6	81.6	86.4	–	84.0	–	–	–	–
	S7	83.0	88.3	–	84.2	–	–	–	–
	S8	85.8	–	–	84.8	–	–	–	–
	S9	85.9	–	–	84.9	–	–	–	–
	S10	86.6	–	–	85.3	–	–	–	–
	S11	–	–	–	85.6	–	–	–	–
	S12	–	–	–	85.7	–	–	–	–
	S13	–	–	–	86.0	–	–	–	–

7 東海 （愛知 岐阜 三重）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		ZIP-FM（FM 名古屋）	FM 三重	FM AICHI（FM 愛知）	NHK FM				
周波数	S1	77.8	78.9	80.7	82.5	–	–	–	–
	S2	77.1	78.1	81.3	81.8	–	–	–	–
	S3	–	80.4	–	82.8	–	–	–	–
	S4	–	83.2	–	83.6	–	–	–	–
	S5	–	84.9	–	84.4	–	–	–	–
	S6	–	85.5	–	84.5	–	–	–	–
	S7	–	85.7	–	84.8	–	–	–	–
	S8	–	–	–	85.3	–	–	–	–
	S9	–	–	–	85.8	–	–	–	–
	S10	–	–	–	86.1	–	–	–	–

8 北陸 （新潟 富山 石川 福井）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 福井	FM 新潟	FM 石川	NHK FM	FM とやま			
周波数	S1	76.1	77.5	80.5	82.3	82.7	–	–	–
	S2	80.3	80.4	78.4	81.5	84.6	–	–	–
	S3	82.0	84.7	81.9	82.2	85.8	–	–	–
	S4	82.5	86.5	85.5	83.4	–	–	–	–
	S5	84.7	–	89.9	83.5	–	–	–	–
	S6	86.4	–	–	84.4	–	–	–	–
	S7	–	–	–	84.9	–	–	–	–
	S8	–	–	–	86.0	–	–	–	–

9 近畿 1 （大阪 京都 兵庫）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM CO•CO•LO（関西インターメディア）	FM802	fm osaka（FM 大阪）	NHK FM	α-STATION（FM 京都）	Kiss-FM（FM 兵庫）		
周波数	S1	76.5	80.2	85.1	88.1	89.4	89.9	–	–
	S2	–	78.3	77.4	82.8	79.8	77.6	–	–
	S3	–	–	–	82.9	81.3	78.3	–	–
	S4	–	–	–	83.9	85.4	78.4	–	–
	S5	–	–	–	84.2	87.2	79.9	–	–
	S6	–	–	–	84.8	–	87.1	–	–
	S7	–	–	–	86.5	–	87.9	–	–
	S8	–	–	–	88.6	–	–	–	–

10 近畿 2 （滋賀 奈良 和歌山）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		E-Radio（FM 滋賀）	FM802	NHK FM	fm osaka	α-STATION（FM 京都）			
周波数	S1	77.0	80.2	84.0	85.1	89.4	–	–	–
	S2	–	78.3	81.8	77.4	79.8	–	–	–
	S3	–	–	82.8	–	81.3	–	–	–
	S4	–	–	83.2	–	85.4	–	–	–
	S5	–	–	83.7	–	87.2	–	–	–
	S6	–	–	83.8	–	–	–	–	–
	S7	–	–	83.9	–	–	–	–	–
	S8	–	–	84.7	–	–	–	–	–
	S9	–	–	87.4	–	–	–	–	–
	S10	–	–	88.1	–	–	–	–	–

11 中国 （鳥取 島根 岡山 広島 山口）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 岡山	FM 山陰	広島 FM 放送	FM 山口	NHK FM			
周波数	S1	76.8	77.4	78.2	79.2	88.3	–	–	–
	S2	80.4	77.2	76.4	77.7	80.1	–	–	–
	S3	84.1	78.8	77.1	77.9	83.1	–	–	–
	S4	81.3	82.1	77.8	78.6	83.3	–	–	–
	S5	82.9	83.4	80.4	81.6	83.7	–	–	–
	S6	83.8	86.6	81.3	82.1	84.0	–	–	–
	S7	84.3	–	81.4	88.6	84.3	–	–	–
	S8	–	–	81.7	–	84.5	–	–	–
	S9	–	–	82.1	–	84.8	–	–	–
	S10	–	–	82.3	–	85.3	–	–	–
	S11	–	–	83.5	–	85.5	–	–	–
	S12	–	–	85.5	–	85.7	–	–	–
	S13	–	–	86.3	–	85.8	–	–	–
	S14	–	–	–	–	85.9	–	–	–
	S15	–	–	–	–	88.7	–	–	–

12 四国 （徳島 香川 愛媛 高知）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 香川	FM 愛媛	FM 徳島	FM 高知	NHK FM			
周波数	S1	78.6	79.7	80.7	81.6	86.0	–	–	–
	S2	–	77.6	77.7	78.5	83.4	–	–	–
	S3	–	78.8	78.4	80.6	84.4	–	–	–
	S4	–	80.0	82.3	81.3	84.8	–	–	–
	S5	–	82.1	–	82.7	86.5	–	–	–
	S6	–	89.2	–	–	87.0	–	–	–
	S7	–	–	–	–	87.5	–	–	–
	S8	–	–	–	–	87.7	–	–	–

13 九州 1 （福岡 佐賀 長崎 大分）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		Love FM (九州国際FM)	FM 佐賀	CROSS-FM (FM 九州)	SMILE-FM (FM 長崎)	FM 福岡	NHK FM	FM 大分	
周波数	S1	76.1	77.9	78.7	79.5	80.7	84.8	88.0	–
	S2	82.7	79.9	77.0	77.8	80.0	81.6	80.7	–
	S3	–	–	86.5	78.9	81.3	82.2	81.8	–
	S4	–	–	87.2	79.2	81.8	82.8	84.9	–
	S5	–	–	87.8	80.3	82.1	82.9	85.1	–
	S6	–	–	–	89.3	87.0	83.0	89.3	–
	S7	–	–	–	–	–	83.4	–	–
	S8	–	–	–	–	–	83.6	–	–
	S9	–	–	–	–	–	83.8	–	–
	S10	–	–	–	–	–	84.2	–	–
	S11	–	–	–	–	–	84.5	–	–
	S12	–	–	–	–	–	85.7	–	–
	S13	–	–	–	–	–	85.8	–	–
	S14	–	–	–	–	–	86.0	–	–
	S15	–	–	–	–	–	86.2	–	–
	S16	–	–	–	–	–	88.9	–	–

14 九州 2 （熊本 宮崎 鹿児島 沖縄）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 中九州	FM 鹿児島	FM 宮崎	NHK FM	FM 沖縄 (旧FEN)	AFN		
周波数	S1	77.4	79.8	83.2	86.2	87.3	89.1	–	–
	S2	76.8	76.6	80.7	82.2	83.7	–	–	–
	S3	78.4	79.0	84.9	82.5	–	–	–	–
	S4	80.4	80.5	89.5	82.8	–	–	–	–
	S5	81.3	–	–	83.7	–	–	–	–
	S6	82.0	–	–	84.1	–	–	–	–
	S7	–	–	–	84.7	–	–	–	–
	S8	–	–	–	84.8	–	–	–	–
	S9	–	–	–	85.4	–	–	–	–
	S10	–	–	–	85.6	–	–	–	–
	S11	–	–	–	87.0	–	–	–	–
	S12	–	–	–	88.1	–	–	–	–

FM文字放送局一覧

FM文字放送は、以下の放送局で実施されています。（1997年12月現在）
周波数については、「スーパーエリアコール周波数一覧」（286ページ）でご確認ください。

JFN（全国FM放送協議会）系「見えるラジオ」

AIR-G'（北海道）
FM岩手
エフエム青森
FM秋田
FM仙台
FM山形
ふくしまFM
TOKYO FM
エフエム栃木
FM群馬
K－MIX（静岡）
FM長野
FM三重
FM-AICHI
FM福井
FM新潟
FM石川
FMとやま
fm osaka
エフエム滋賀
FM山陰
広島FM
FM山口
FM香川
FM愛媛
FM徳島
FM高知
FMK（中九州）
FM佐賀
FM長崎
FM福岡
FM大分
FM鹿児島
FM宮崎
FM沖縄

JFL（ジャパンFMリーグ）系

J-WAVE「アラジン」
FM802「Watch-me」

NHK FM主要局

東京、横浜、浦和、千葉、名古屋、京都、神戸、大阪

独立局

Kiss-FM KOBE

文字情報は15文字×2行程度の文字を中心としたサービスとなっています。

表示窓メッセージ一覧

本機を使用中、状況によって英語のメッセージが本機前面の表示窓に表示されます。意味は以下の通りです。

音楽CD

メッセージ	原因／対策
CD EJECT	→ 音楽CDを排出中。
DISC ERR	→ オーディオモードのときにDVDビデオやビデオCDなど、オーディオモードでは再生できないディスクを入れた。
NO DISC	→ ディスクが挿入されていない。
TOC READING	→ 音楽CDの情報を読み取っている。表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。

MD

メッセージ	原因／対策
AUTO CUT	→ 録音中、無音状態が30秒以上続いたため、オートカット機能が働き、無音部分（曲間）を約3秒に短縮したあと、録音一時停止状態になった。録音を始めたいところでリモコンの▷または▯▯を押し、録音を再開する。 曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除して録音し直す（255ページ）。
BLANK MD	→ 挿入されたMDには何も録音されていない、またはMD編集のErase（イレース）機能を使って録音内容がすべて削除されている。

その他

メッセージ	原因／対策
CAN'T COPY	→ CD-ROM、ビデオCDなどのフォーマットのディスクをMDに録音しようとしている。ディスクを取り出し、電源を入れなおす。 → 録音しようとした音源が市販の音楽ソフトのコピーになっている。またはCD-Rを録音しようとしている。シリアルコピーマネージメントシステムにより、コピーできない（271ページ）。また、CD-Rは録音できない。
DISC FULL	→ 録音可能時間が残り少なく、録音できない。新しいMDと交換する。
MD＜CD	→ 音楽CDをMDに録音するとき、MDの残りの時間が音楽CDの録音時間より短い。音楽CDを録音するのに充分な空きがありMDと交換する。
MD EJECT	→ MDを排出中。
NO MD	→ MDが挿入されていない。
NO TRACK	→ MDのディスク名は入っているが、曲が入っていない。曲を入れる。
PROTECTED	→ MDが誤消去防止状態になっている。MDを取り出し、録音可能状態にする（104ページ）。
SMART SPACE	→ 録音中、3秒以上、30秒未満の無音状態が続いたため、スマートスペース機能が働き、無音部分が約3秒に短縮された。曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除する。（255ページ）
STANDBY	→ MDのTOCの変更ができなかった。
TOC READING	→ MDの情報を読み取っている。表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。
UNLOCKED	→ 本機後面のOPTICAL INコネクタにつないだMDデッキなどのデジタル機器から音楽データが入ってこない。

電子メール

メッセージ	原因／対策
MAIL	→ 電子メールが届いた。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラ型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラアダプタTL-30
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラローゼットTL-32CRなど
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラジャックコンセントTL-31

[1)] 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

[2)] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

索引

五十音順

ア

カ

サ

タ

その他

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

アルファベット順

A

C

D

F

その他

次のページにつづく

この説明書は再生紙を使用しています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。
また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
（お問い合わせ先　（社）私的録音補償金管理協会　Tel. 03-5353-0336）

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" i "は商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）および MEMORY STICK ™ は、ソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- 本機はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号DD、AC-3およびプロロジックはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。
- Adobe®およびAdobe Acrobat® ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- VirusScanはネットワークアソシエイツ株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは

VAIOカスタマーリンクへ

● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは

VAIOカスタマー専用デスクへ

● 03-3584-6651

VAIOホームページ

VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。

● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ

VAIOの最新サポート情報をご案内します。

● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan